

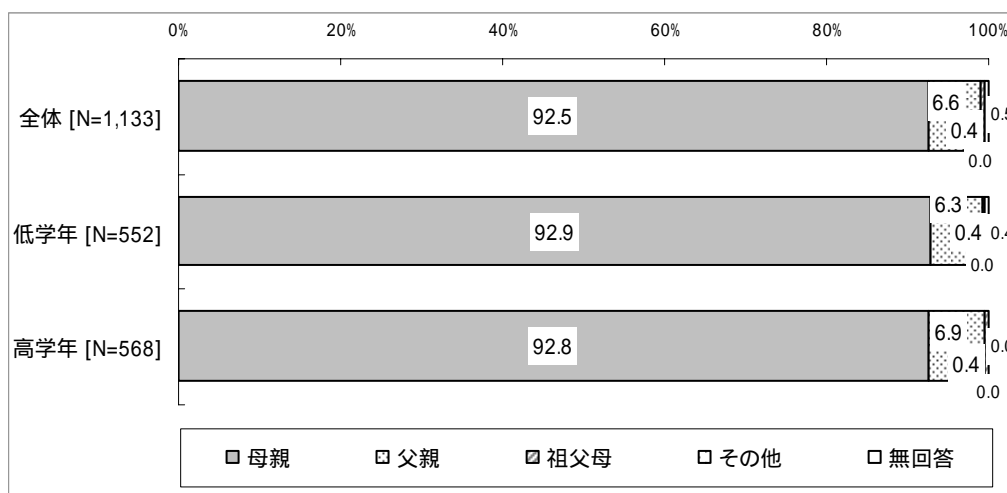
## 2 . 小学生保護者調査結果の分析

### 1 . 調査対象者とその家族の状況

#### ( 1 ) 調査票の回答者

回答者は、「母親」が大半を占めており、92.5%となっています。

図表 II-167 回答者[N=1,133]



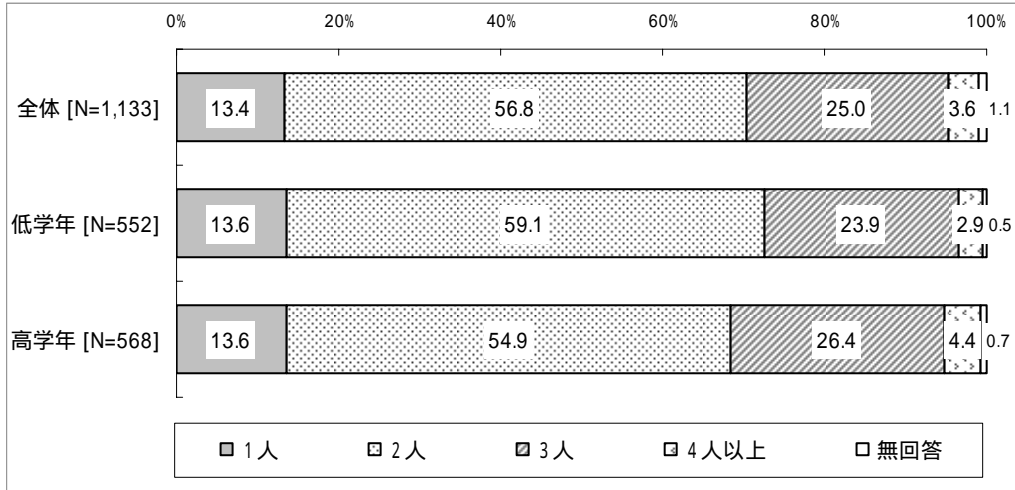
#### グラフの見方

小学生保護者の調査結果は、全体（N=1,133）を集計するとともに、調査対象の児童の学年により、母集団を低学年（N=552）、高学年（N=568）に区分しクロス集計しています。各項目におけるグラフは、上から順番に、全体、低学年、高学年の集計結果となっています。

## (2) 子どもの人数

子どもの人数は、「2人」(56.8%)、「3人」(25.0%)の順に高い割合となっています。

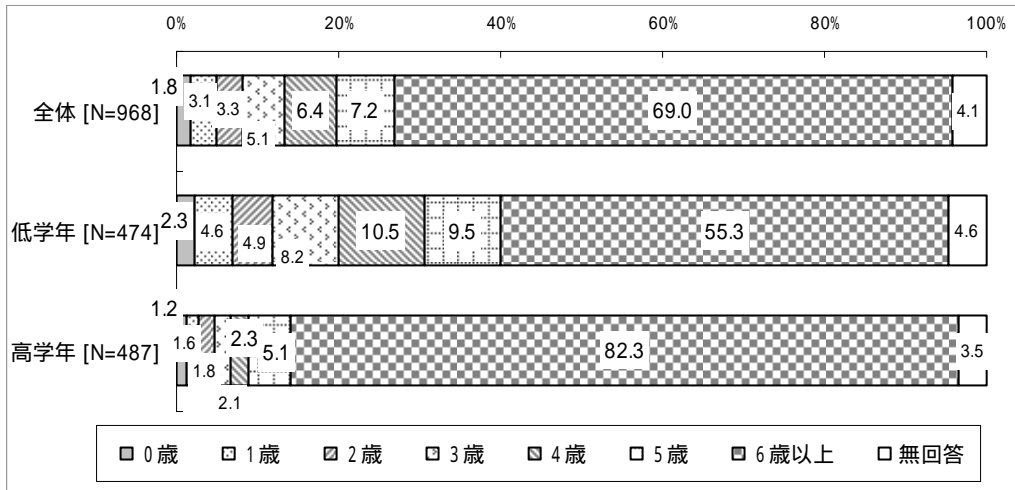
図表 II-168 子どもの人数[N=1,133]



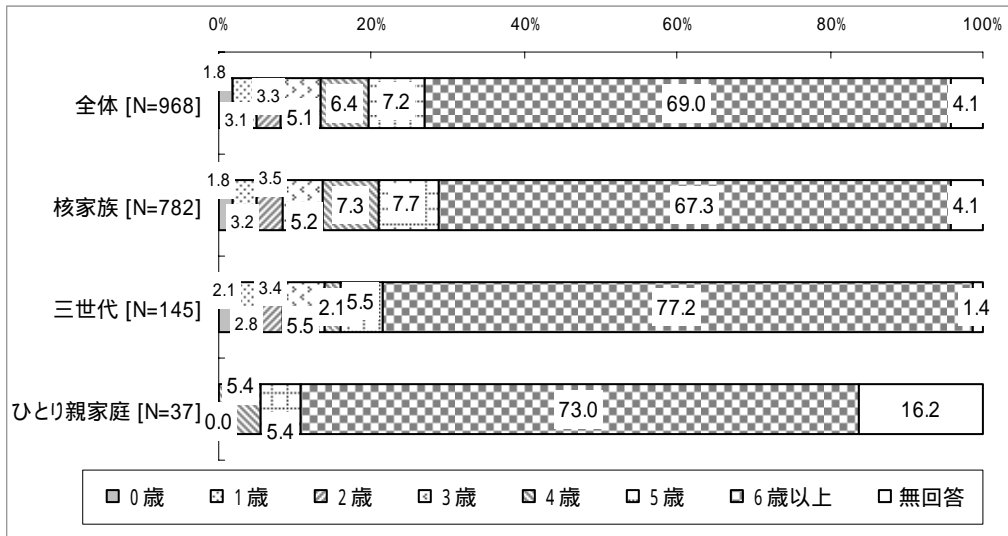
2人以上子どもがいる人に、末子の年齢を聞いたところ、「6歳以上」という人の割合が最も高く69.0%となっています。

これを家族構成別に見ると、「6歳以上」の割合は、三世代で高くなっています。

図表 II-169 末子の年齢[N=968]



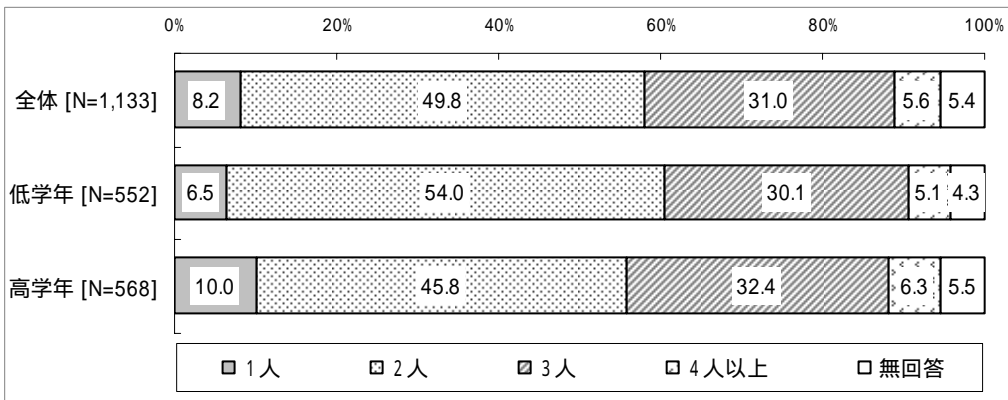
図表 II-170 (家族構成別) 末子の年齢[N=968]



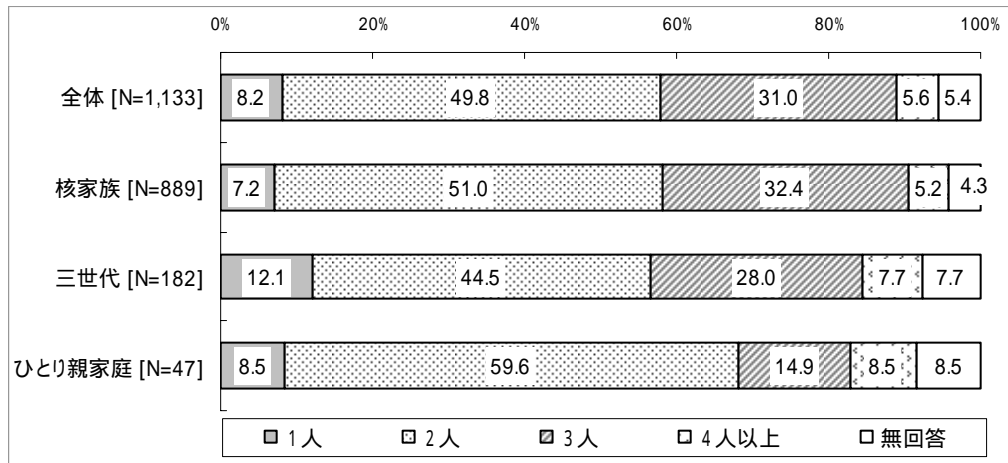
希望する子どもの人数を聞いたところ、「2人」という人の割合が最も高く 49.8%、次いで、「3人」という人の割合が高く 31.0%となっています。

これを家族構成別に見ると、「3人」という人の割合は、核家族で高くなっています。

図表 II-171 希望する子どもの人数[N=1,133]



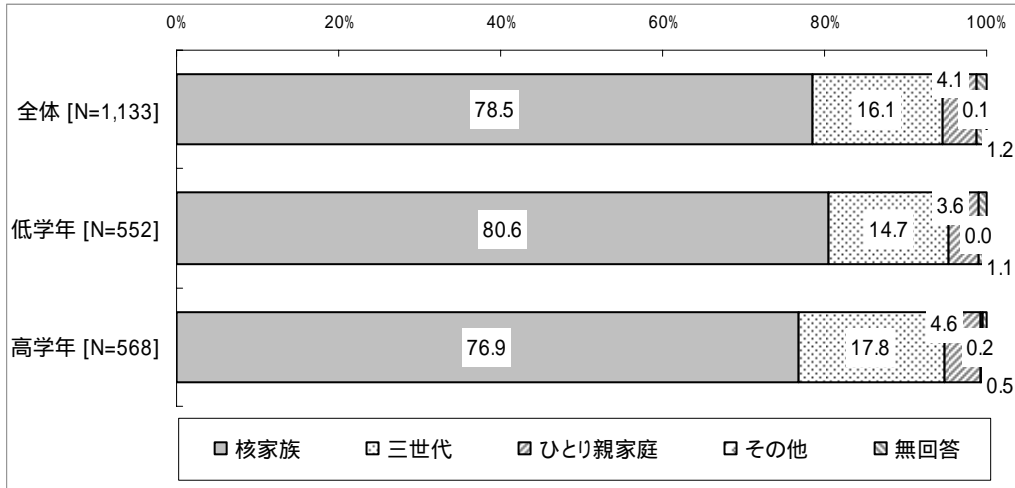
図表 II-172 (家族構成別) 希望する子どもの人数[N=1,133]



### (3) 同居・近居の状況

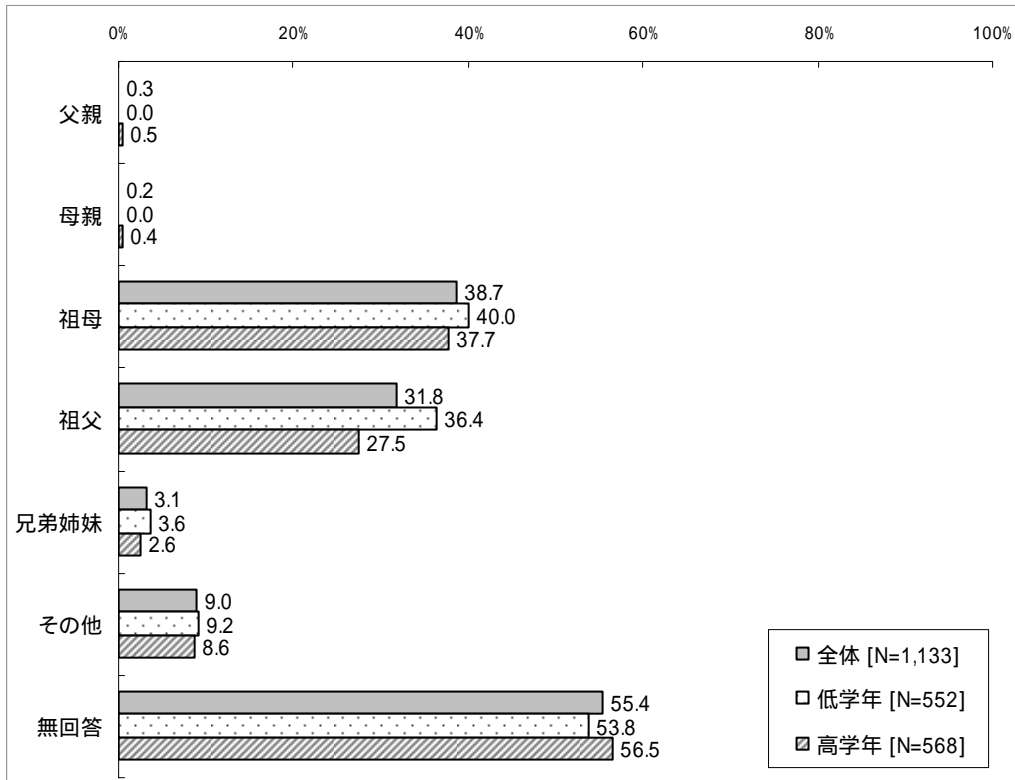
家族構成は、「核家族」の割合が最も高く78.5%、次いで、「三世代」(16.1%)、「ひとり親家庭」(4.1%)の順に高い割合となっています。

図表 II-173 家族構成[N=1,133]



また、近居している人としては、「祖母」(38.7%)、「祖父」(31.8%)の順に、高い割合となっています。学年別に見ると、「祖母」「祖父」の割合は、低学年の方が高くなっています。

図表 II-174 近居している人[N=1,133 ; 複数回答]

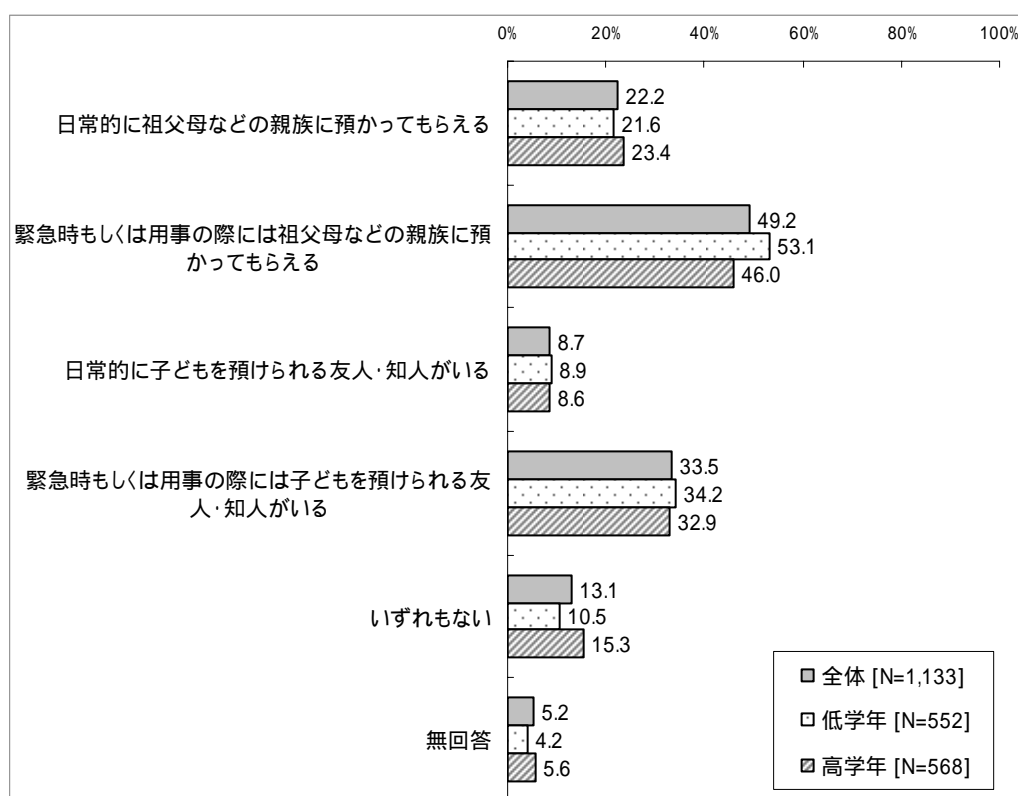


#### (4) 子どもの預かりの状況

日頃、子どもを預かってもらえる人がいるかを聞いたところ、「緊急時もしくは用事の際には祖父母などの親族に預かってもらえる」という人の割合が最も高く49.2%、次いで、「緊急時もしくは用事の際には子どもを預けられる友人・知人がいる」(33.5%)、「日常的に祖父母などの親族に預かってもらえる」(22.2%)の順に高い割合となっています。

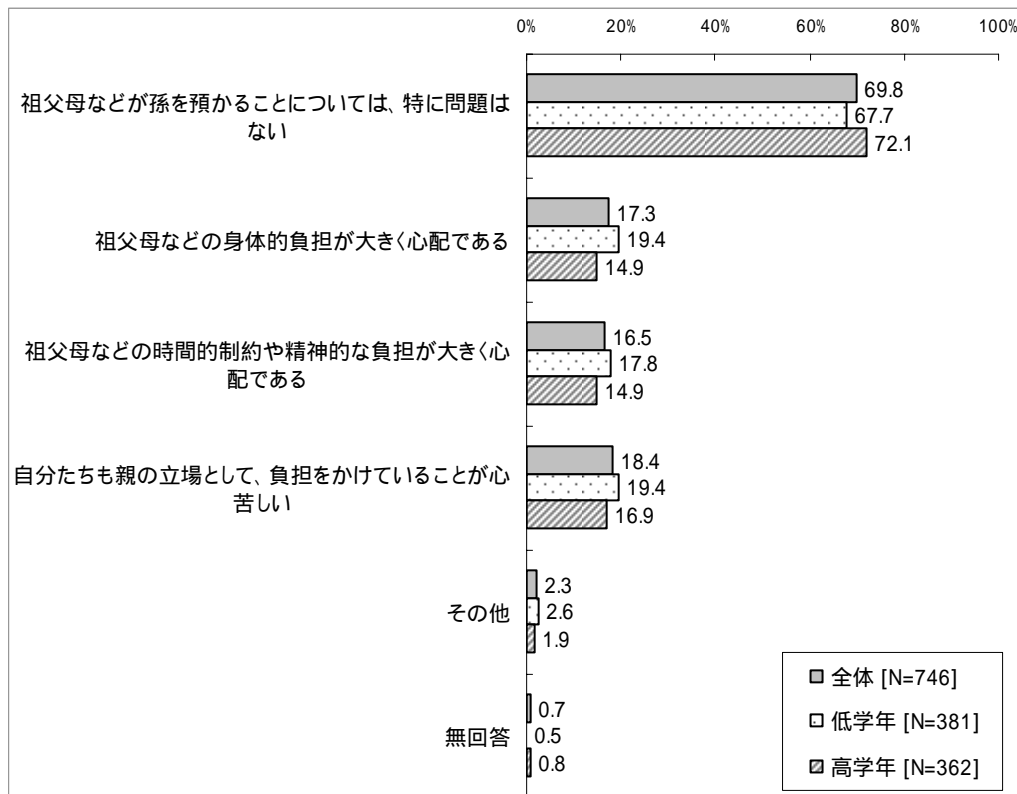
これを学年別に見ると、「緊急時もしくは用事の際には祖父母などの親族に預かってもらえる」という人の割合は、低学年の方が高くなっています。

図表 II-175 日頃、子どもを預かってもらえる人がいるか[N=1,133；複数回答]



子どもを預かってもらえる人の有無について、「日常的に祖父母などの親族に預かってもらえる」「緊急時もしくは用事の際には祖父母などの親族に預かってもらえる」と回答した人に、祖父母などに預かってもらっている状況について聞いたところ、「祖父母などが孫を預かることについては、特に問題はない」という人の割合が最も高く69.8%、次いで、「自分たちも親の立場として、負担をかけていることが心苦しい」という人の割合が高く18.4%となっています。

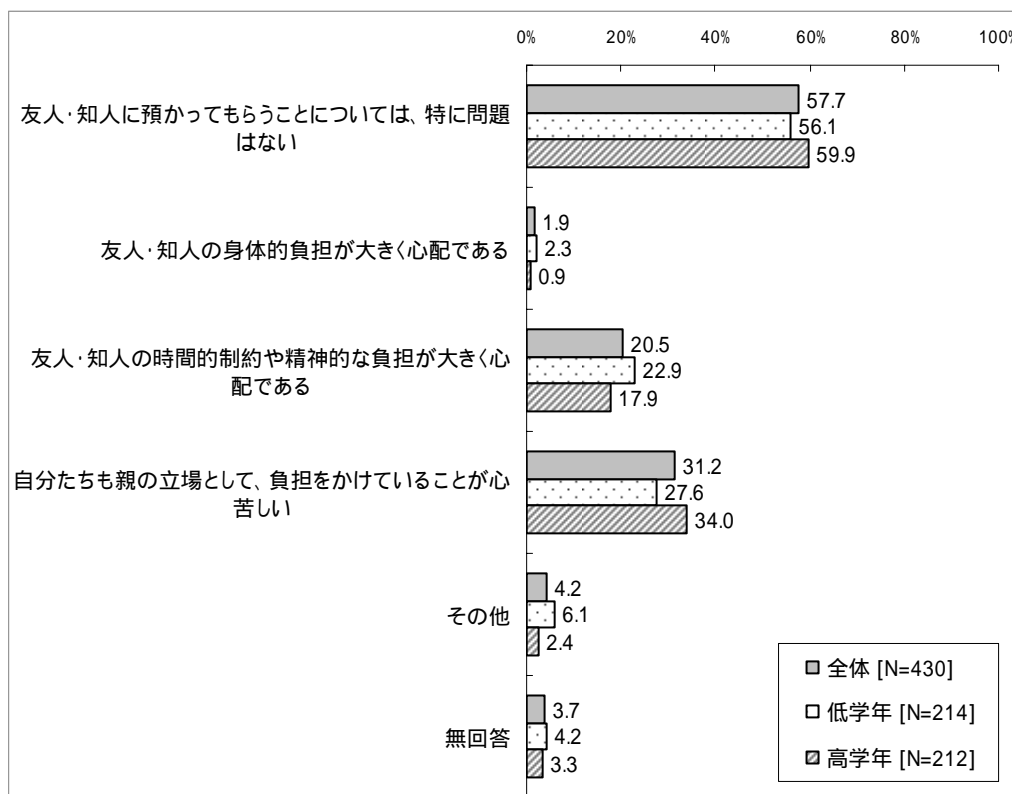
図表 II-176 祖父母などに預かってもらっている状況について[N=746；複数回答]



子どもを預かってもらえる人の有無について、「日常的に子どもを預けられる友人・知人がいる」「緊急時もしくは用事の際には子どもを預けられる友人・知人がいる」と回答した人に、友人や知人に預かってもらっている状況について聞いたところ、「友人・知人に預かってもらうことについては、特に問題はない」という人の割合が最も高く 57.7%、次いで、「自分たちも親の立場として、負担をかけていることが心苦しい」という人の割合が高く 31.2%となっています。

これを学年別に見ると、「友人・知人の時間的制約や精神的な負担が大きく心配である」という人の割合は低学年の方が高く、「自分たちも親の立場として、負担をかけていることが心苦しい」という人の割合は高学年の方が高くなっています。

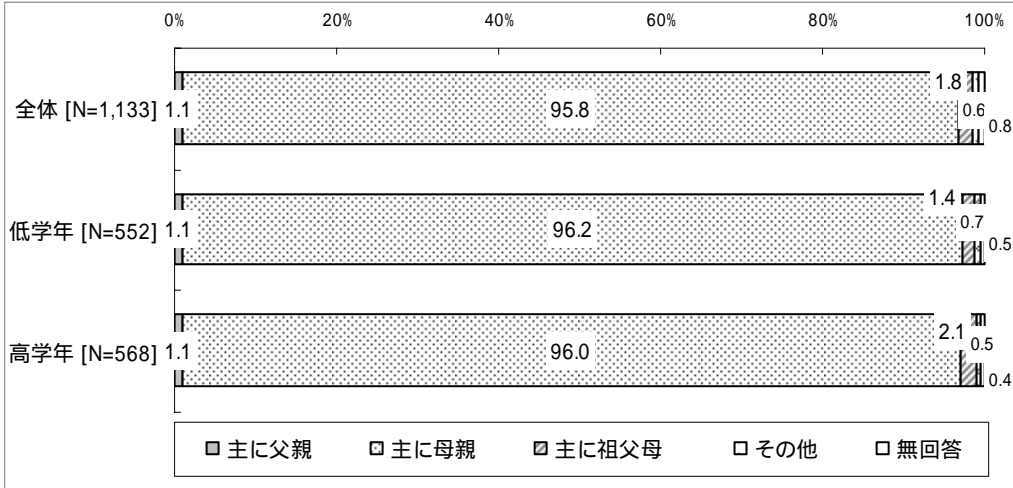
図表 II-177 友人や知人に預かってもらっている状況について[N=430；複数回答]



## (5) 子どもの身の回りの世話などを主にする人

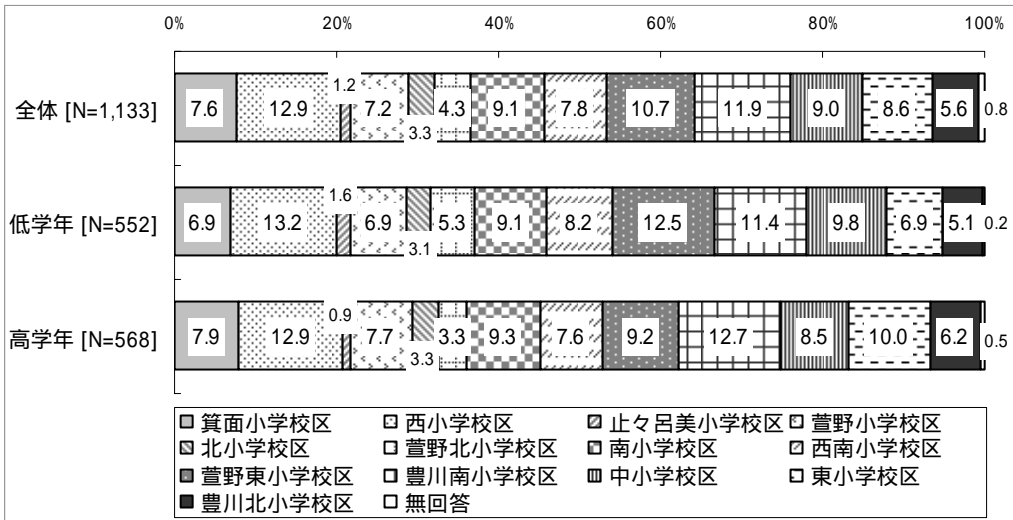
子どもの身の回りの世話を主にする人を聞いたところ、「主に母親」という人が大半を占めており、95.8%となっています。

図表 II-178 子どもの身の回りの世話を主にしているの[N=1,133]



小学校区は、割合の多い順に、「西小学校区」(12.9%)、「豊川南小学校区」(11.9%)、「萱野東小学校区」(10.7%)等となっています。

図表 II-179 小学校区[N=1,133]





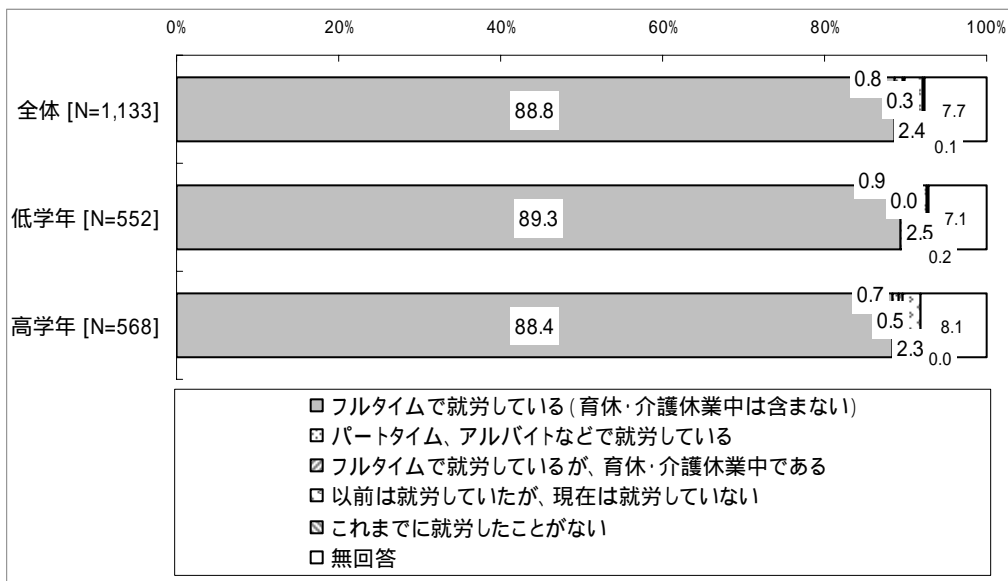
## 2 . 保護者の就労状況

### (1) 父親

#### 就労状況

父親の就労状況を聞いたところ、「フルタイムで就労している（育休・介護休業中は含まない）」という人が大半を占めており、88.8%となっています。

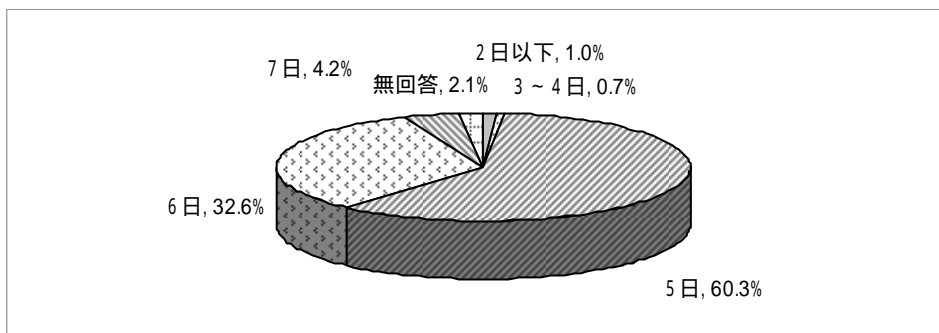
図表 II-180 父親の就労状況[N=1,133]



#### フルタイム就労の父親の状況

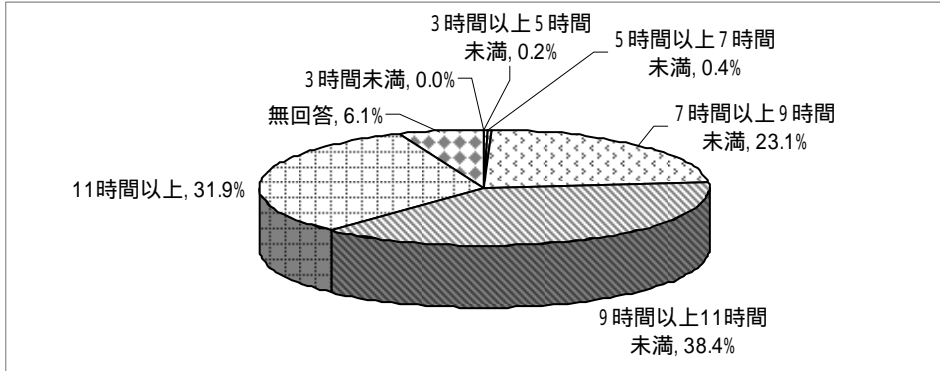
フルタイム就労の父親の1週間の就労日数は、「5日」の割合が最も高く60.3%、次いで、「6日」の割合が高く32.6%となっています。

図表 II-181 フルタイム就労の父親の1週間の就労日数[N=1,006]



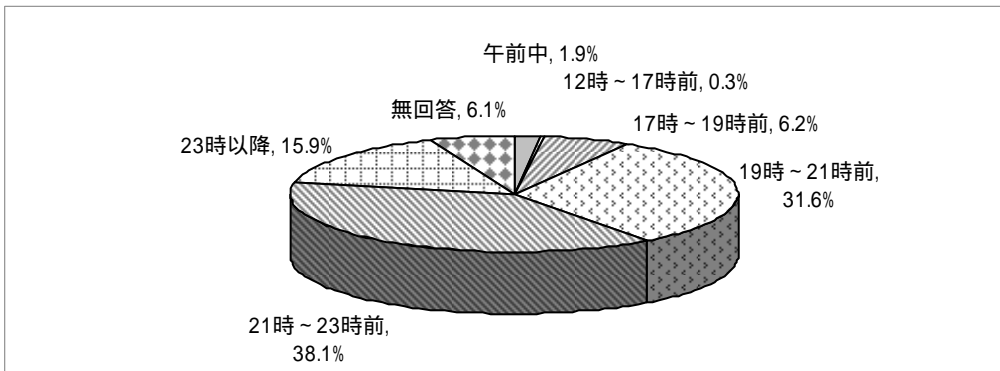
フルタイム就労の父親の1日の勤務時間は、割合の高い順に、「9時間以上11時間未満」(38.4%)、「11時間以上」(31.9%)、「7時間以上9時間未満」(23.1%)となっています。

図表 II-182 フルタイム就労の父親の1日の勤務時間[N=1,006]



フルタイム就労の父親の帰宅時間は、割合の高い順に、「21時～23時前」(38.1%)、「19時～21時前」(31.6%)、「23時以降」(15.9%)となっています。

図表 II-183 フルタイム就労の父親の帰宅時間[N=1,006]



## (2) 母親

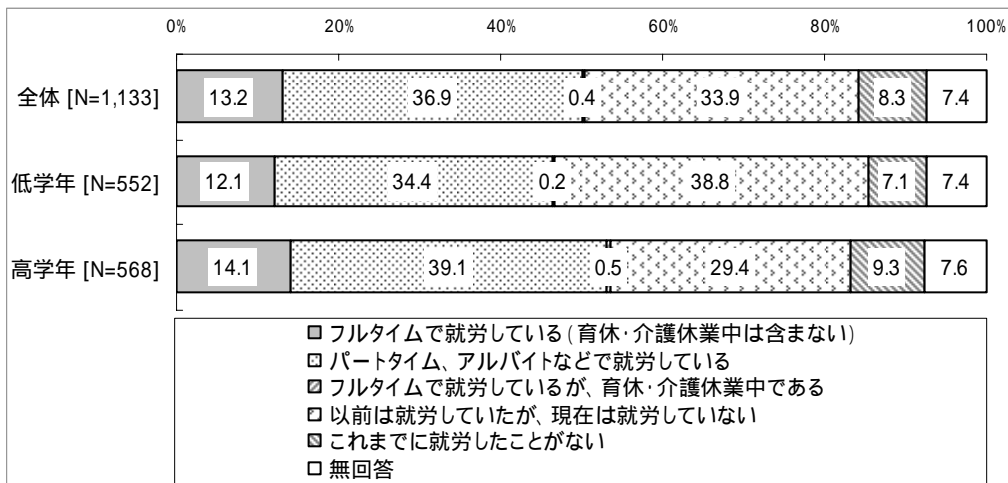
### 就労状況

母親の就労状況を聞いたところ、割合の高い順に、パートタイム、アルバイトなどで就労している(36.9%)、「以前は就労していたが、現在は就労していない」(33.9%)となっています。

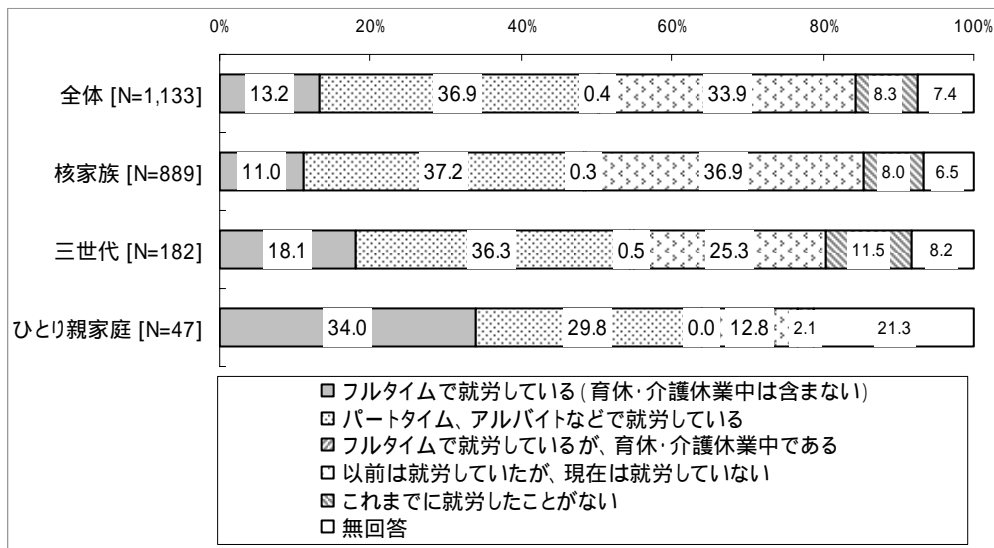
これを学年別に見ると、「フルタイムで就労している(育休・介護休業中は含まない)」「パートタイム、アルバイトなどで就労している」という人の割合は、高学年の方が高くなっています。

また、家族構成別に見ると、「フルタイムで就労している(育休・介護休業中は含まない)」という人の割合は核家族よりも三世代、三世代よりもひとり親家庭で高くなっています。また、「以前は就労していたが、現在は就労していない」という人の割合はひとり親家庭よりも三世代、三世代よりも核家族で高くなっています。

図表 II-184 母親の就労状況[N=1,133]



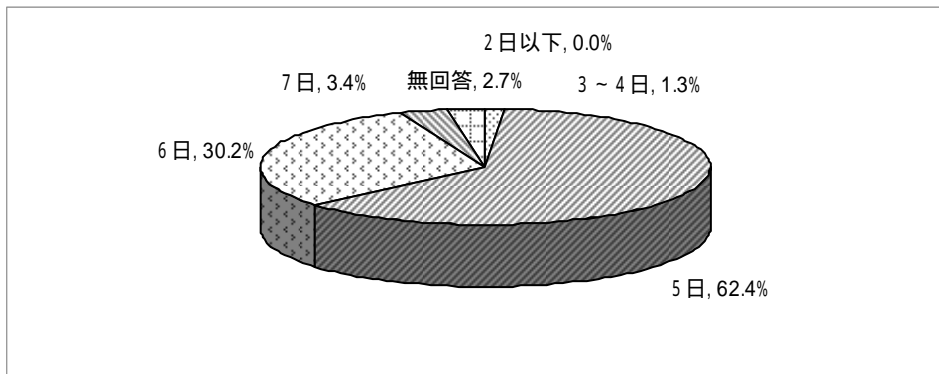
図表 II-185 (家族構成別) 母親の就労状況[N=1,133]



### フルタイム就労の母親の状況

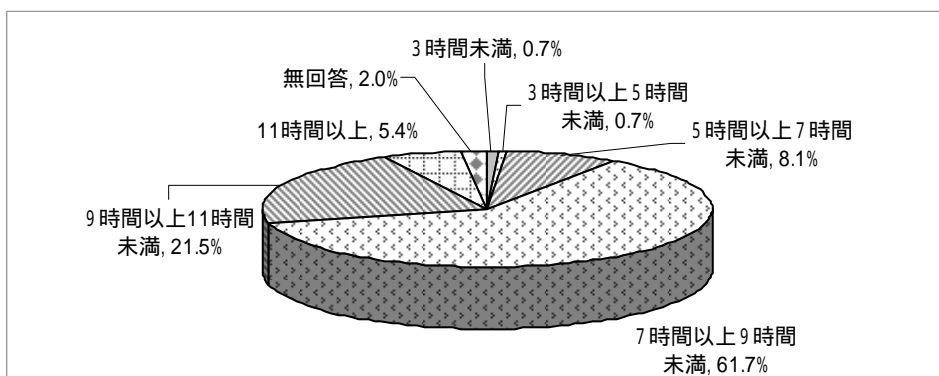
フルタイム就労の母親の1週間の就労日数は、「5日」の割合が最も高く62.4%、次いで「6日」の割合が高く30.2%となっています。

図表 II-186 フルタイム就労の母親の1週間の就労日数[N=149]



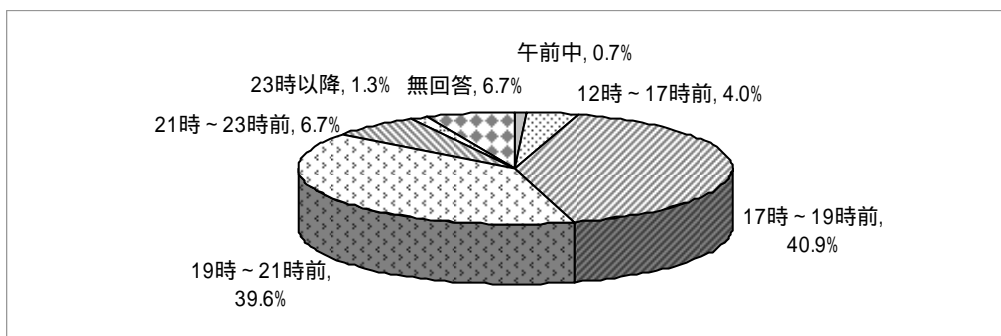
フルタイム就労の母親の1日の勤務時間は、「7時間以上9時間未満」という人の割合が最も高く61.7%、次いで、「9時間以上11時間未満」という人の割合が高く21.5%となっています。

図表 II-187 フルタイム就労の母親の1日の勤務時間[N=149]



フルタイム就労の母親の帰宅時間は、「17時～19時前」(40.9%)、「19時～21時前」(39.6%)の順に高い割合となっています。

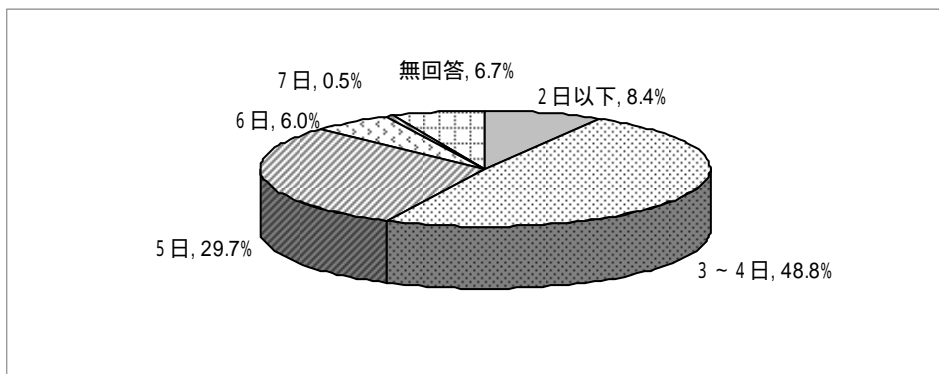
図表 II-188 フルタイム就労の母親の帰宅時間[N=149]



### パートタイム、アルバイト等で就労している母親の状況

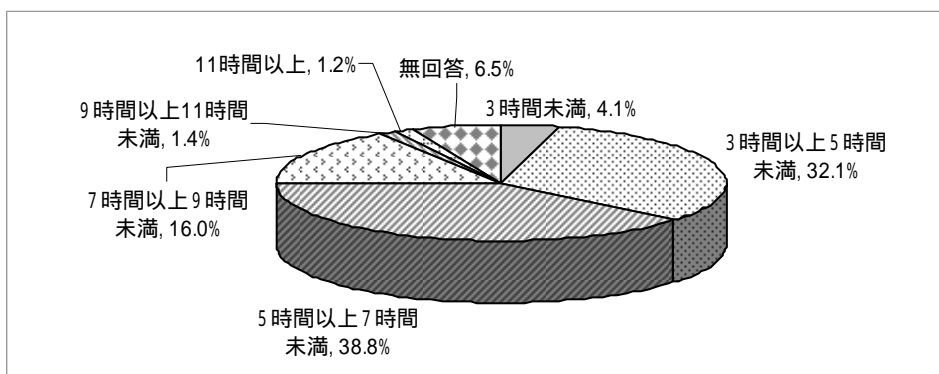
パートタイム、アルバイト等で就労している母親の1週間の就労日数は、割合の高い順に、「3～4日」(48.8%)、「5日」(29.7%)となっています。

図表 II-189 パートタイム、アルバイト等で就労している母親の1週間の就労日数[N=418]



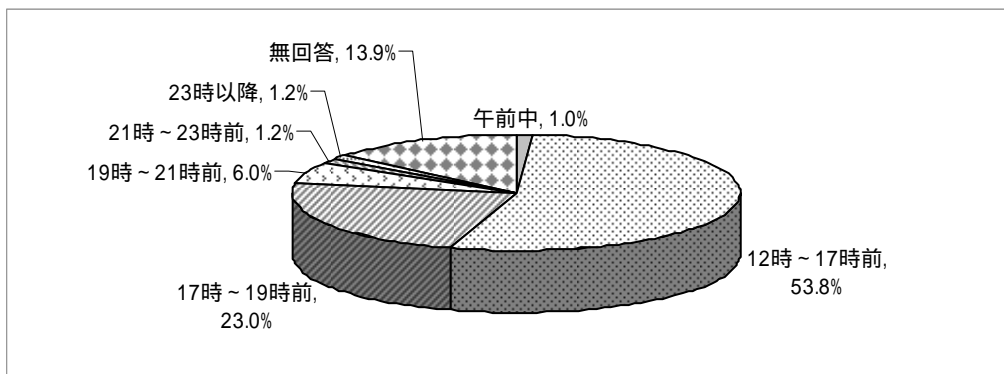
パートタイム、アルバイト等で就労している母親の1日の勤務時間は、割合の高い順に、「5時間以上7時間未満」(38.8%)、「3時間以上5時間未満」(32.1%)、「7時間以上9時間未満」(16.0%)となっています。

図表 II-190 パートタイム、アルバイト等で就労している母親の1日の勤務時間[N=418]



パートタイム、アルバイト等で就労している母親の帰宅時間は、「12時～17時前」という人の割合が最も高く53.8%、次いで、「17時～19時前」という人の割合が高く23.0%となっています。

図表 II-191 パートタイム、アルバイト等で就労している母親の帰宅時間[N=418]

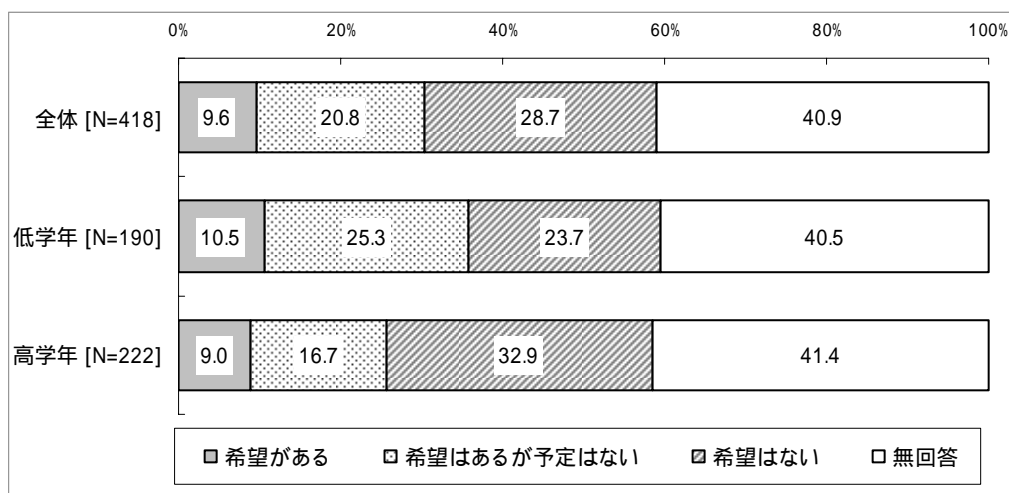


パートタイム、アルバイト等で就労している母親に、フルタイムへの転換希望があるか聞いたところ、「希望はない」(28.7%)、「希望はあるが予定はない」(20.8%)の順に高い割合となっています。

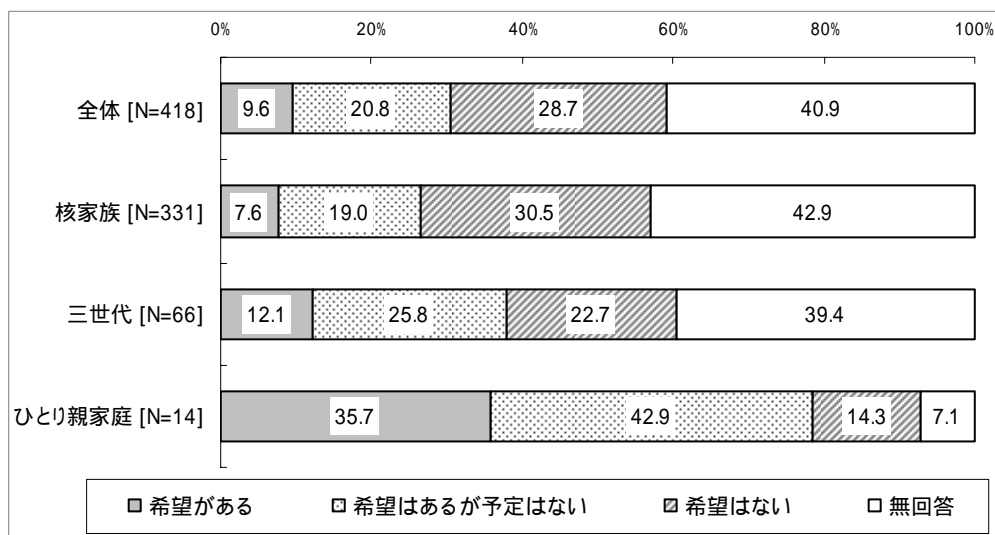
これを学年別に見ると、「希望はあるが予定はない」という人の割合は低学年の方が高く、「希望はない」という人の割合は高学年の方が高くなっています。

また、家族構成別に見ると、「希望がある」「希望があるが予定はない」という人の割合は、核家族よりも三世代、三世代よりもひとり親家庭で高くなっています。

図表 II-192 フルタイムへの転換希望があるか[N=418]



図表 II-193 (家族構成別) フルタイムへの転換希望があるか[N=418]



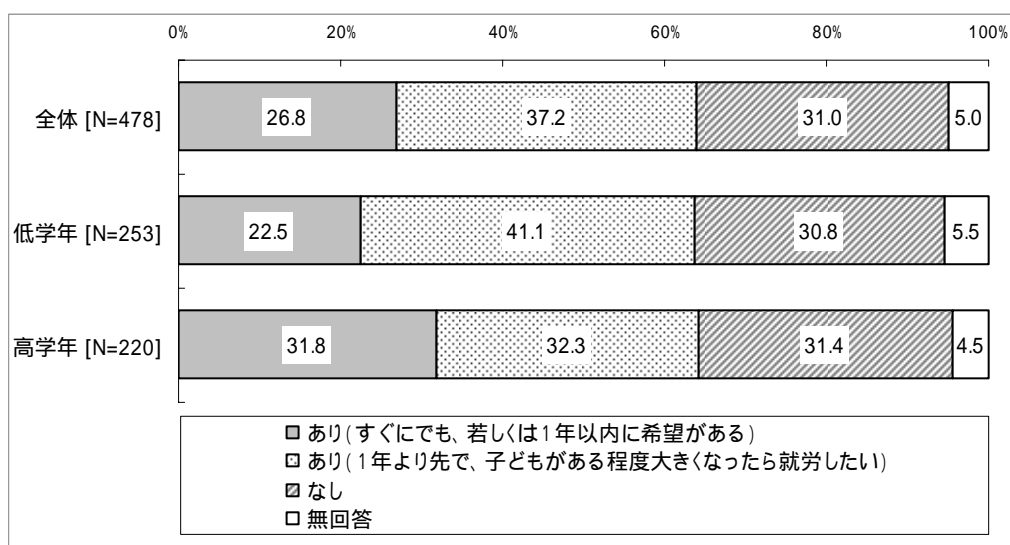
## 現在、就労していない母親の状況

母親の就労状況について、「以前は就労していたが、現在は就労していない」「これまで就労したことがない」と回答した人に、就労希望があるか聞いたところ、「あり(1年より先で、子どもがある程度大きくなったら就労したい)」(37.2%)、「なし」(31.0%)、「あり(すぐにでも、若しくは1年以内に希望がある)」(26.8%)の順に高い割合となっています。

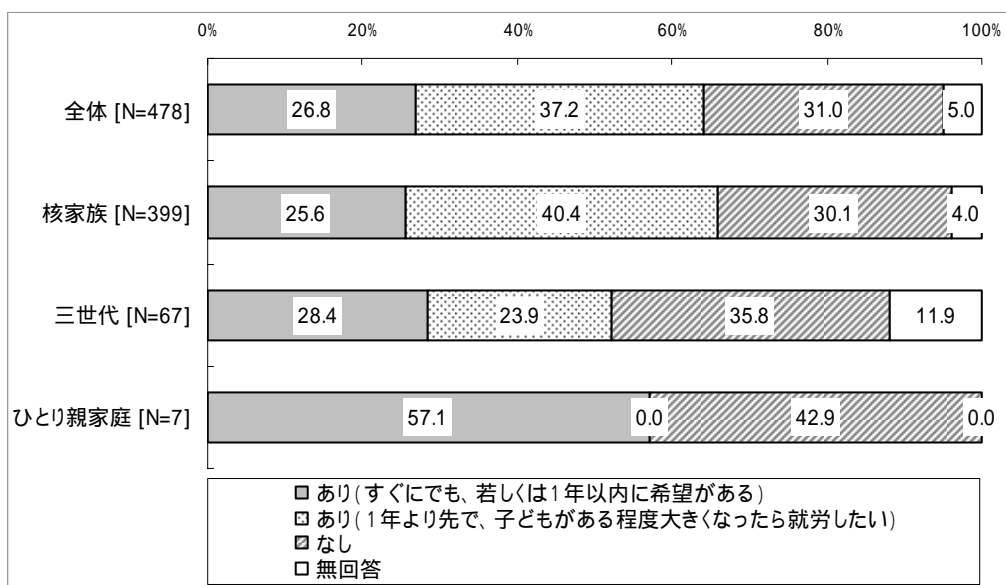
これを学年別に見ると、「あり(すぐにでも、若しくは1年以内に希望がある)」という人の割合は高学年の方が高く、「あり(1年より先で、子どもがある程度大きくなったら就労したい)」という人の割合は、低学年の方が高くなっています。

また、家族構成別に見ると、「あり(1年より先で、子どもがある程度大きくなったら就労したい)」という人の割合は、三世代よりも核家族で高くなっています。

図表 II-194 就労希望の有無[N=478]



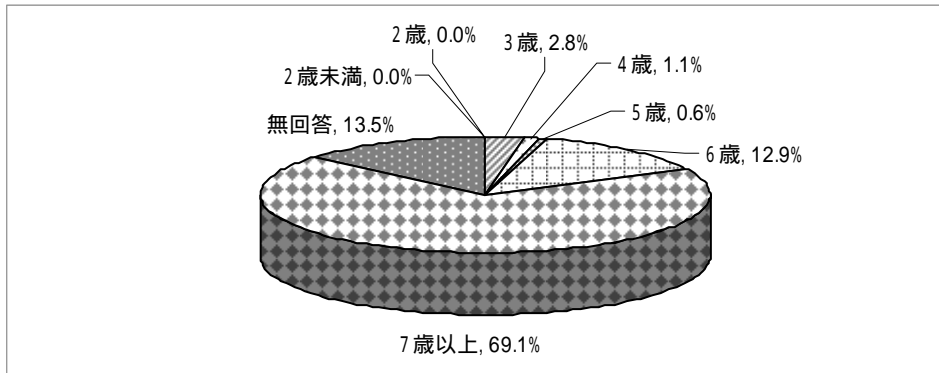
図表 II-195 (家族構成別) 就労希望の有無[N=478]





現在、就労していない母親で、就労希望について、「あり（1年より先で、子どもがある程度大きくなったら就労したい）」と回答した人に、一番小さい子どもが何歳になったときに就労を希望するか聞いたところ、「7歳以上」という人の割合が最も高く69.1%、次いで、「6歳」という人の割合が高く12.9%となっています。

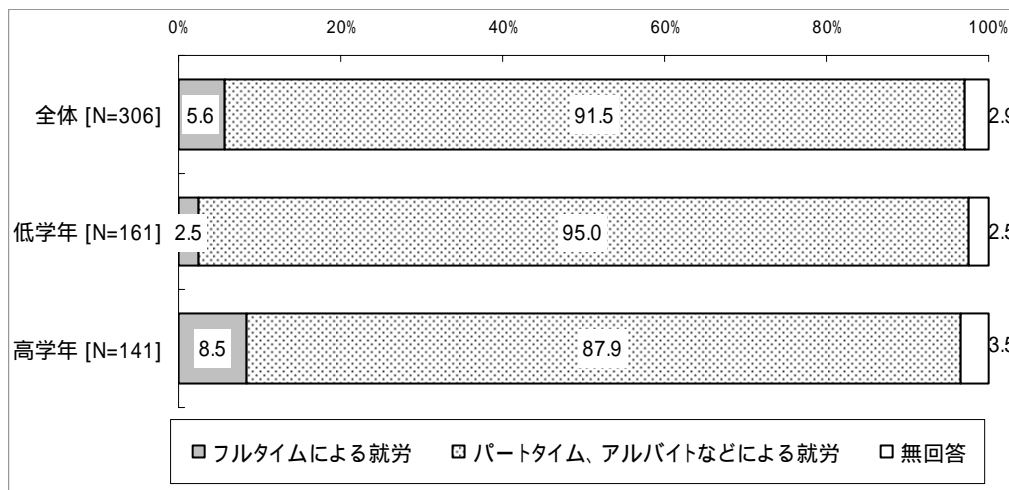
図表 II-196 就労を希望するときの子どもの年齢[N=178]



現在、就労していない母親で、就労希望について、「あり（すぐにでも、若しくは1年以内に希望がある）」「あり（1年より先で、子どもがある程度大きくなったら就労したい）」と回答した人に、就労希望の形態について聞いたところ、「パートタイム、アルバイトなどによる就労」という人が大半を占めており、91.5%となっています。

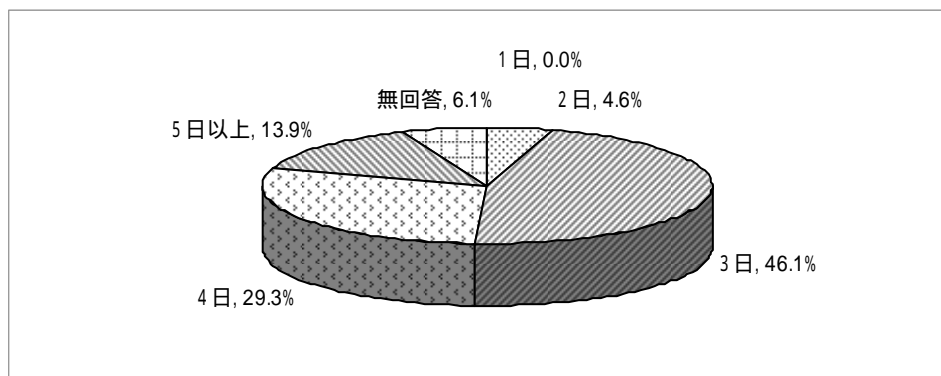
これを学年別に見ると、「フルタイムによる就労」という人の割合は、高学年の方が高くなっています。

図表 II-197 就労希望の形態[N=306]



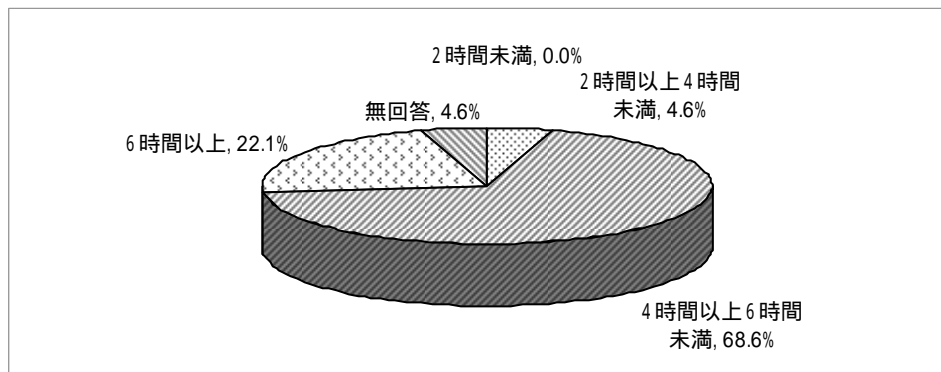
現在、就労していない母親で、「パートタイム、アルバイトなどによる就労」を希望すると回答した人に、希望する1週あたりの就労日数を聞いたところ、割合の高い順に、「3日」(46.1%)、「4日」(29.3%)、「5日以上」(13.9%)となっています。

図表 II-198 パートタイム、アルバイトなどによる就労を希望する母親の1週あたりの就労希望日数  
[N=280]



また、希望する1日あたりの就労時間は、「4時間以上6時間未満」の割合が最も高く68.6%、次いで、「6時間以上」の割合が高く22.1%となっています。

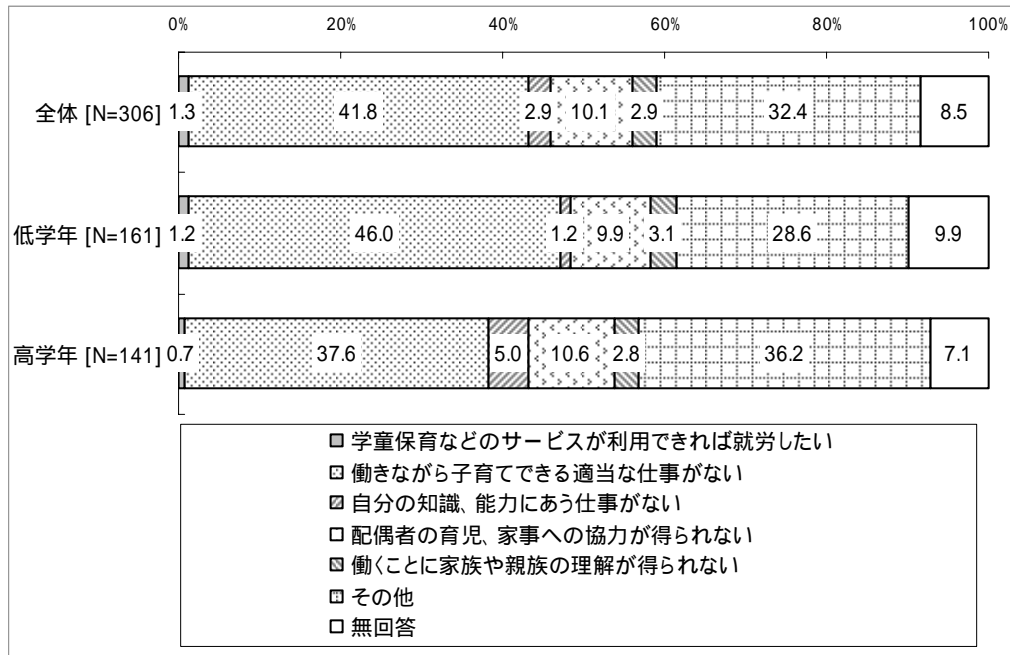
図表 II-199 パートタイム、アルバイトなどによる就労を希望する母親の1日あたりの就労希望時間  
[N=280]



就労希望がありながら、現在働いていない母親に、その理由を聞いたところ、「働きながら子育てできる適当な仕事がない」という人の割合が 41.8%となっています。また、32.4%を占めている「その他」の回答としては、「まだ子ども（調査対象の子どももしくは、その下の子ども）が小さいため」という回答が多く見られました。

これを学年別に見ると、「働きながら子育てできる適当な仕事がない」という人の割合は、低学年の方が高くなっています。

図表 II-200 就労希望がありながら、現在働いていない理由[N=306]

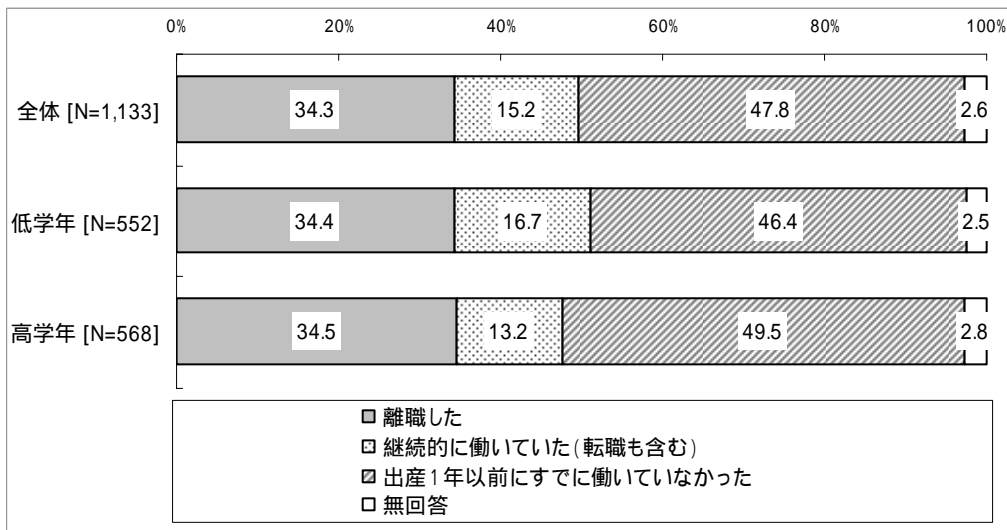


### (3) 出産前後の離職

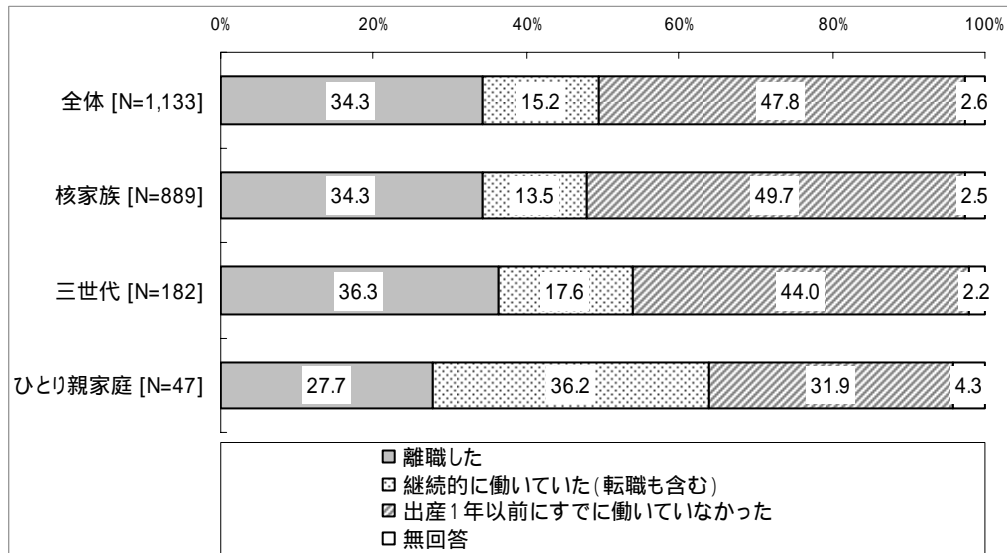
子どもの出産前後に離職をしたか聞いたところ、「出産1年以前にすでに働いていなかった」(47.8%)、「離職した」(34.3%)の順に高い割合となっています。

これを家族構成別に見ると、「継続的に働いていた(転職も含む)」という人の割合はひとり親家庭で高く、「出産1年以前にすでに働いていなかった」という人の割合は核家族で高くなっています。

図表 II-201 子どもの出産前後に離職をしたか[N=1,133]



図表 II-202 (家族構成別) 子どもの出産前後に離職をしたか[N=1,133]

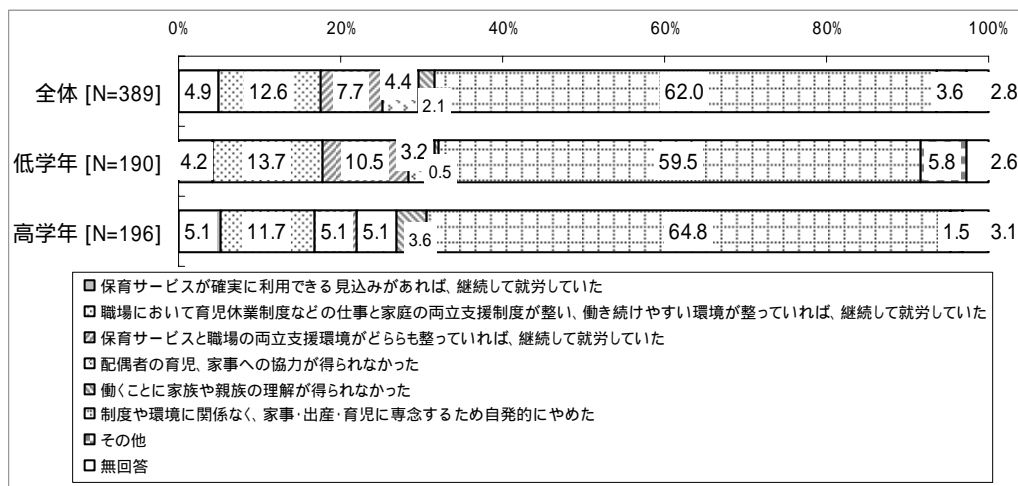


子どもの出産前後に、「離職した」と回答した人に、仕事と家庭の両立を支援する保育サービスや環境が整っていたら、就労を継続したか聞いたところ、「制度や環境に関係なく、家事・出産・育児に専念するため自発的にやめた」という人の割合が最も高く62.0%となっています。次いで、「職場において育児休業制度などの仕事と家庭の両立支援制度が整い、働き続けやすい環境が整っていれば、継続して就労していた」という人の割合が高く12.6%となっています。

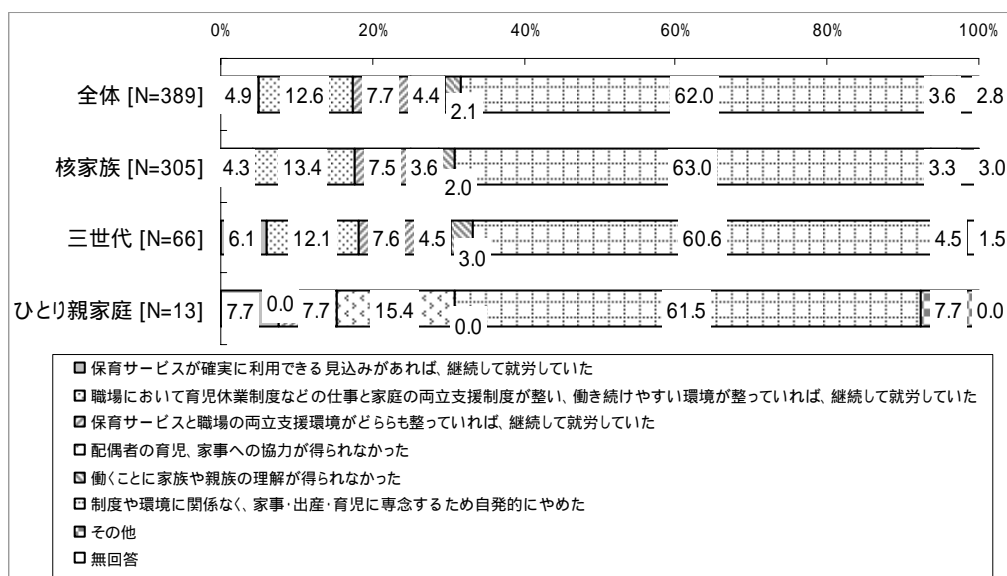
これを年齢別に見ると、「保育サービスと職場の両立支援環境がどちらも整っていれば、継続して就労していた」という人の割合は低学年の方が高く、「制度や環境に関係なく、家事・出産・育児に専念するため自発的にやめた」という人の割合は、高学年の方が高くなっています。

また、家族構成別に見ると、ひとり親家庭で「配偶者の育児、家事への協力が得られなかった」という人の割合が高くなっています。

図表 II-203 どのような条件が整っていたら、就労を継続したか[N=389]



図表 II-204 (家族構成別) どのような条件が整っていたら、就労を継続したか[N=389]



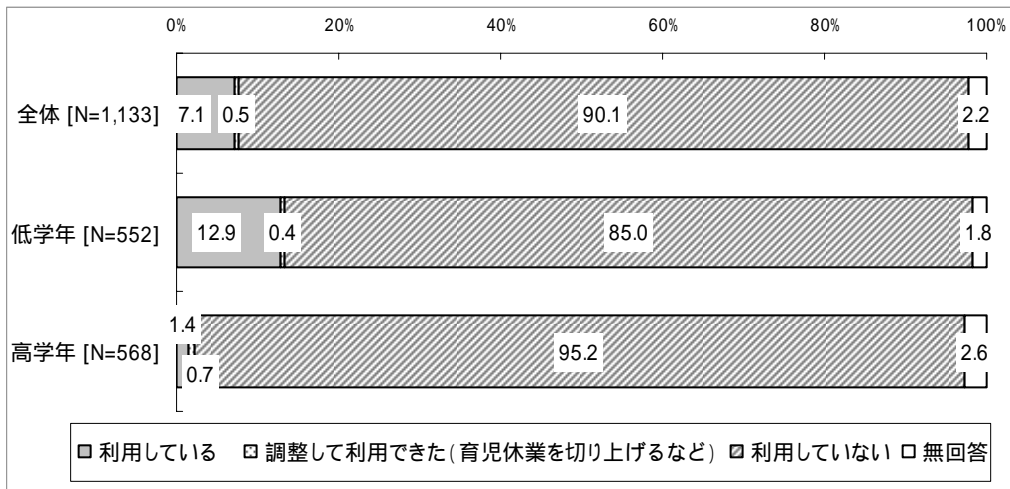
### 3. 学童保育の利用状況と今後の利用希望

#### (1) 学童保育の利用状況

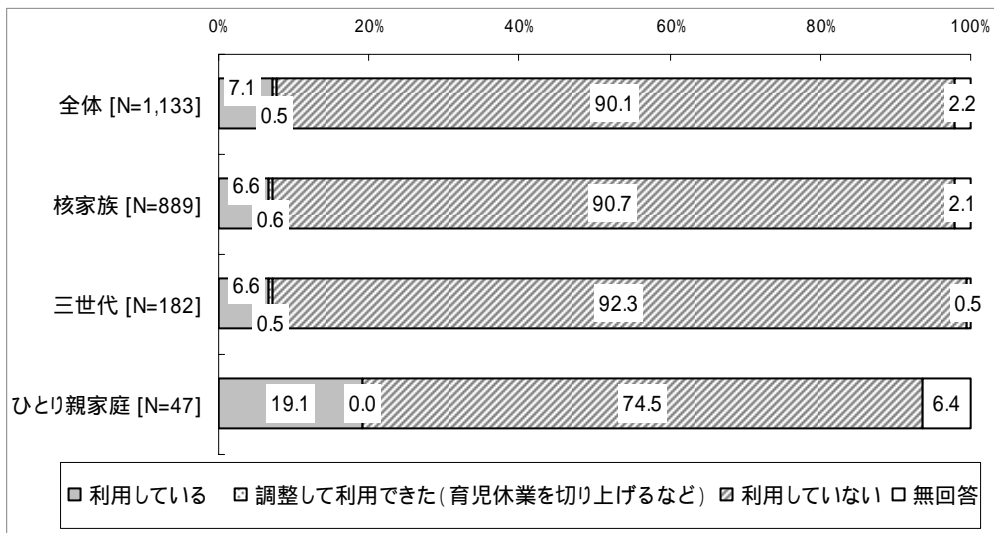
学童保育の利用の有無については、「利用している」という人が7.1%、「利用していない」という人が90.1%となっています。

また、家族構成別に見ると、ひとり親家庭で「利用している」という人の割合が高くなっています。

図表 II-205 学童保育の利用の有無[N=1,133]

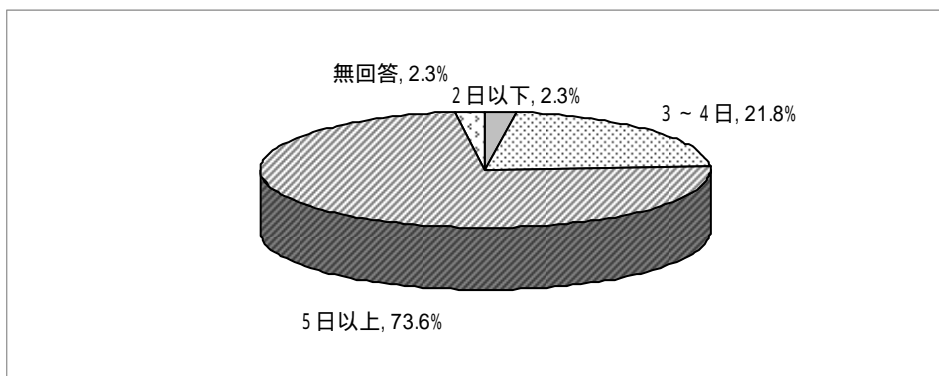


図表 II-206 (家族構成別) 学童保育の利用の有無[N=1,133]



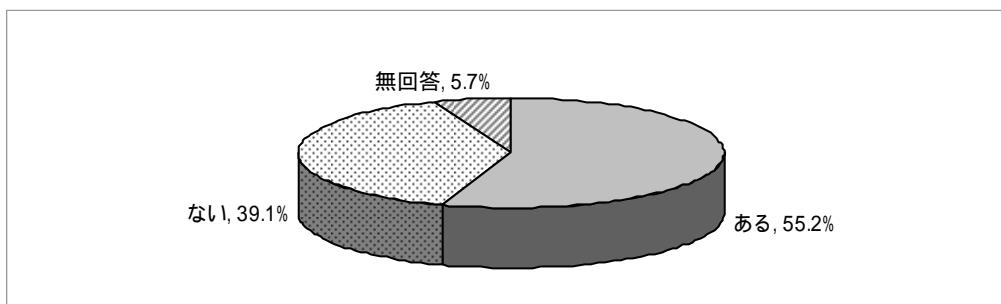
学童保育を利用している人に、1週あたりの利用日数を聞いたところ、「5日以上」の割合が最も高く73.6%、次いで、「3～4日」の割合が高く21.8%となっています。

図表 II-207 学童保育の1週あたりの利用日数[N=87]



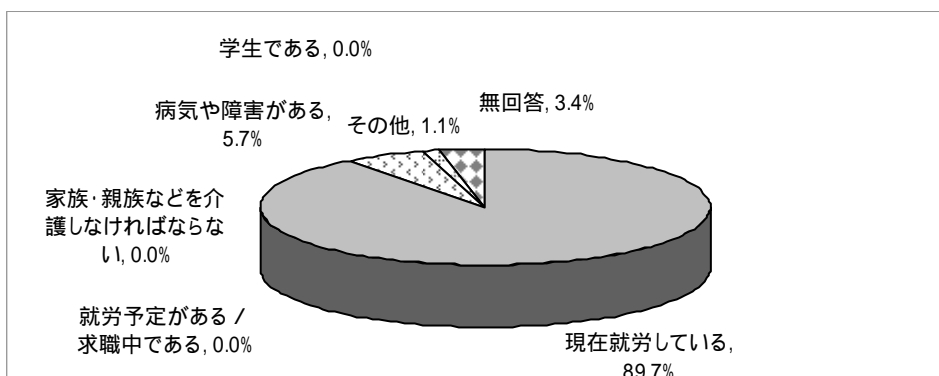
また、学校休業日・土曜日の利用の有無については、「ある」という人が55.2%、「ない」という人が39.1%となっています。

図表 II-208 学童保育の学校休業日・土曜日の利用の有無[N=87]



学童保育を利用している人に、その利用理由を聞いたところ、「現在就労している」という人が大半を占めており、89.7%となっています。

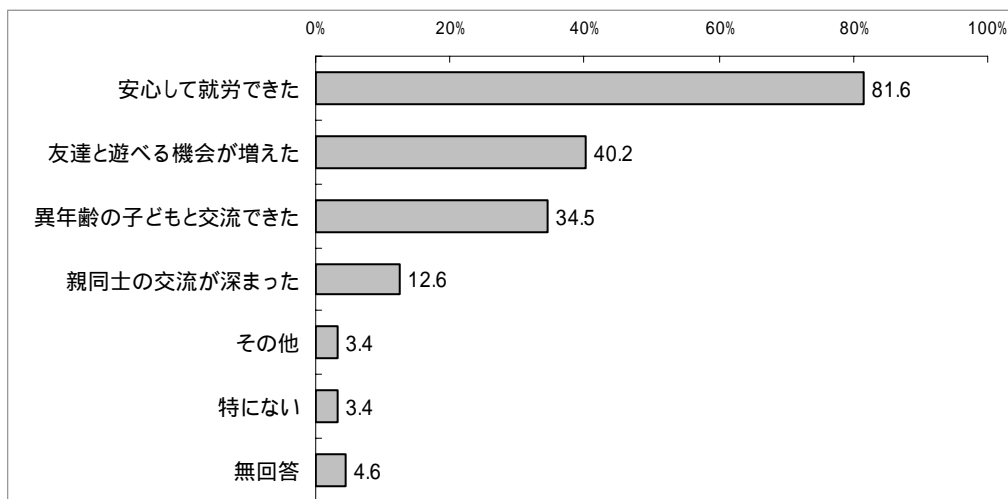
図表 II-209 学童保育を利用している理由[N=87]



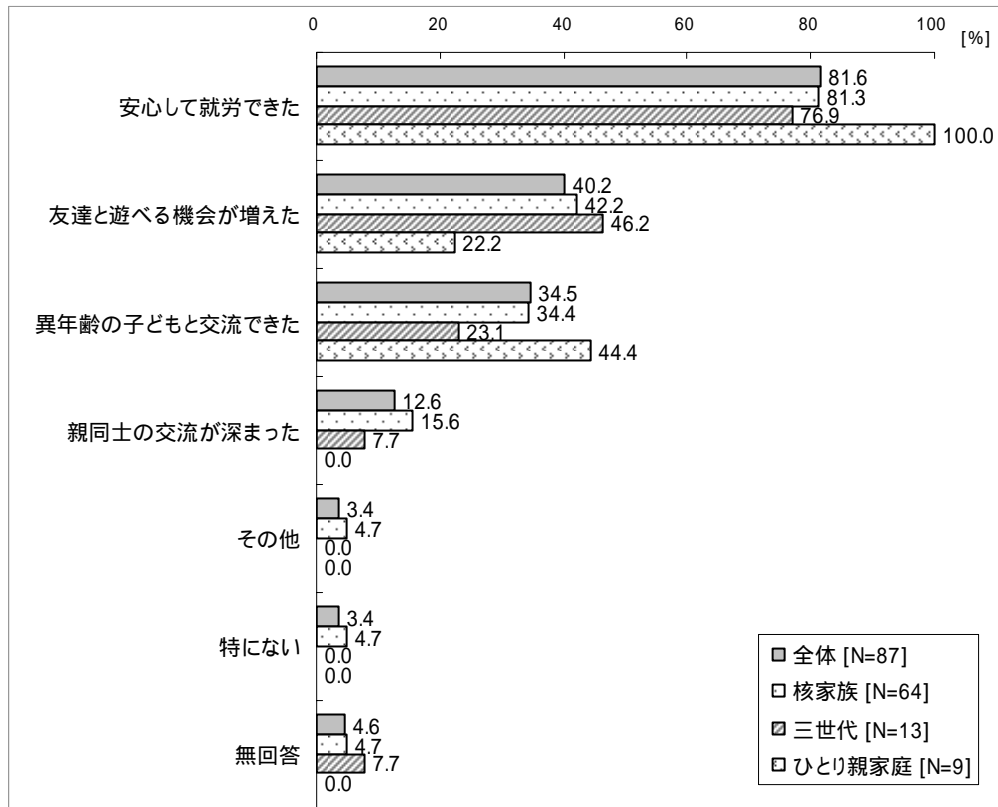
学童保育を利用している人に、利用してよかったことを聞いたところ、「安心して就労できた」という人の割合が最も高く 81.6%、次いで、「友達と遊べる機会が増えた」(40.2%)、「異年齢の子どもと交流できた」(34.5%)の順に高い割合となっています。

これを家族構成別に見ると、「異年齢の子どもと交流できた」という人の割合は、三世代よりも核家族で高くなっています。

図表 II-210 学童保育を利用してよかったこと[N=87；複数回答]



図表 II-211 (家族構成別) 学童保育を利用してよかったこと[N=87；複数回答]

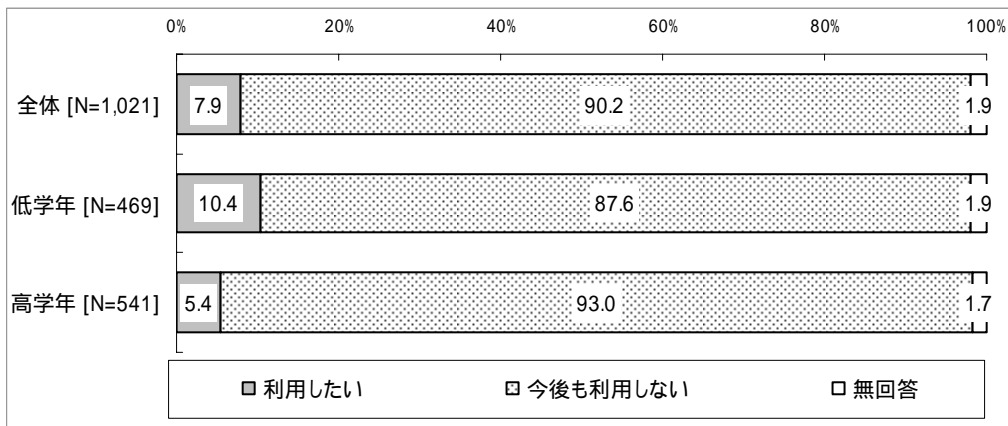




## (2) 学童保育の今後の利用希望

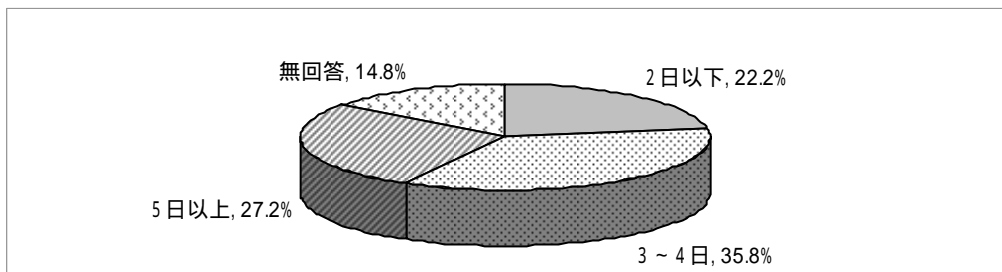
学童保育を現在、利用していない人に、今後の利用希望を聞いたところ、「利用したい」という人が7.9%、「今後も利用しない」という人が90.2%となっています。これを学年別に見ると、「利用したい」という人の割合は、低学年の方が高くなっています。

図表 II-212 学童保育の利用希望[N=1,021]



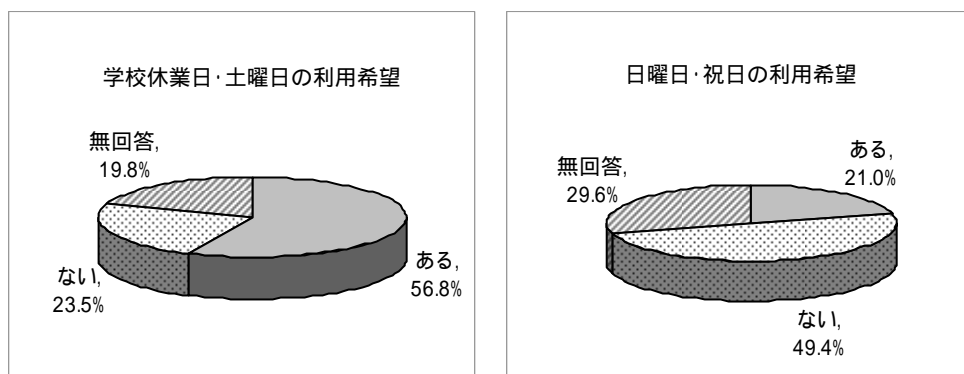
学童保育を「利用したい」と回答した人に、希望する1週あたりの利用日数を聞いたところ、割合の高い順に、「3～4日」(35.8%)、「5日以上」(27.2%)となっています。

図表 II-213 学童保育の利用希望がある人の1週あたりの利用希望日数[N=81]



また、学校休業日・土曜日の利用希望については、「ある」という人が56.8%、日曜日・祝日の利用希望については、「ある」という人が21.0%となっています。

図表 II-214 学校休業日・土曜日、日曜日・祝日の利用希望の有無[N=81]

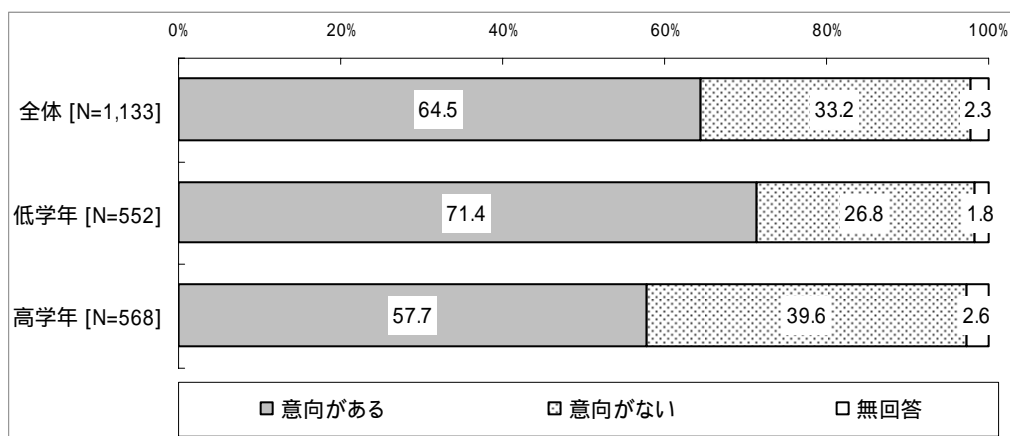


### (3) 「自由な遊び場開放事業」の今後の利用希望

「自由な遊び場開放事業」の今後の利用希望を聞いたところ、「意向がある」という人は64.5%、「意向がない」という人は33.2%となっています。

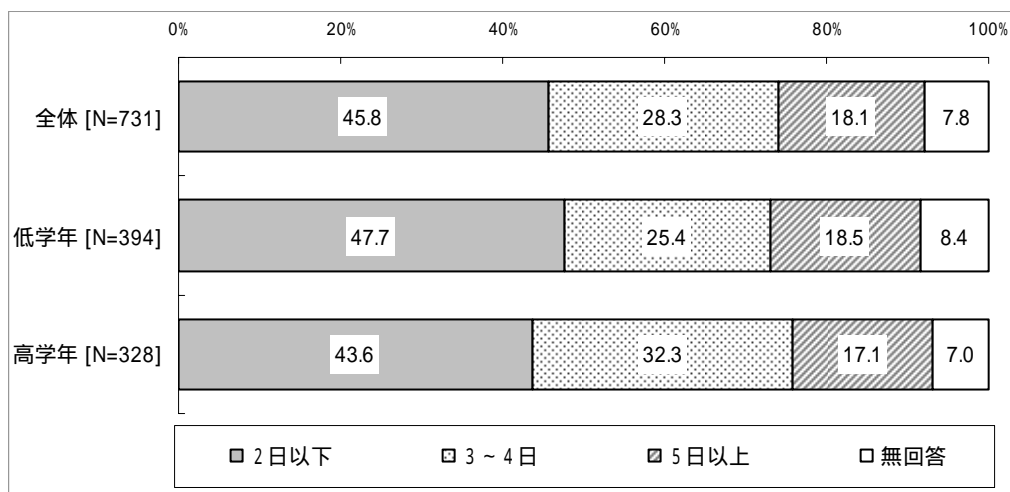
これを学年別に見ると、「意向がある」という人の割合は、低学年の方が高くなっています。

図表 II-215 「自由な遊び場開放事業」の利用希望[N=1,133]



「自由な遊び場開放事業」の今後の利用希望について、「意向がある」と回答した人に、希望する1週あたりの利用日数を聞いたところ、「2日以下」(45.8%)、「3～4日」(28.3%)の順に高い割合となっています。

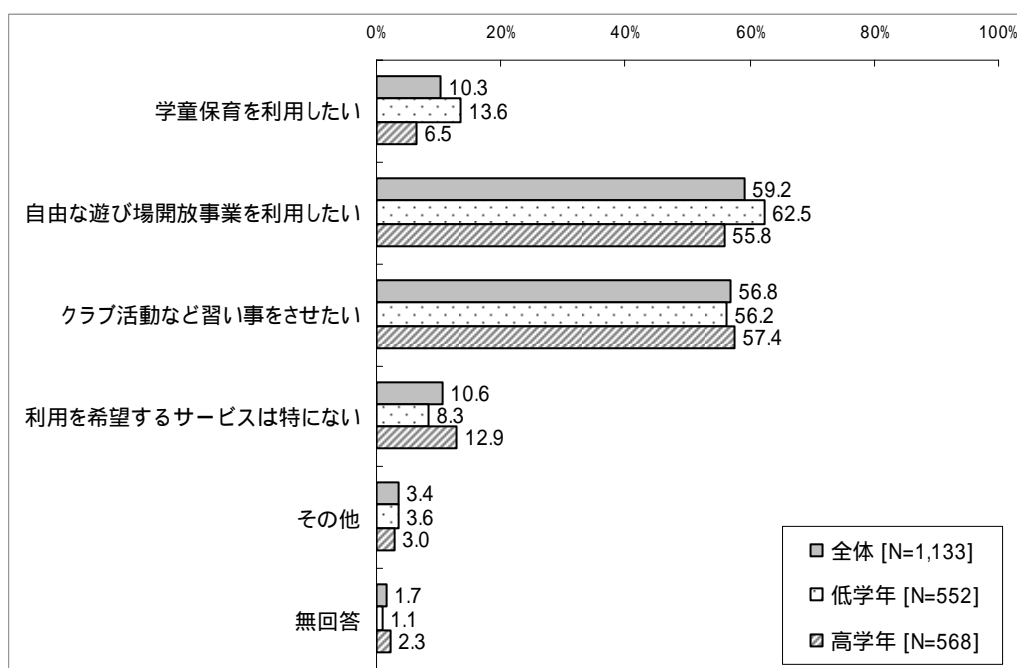
図表 II-216 「自由な遊び場開放事業」の利用希望がある人の、1週あたりの利用希望日数[N=731]



小学校4年生以降の放課後の過ごし方について望むことを聞いたところ、「自由な遊び場開放事業を利用したい」(59.2%)、「クラブ活動など習い事をさせたい」(56.8%)という人の割合が高くなっています。

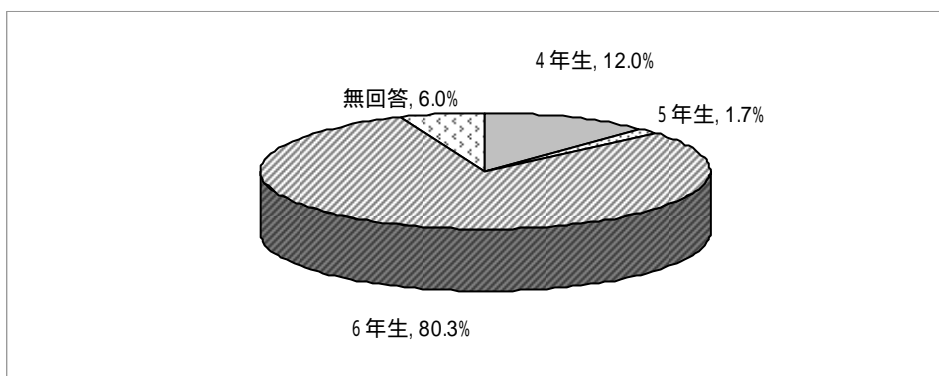
これを学年別に見ると、「学童保育を利用したい」「自由な遊び場開放事業を利用したい」という人の割合は、低学年の方が高くなっています。

図表 II-217 小学校4年生以降の放課後の過ごし方について望むこと[N=1,133；複数回答]



小学校4年生以降の放課後の過ごし方について、「学童保育を利用したい」と回答した人に、何年生まで利用したいか聞いたところ、「6年生」という人の割合が最も高く80.3%となっています。

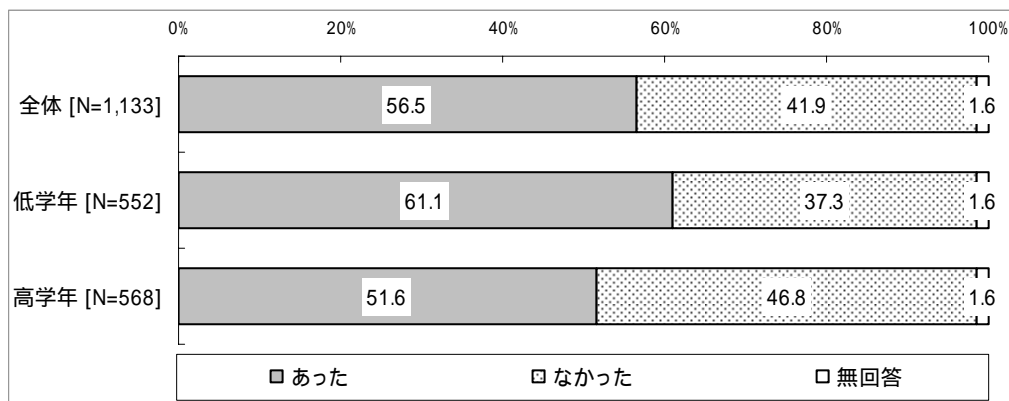
図表 II-218 学童保育を何年生まで利用したいか(小学4年生以降) [N=117]



## 4 . 病児・病後児の対応

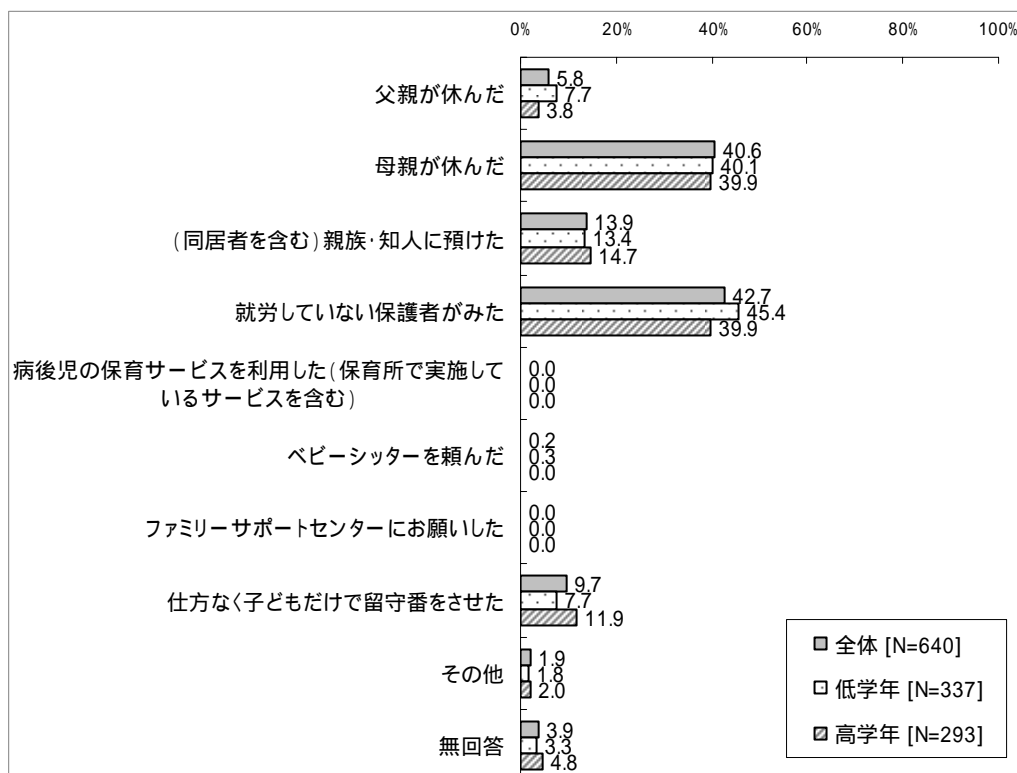
この1年間に、子どもの病気やケガで学校を休まなければならなかったことがあるか聞いたところ、「あった」という人は56.5%、「なかった」という人は41.9%となっています。学年別に見ると、「あった」という人の割合は、低学年の方が高くなっています。

図表 II-219 この1年間に、子どもの病気やケガで学校を休まなければならなかったことがあるか [N=1,133]



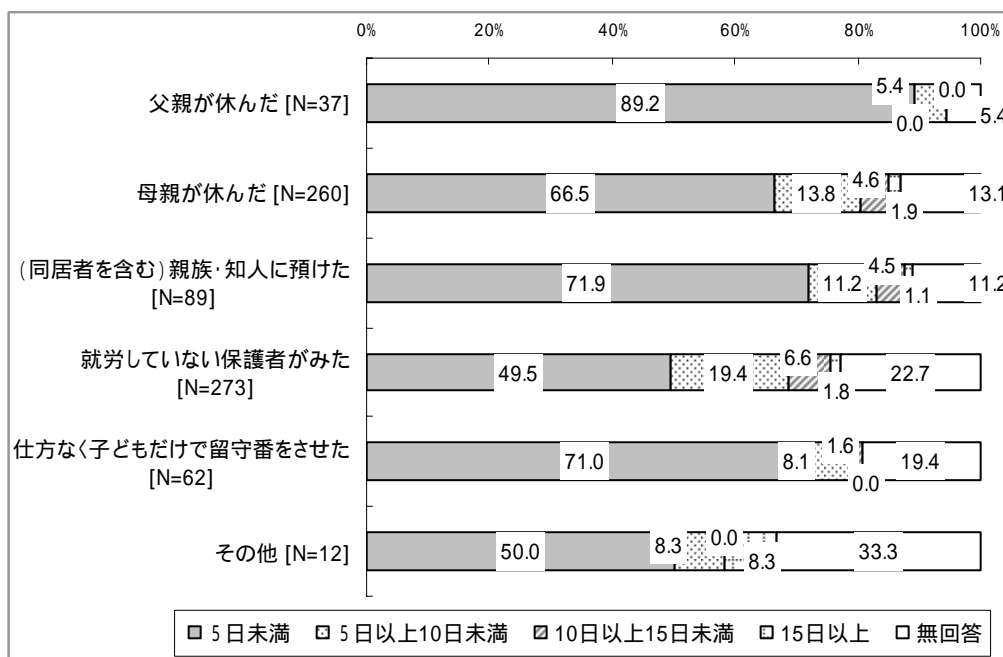
この1年間に、子どもの病気やケガで学校を休まなければならなかったことが「あった」と回答した人に、その場合の対処方法を聞いたところ、「就労していない保護者がみた」という人の割合が最も高く42.7%、次いで、「母親が休んだ」(40.6%)、「(同居者を含む)親族・知人に預けた」(13.9%)の順に高い割合となっています。

図表 II-220 子どもの病気やケガで学校を休まなければならなかった場合の対処方法 [N=640; 複数回答]



対処方法ごとに日数を見ると、「父親が休んだ」日数は、「5日未満」が大半を占めており89.2%となっています。「母親が休んだ」「(同居者を含む)親族・知人に預けた」「仕方なく子どもだけで留守番をさせた」日数は、「5日未満」の割合が最も高く6.5~7割となっており、「母親が休んだ」「(同居者を含む)親族・知人に預けた」では、「5日以上10日未満」も約1割となっています。「就労していない保護者が見た」日数は、「5日未満」(49.5%)、「5日以上10日未満」(19.4%)の順に高い割合となっています。

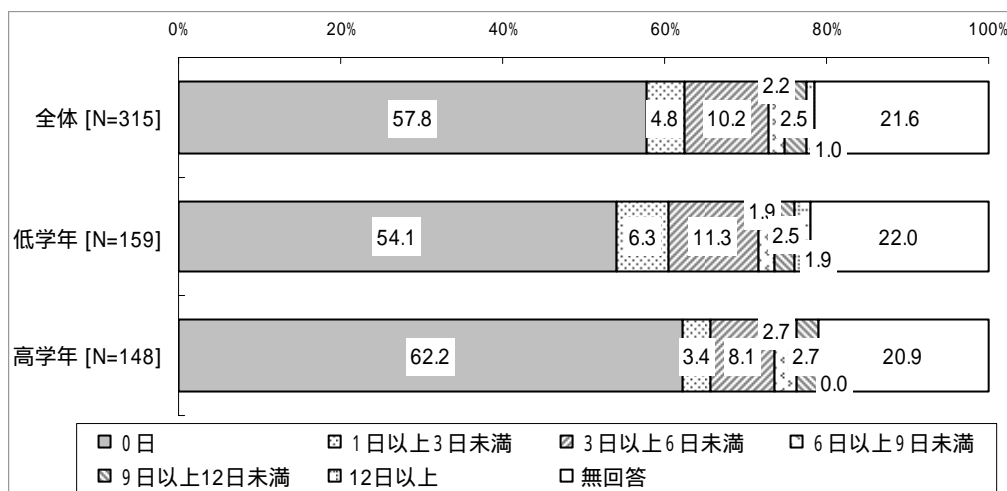
図表 II-221 子どもの病気やケガで学校を休まなければならなかった場合の対処方法ごとの日数



対処方法として、「父親が休んだ」「母親が休んだ」「(同居者を含む)親族・知人に預けた」と回答した人に、できれば病後児保育のサービスなどを利用したいと思った日数を聞いたところ、「0日」という人の割合が最も高く57.8%、次いで、「3日以上6日未満」という人の割合が高く10.2%となっています。

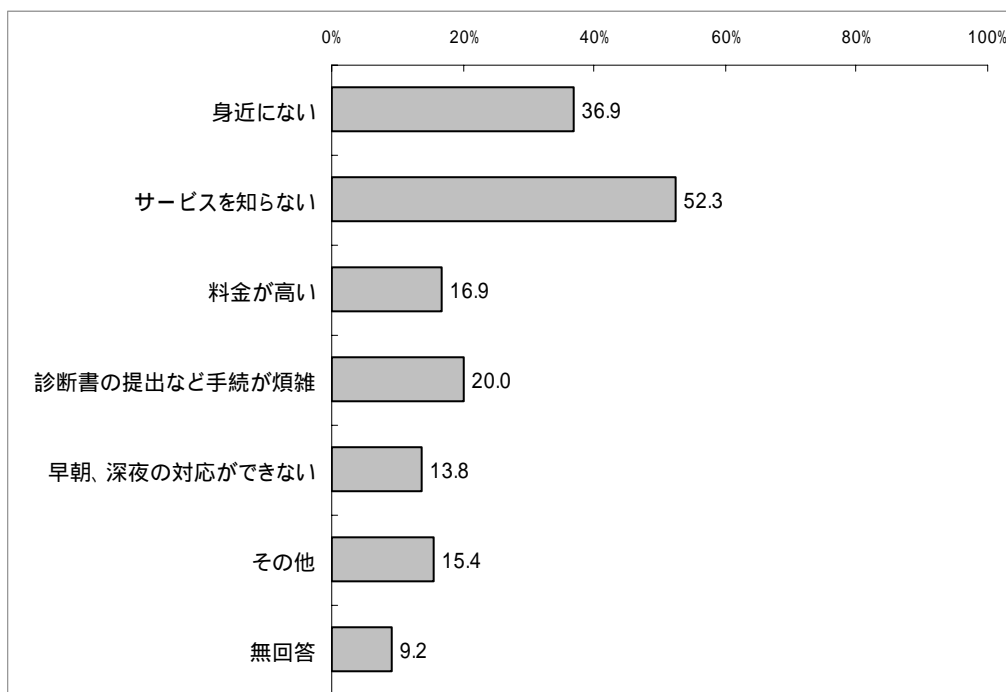
学年別に見ると、1日以上と回答している人の割合は低学年の方が高くなっています。

図表 II-222 できれば病後児保育のサービスなどを利用したいと思った日数[N=315]



できれば病後児保育サービスなどを利用したいと思った日数を1日以上と回答した人に、利用しなかった理由を聞いたところ、「サービスを知らない」という人の割合が最も高く52.3%、次いで、「身近にない」という人の割合が高く36.9%となっています。

図表 II-223 病後児保育サービスを利用しなかった理由[N=65；複数回答]

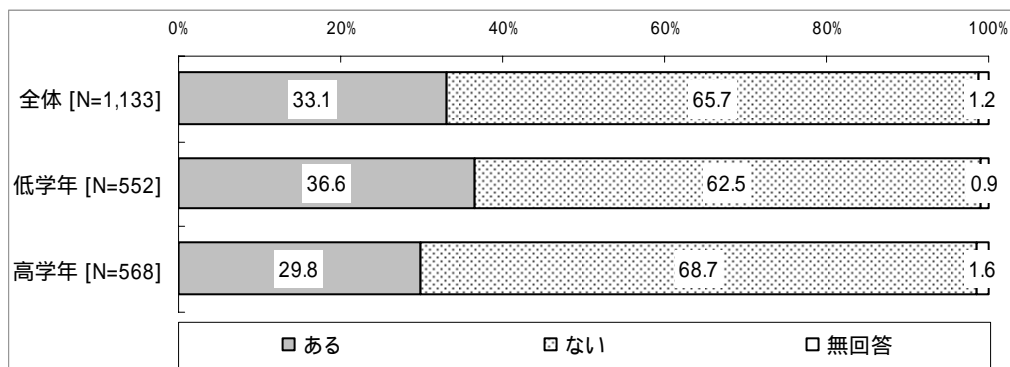


## 5 . 一時預かり、宿泊を伴う一時預かり

### ( 1 ) 一時預かりについて

この1年間で、私用(買い物、習い事、スポーツ、会合、美容院など)やリフレッシュ目的、冠婚葬祭や保護者の病気あるいは就労のため、子どもを家族以外の誰かに一時的に預けたことがあったかを聞いたところ、「ある」という人が33.1%、「ない」という人が65.7%となっています。学年別に見ると「ある」という人の割合は低学年の方が高くなっています。

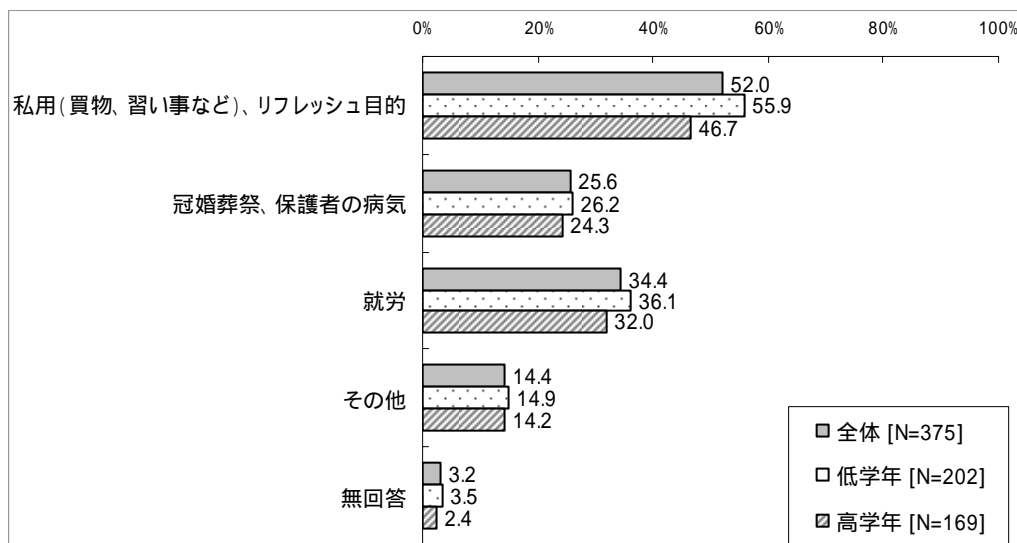
図表 II-224 この1年間で、私用やリフレッシュ目的、冠婚葬祭や保護者の病気あるいは就労のため、子どもを家族以外の誰かに一時的に預けたことがあるか[N=1,133]



子どもを家族以外の誰かに一時的に預けたことが「ある」と回答した人に、その理由を聞いたところ、「私用(買物、習い事など) リフレッシュ目的」という人の割合が最も高く52.0%、次いで「就労」(34.4%)、「冠婚葬祭、保護者の病気」(25.6%)の順に高い割合となっています。

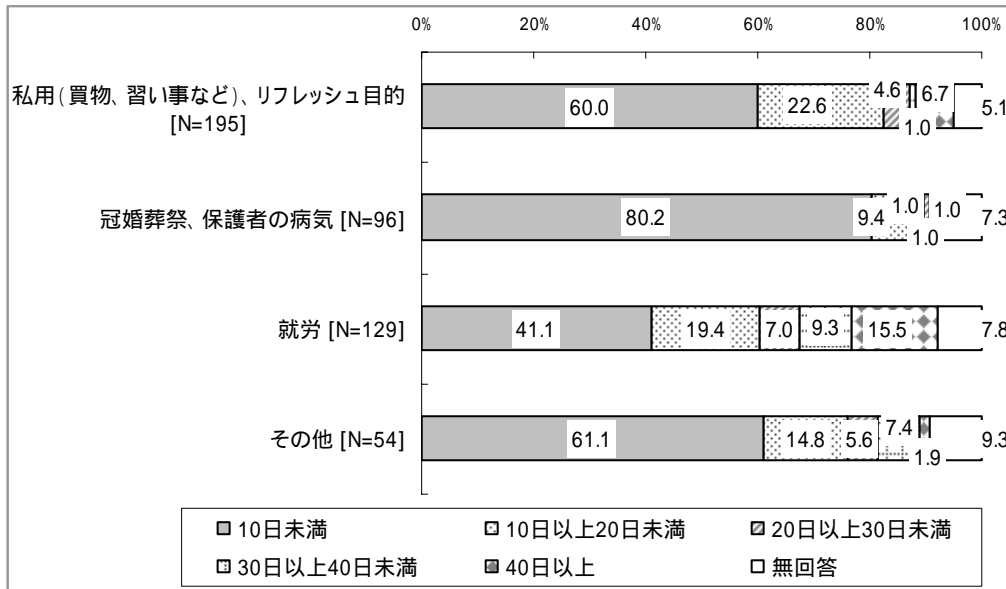
これを学年別に見ると、「私用(買物、習い事など) リフレッシュ目的」という人の割合は、低学年の方が高くなっています。

図表 II-225 一時的に預けた理由[N=375 ; 複数回答]



一時的に預けた理由ごとに日数を見ると、「私用（買い物、習い事など）、リフレッシュ目的」では、「10日未満」の割合が最も高く60.0%、次いで「10日以上20日未満」の割合が高く22.6%となっています。「冠婚葬祭、保護者の病気」では、「10日未満」が大半となっており、80.2%となっています。「就労」では、割合の高い順に、「10日未満」（41.1%）、「10日以上20日未満」（19.4%）、「40日以上」（15.5%）等となっています。

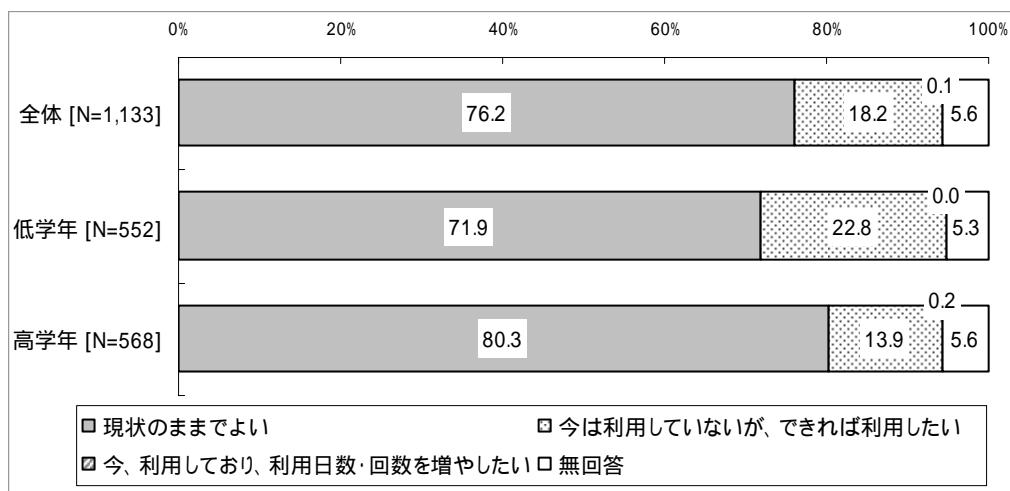
図表 II-226 一時的に預けた理由ごとの日数



一時預かりのサービスの利用希望を聞いたところ、「現状のままでよい」という人の割合が最も高く76.2%、次いで、「今は利用していないが、できれば利用したい」という人の割合が高く18.2%となっています。

これを学年別に見ると、「現状のままでよい」という人の割合は、高学年の方が高くなっています。

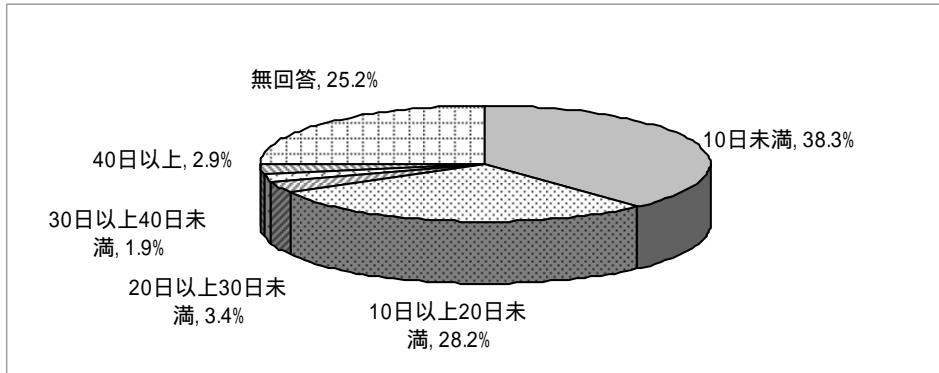
図表 II-227 一時預かりのサービスの利用希望[N=1,133]





一時預かりのサービスを「今は利用していないが、できれば利用したい」と回答した人に、希望する1年あたりの利用日数を聞いたところ、割合の高い順に、「10日未満」(38.3%)、「10日以上20日未満」(28.2%)となっています。

図表 II-228 一時預かりサービスを今後利用したい人の、1年あたりの利用希望日数[N=206]

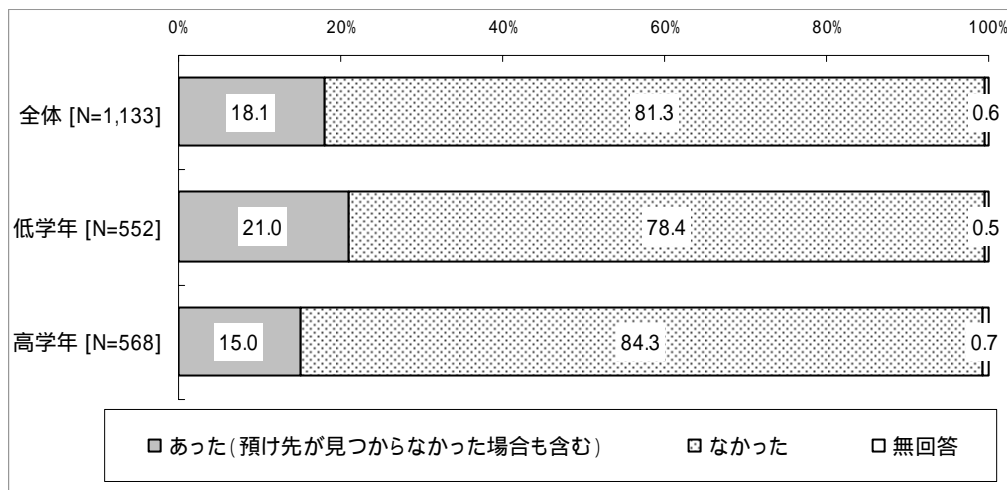


## (2) 宿泊を伴う一時預かり

この1年間に、保護者の用事などにより、子どもを泊まりがけで預けなければならないことはあったかを聞いたところ、「あった(預け先が見つからなかった場合も含む)」という人は18.1%、「なかった」という人は81.3%となっています。

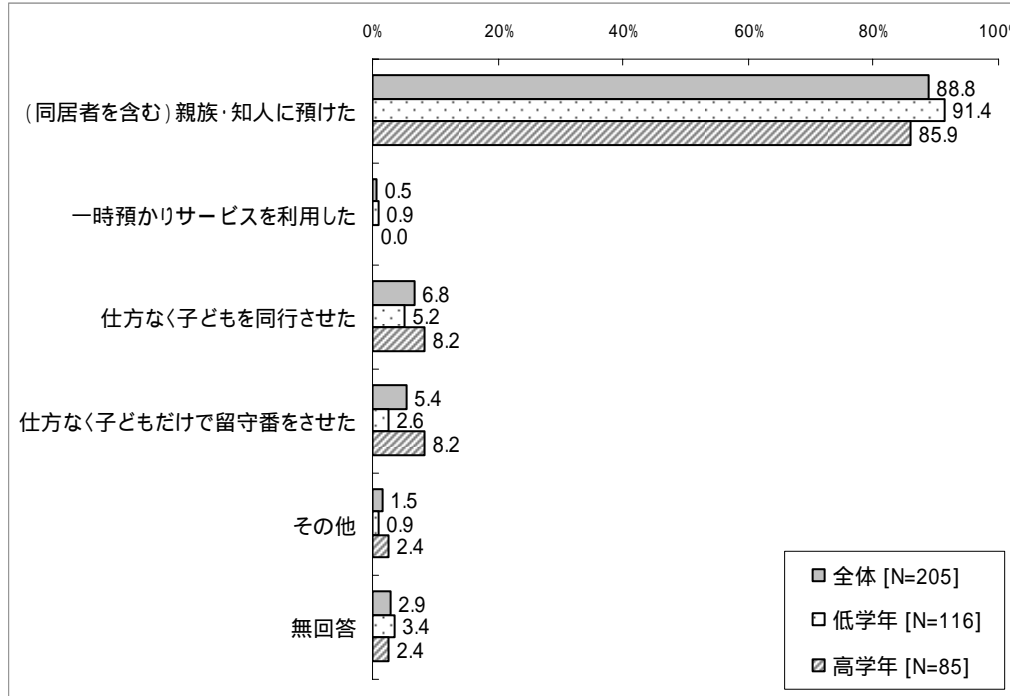
これを学年別に見ると、「あった(預け先が見つからなかった場合も含む)」という人の割合は、低学年の方が高くなっています。

図表 II-229 この1年間に、子どもを泊まりがけで預けなければならないことはあったか[N=1,133]



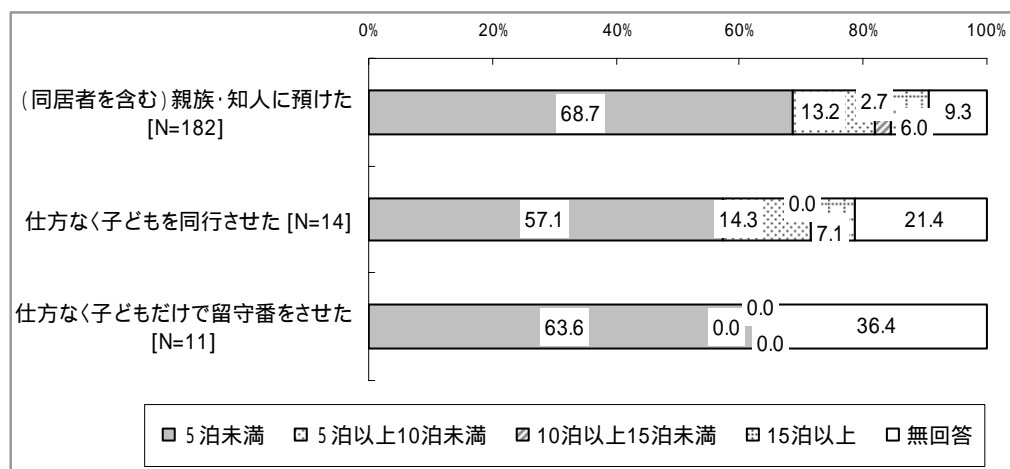
この1年間に、保護者の用事などにより、子どもを泊まりがけで預けなければならないことが「あった」と回答した人に、その場合の対処方法を聞いたところ、「(同居者を含む)親族・知人に預けた」という人の割合が最も高く88.8%となっています。

図表 II-230 子どもを泊まりがけで預けなければならなかった場合の対処方法[N=205；複数回答]



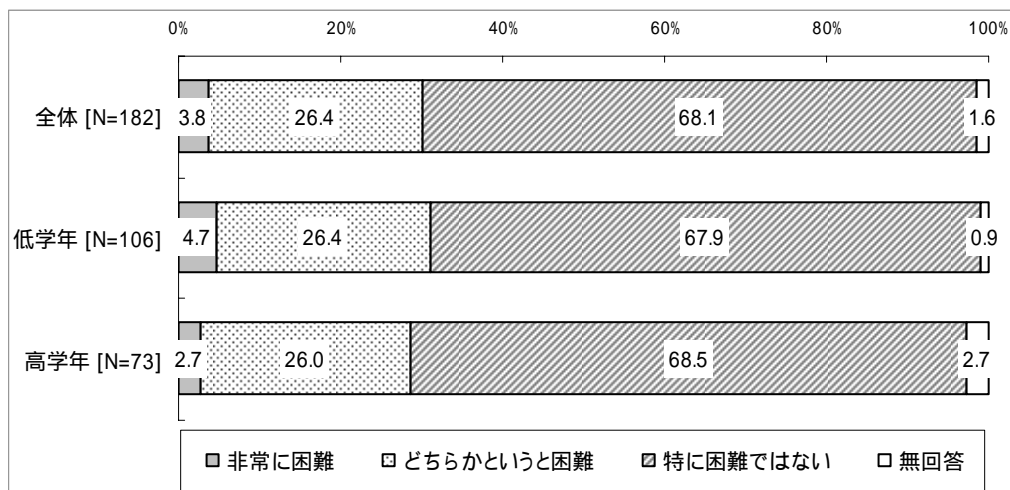
対処方法ごとに泊数を見ると、「(同居者を含む)親族・知人に預けた」泊数は、「5泊未満」の割合が最も高く68.7%、次いで、「5泊以上10泊未満」の割合が高く13.2%となっています。「仕方なく子どもを同行させた」泊数は、割合の高い順に「5泊未満」(57.1%)、「5泊以上10泊未満」(14.3%)となっています。

図表 II-231 子どもを泊りがけで預けなければならなかった場合の対処方法ごとの泊数



対処方法として、「(同居者を含む)親族・知人に預けた」と回答した人に、それが困難だったか聞いたところ、「特に困難ではない」という人の割合が最も高く68.1%、次いで、「どちらかという困難」という人の割合が高く26.4%となっています。

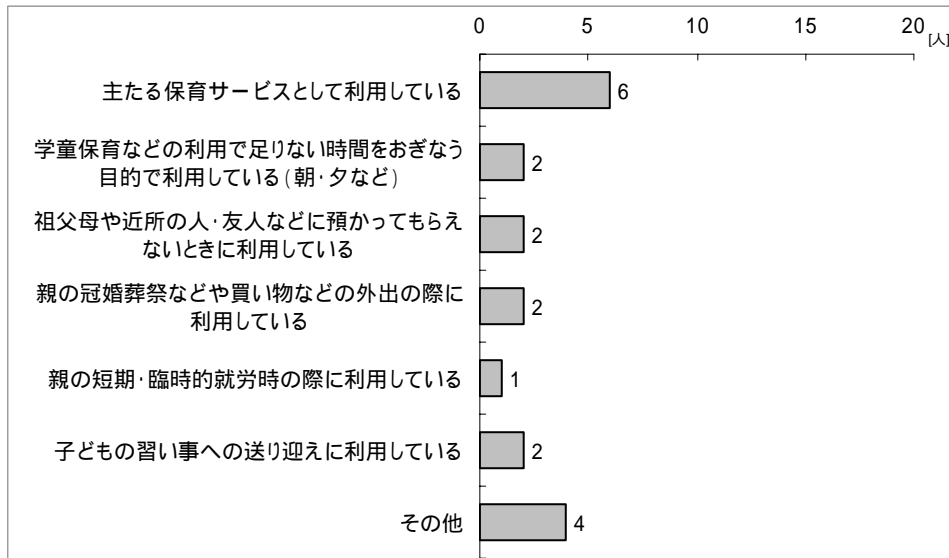
図表 II-232 親族・知人に預けることの困難度[N=182]



## 6 . ベビーシッターの利用状況と今後の利用希望

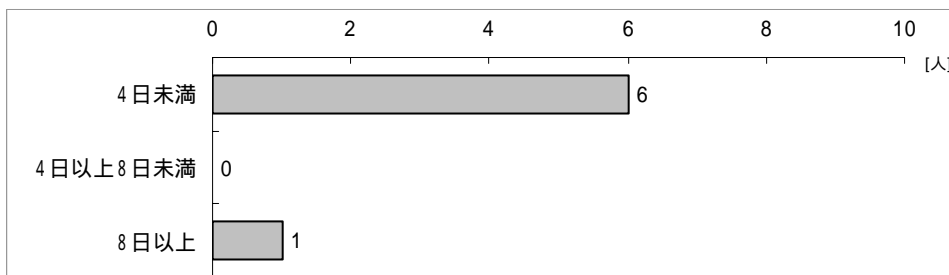
ベビーシッターを利用している人に、その目的を聞いたところ、「主たる保育サービスとして利用している」という人が6人となっています。

図表 II-233 ベビーシッターの利用目的[N=16 ; 無回答を除く]

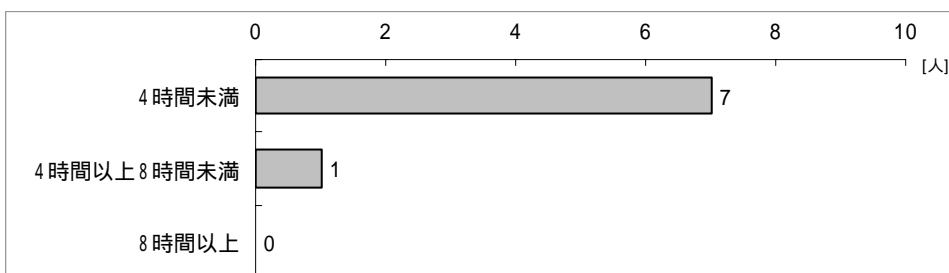


ベビーシッターを利用している人の、1月あたりの利用日数は、「4日未満」が6人、1回あたりの利用時間は「4時間未満」が7人となっています。

図表 II-234 ベビーシッターの1月あたりの利用日数[N=7 ; 無回答を除く]

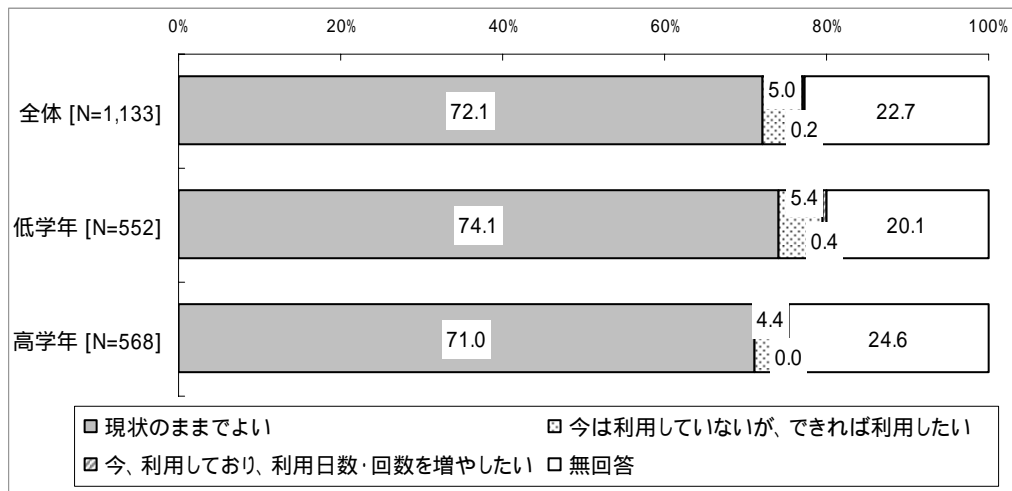


図表 II-235 ベビーシッターの1回あたりの利用時間[N=8 ; 無回答を除く]



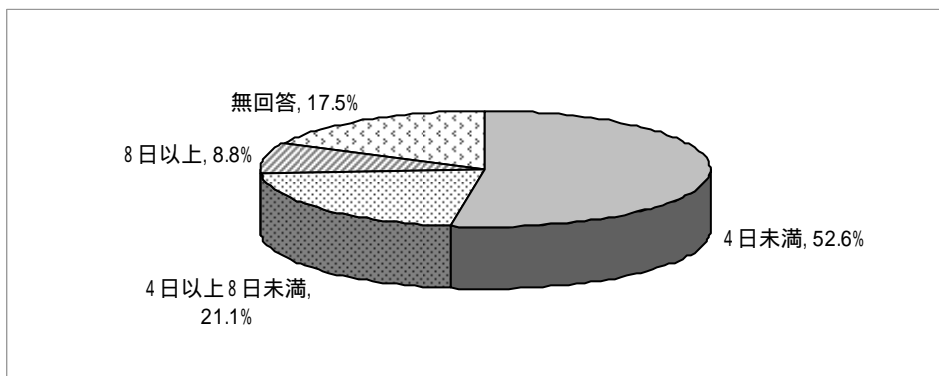
ベビーシッターの利用希望を聞いたところ、「現状のままでよい」という人の割合が最も高く 72.1%となっています。

図表 II-236 ベビーシッターの利用希望[N=1,133]



ベビーシッターを「今は利用していないが、できれば利用したい」と回答した人に、希望する1月あたりの利用日数を聞いたところ、「4日未満」の割合が最も高く 52.6%、次いで「4日以上8日未満」の割合が高く 21.1%となっています。

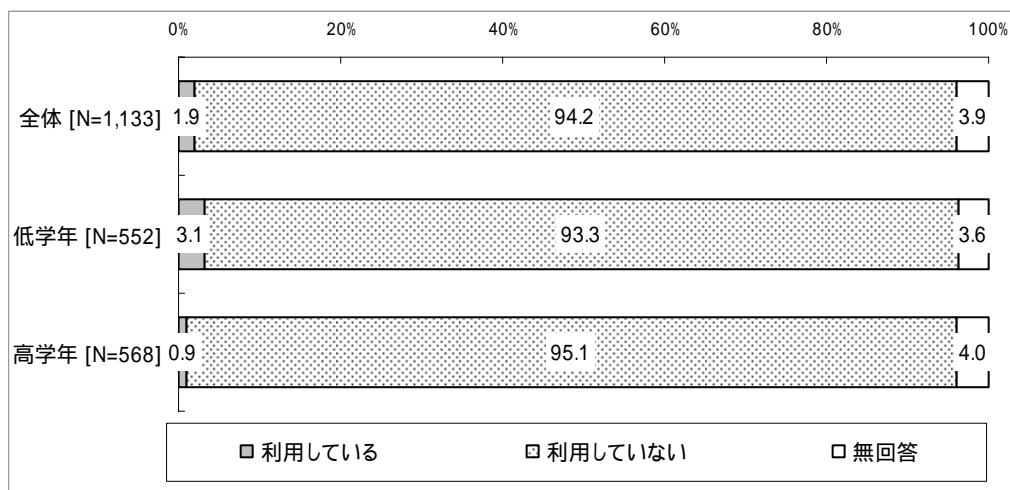
図表 II-237 ベビーシッターを今後利用したい人の、1月あたりの利用希望日数[N=57]



## 7. ファミリーサポートセンターの利用状況

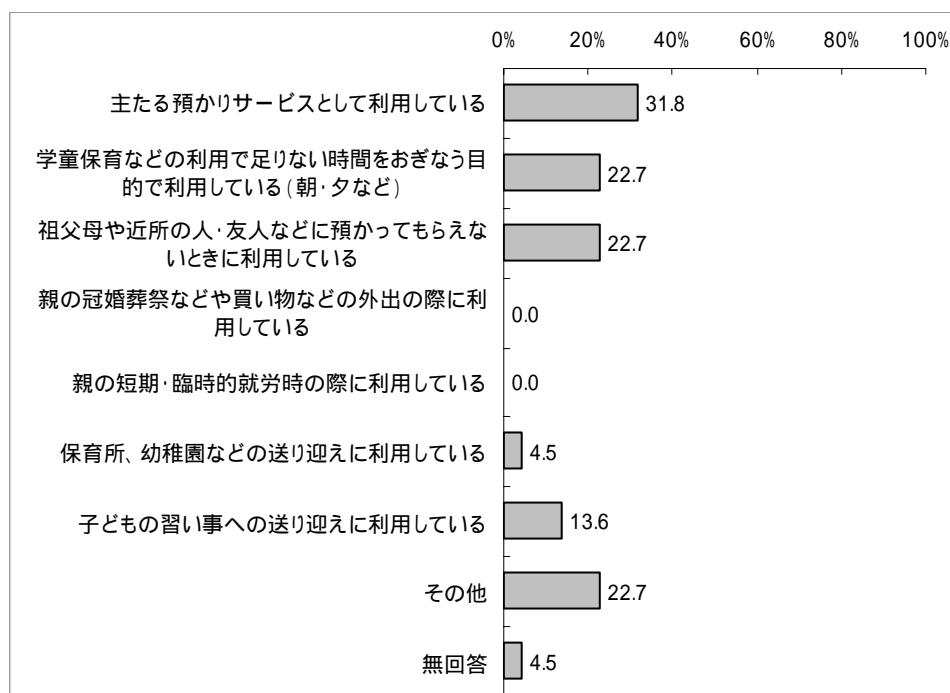
ファミリーサポートセンターの利用の有無については、「利用していない」という人が大半を占めており、94.2%となっています。

図表 II-238 ファミリーサポートセンターの利用の有無[N=1,133]



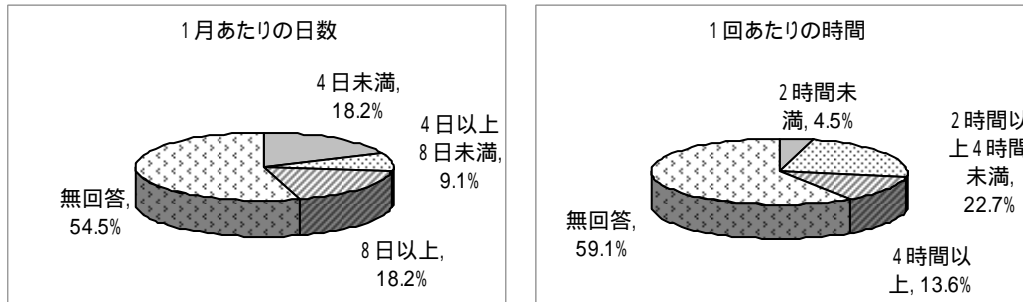
ファミリーサポートセンターを利用している人に、その目的を聞いたところ、割合の高い順に、「主たる預かりサービスとして利用している」(31.8%)、「学童保育などの利用で足りない時間をおぎなう目的で利用している(朝・夕など)」(22.7%)、「祖父母や近所の人・友人などに預かってもらえないときに利用している」(22.7%)となっています。

図表 II-239 ファミリーサポートセンターの利用目的[N=22]



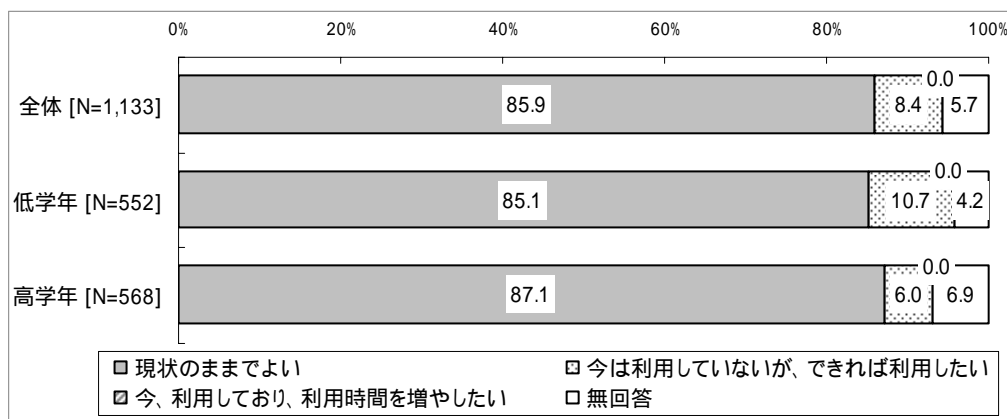
ファミリーサポートセンターを利用している人に、利用頻度を聞いたところ、1月あたりの日数としては、「4日未満」「8日以上」がいずれも18.2%、1回あたりの利用時間としては、「2時間以上4時間未満」(22.7%)の割合が最も高くなっています。

図表 II-240 ファミリーサポートセンターの1月あたりの利用日数、1回あたりの利用時間[N=22]



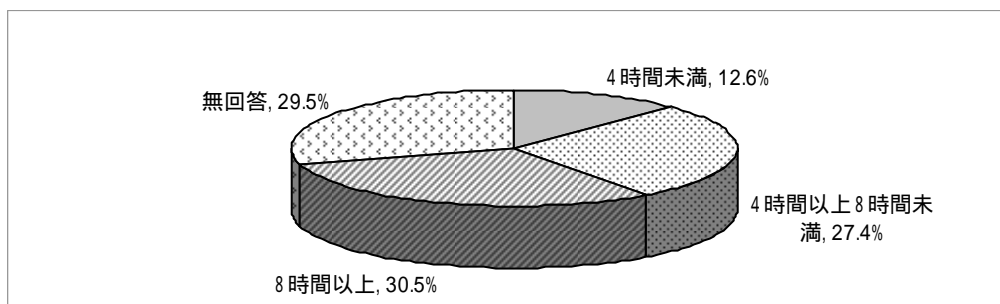
ファミリーサポートセンターの利用希望を聞いたところ、「現状のままでよい」という人が大半を占めており、85.9%となっています。

図表 II-241 ファミリーサポートセンターの利用希望[N=1,133]



ファミリーサポートセンターを「今は利用していないが、できれば利用したい」と回答した人に、希望する1月あたりの利用時間を聞いたところ、割合の高い順に、「8時間以上」(30.5%)、「4時間以上8時間未満」(27.4%)となっています。

図表 II-242 ファミリーサポートセンターを今後利用したい人の、1月あたりの利用希望時間[N=95]



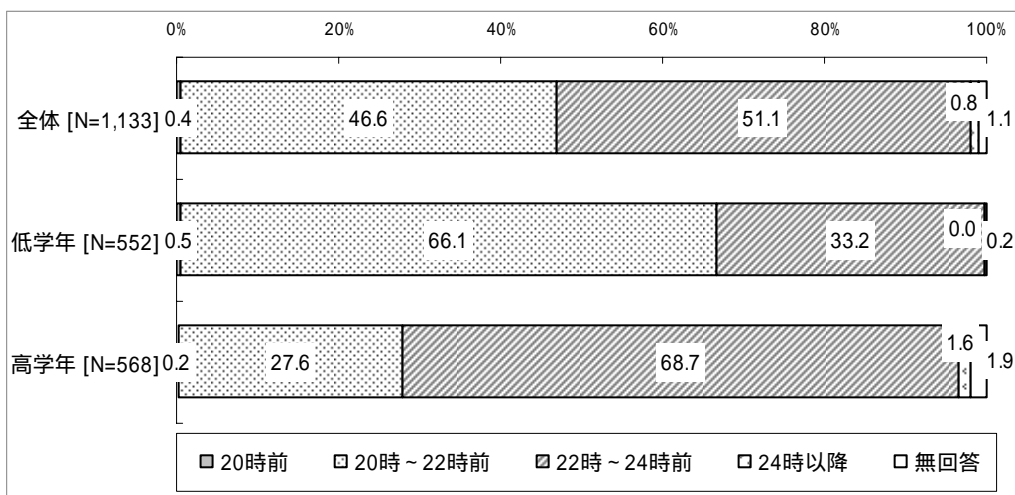
## 8. 子どもの生活の様子

### (1) 起床時間、就寝時間

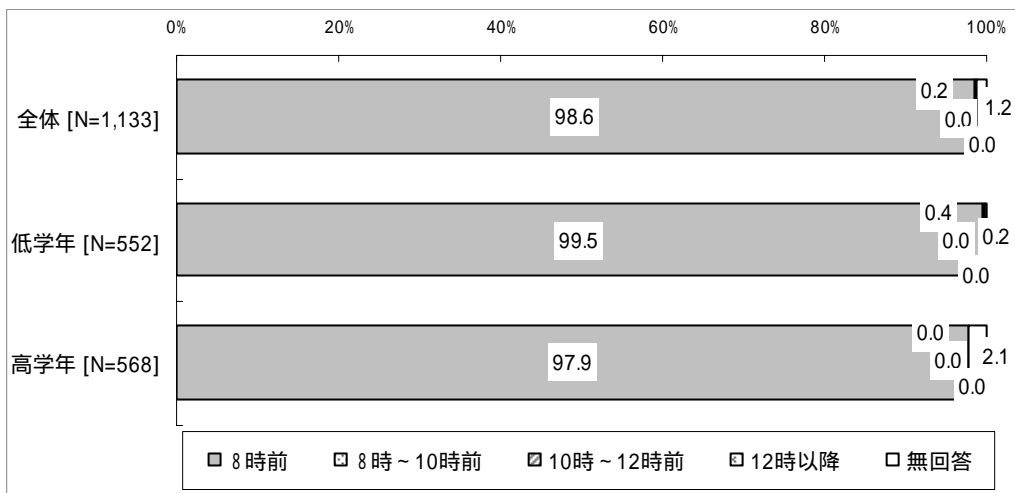
調査対象の子どもの平日の就寝時間は、「22時～24時前」(51.1%)、「20時～22時前」(46.6%)の順に高い割合となっています。また、起床時間は、「8時前」が大半となっており98.6%となっています。

これを学年別に見ると、就寝時間については、低学年の方が早い時間の人の割合が高くなっています。

図表 II-243 平日の就寝時間[N=1,133]



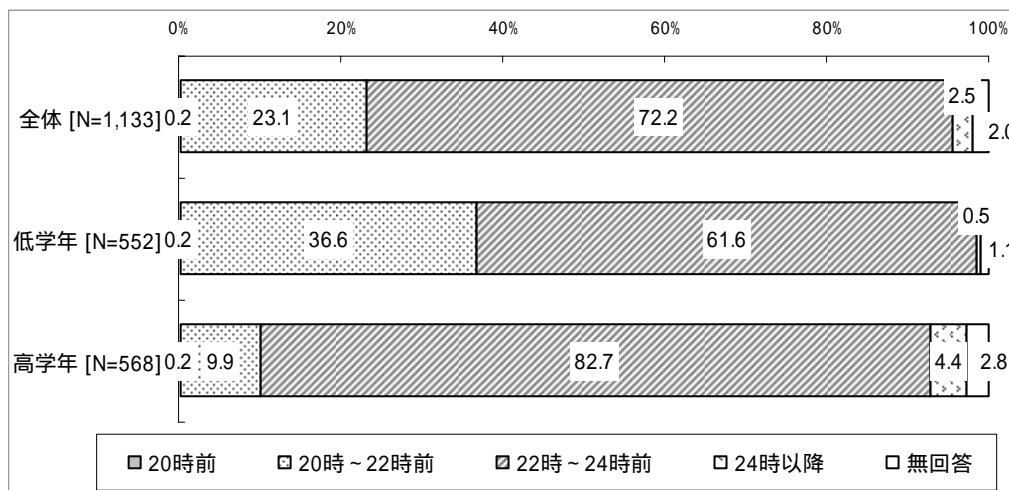
図表 II-244 平日の起床時間[N=1,133]





休前日の就寝時間は、割合の高い順に、「22時～24時前」(72.2%)、「20時～22時前」(23.1%)と、平日に比べて「22時～24時前」の割合が高くなっています。これを学年別に見ると、低学年の方が早い時間の人の割合が高くなっています。

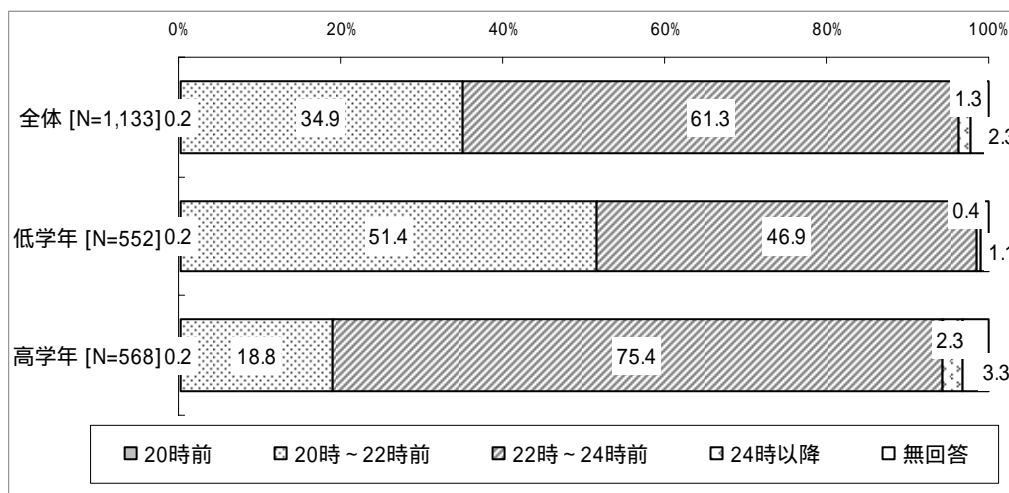
図表 II-245 休前日の就寝時間[N=1,133]



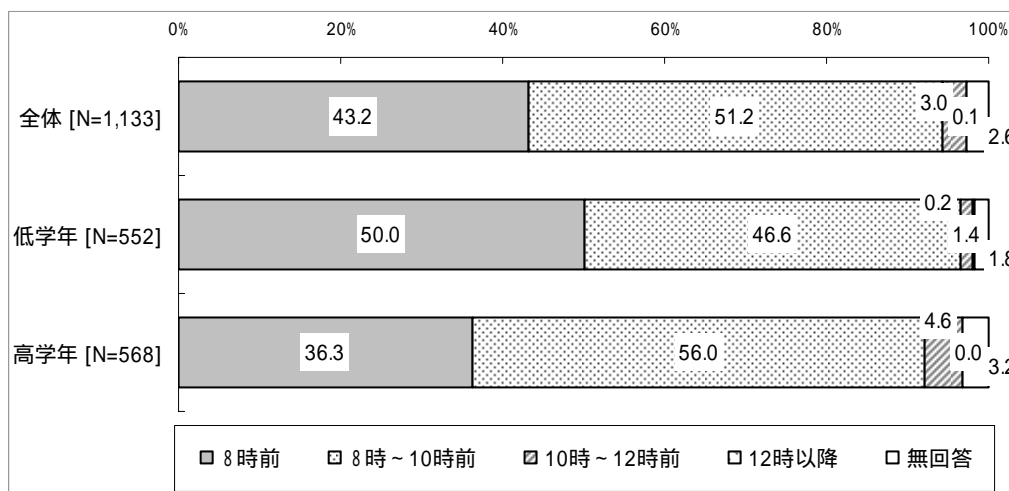
休日の就寝時間は、「22時～24時前」の割合が最も高く61.3%、次いで「20時～22時前」の割合が高く34.9%となっています。また、起床時間は、割合の高い順に、「8時～10時前」(51.2%)、「8時前」(43.2%)と、平日に比べて「8時～10時前」の割合が高くなっています。

これを学年別に見ると、就寝時間、起床時間ともに、低学年の方が早い時間の人の割合が高くなっています。

図表 II-246 休日の就寝時間[N=1,133]



図表 II-247 休日の起床時間[N=1,133]

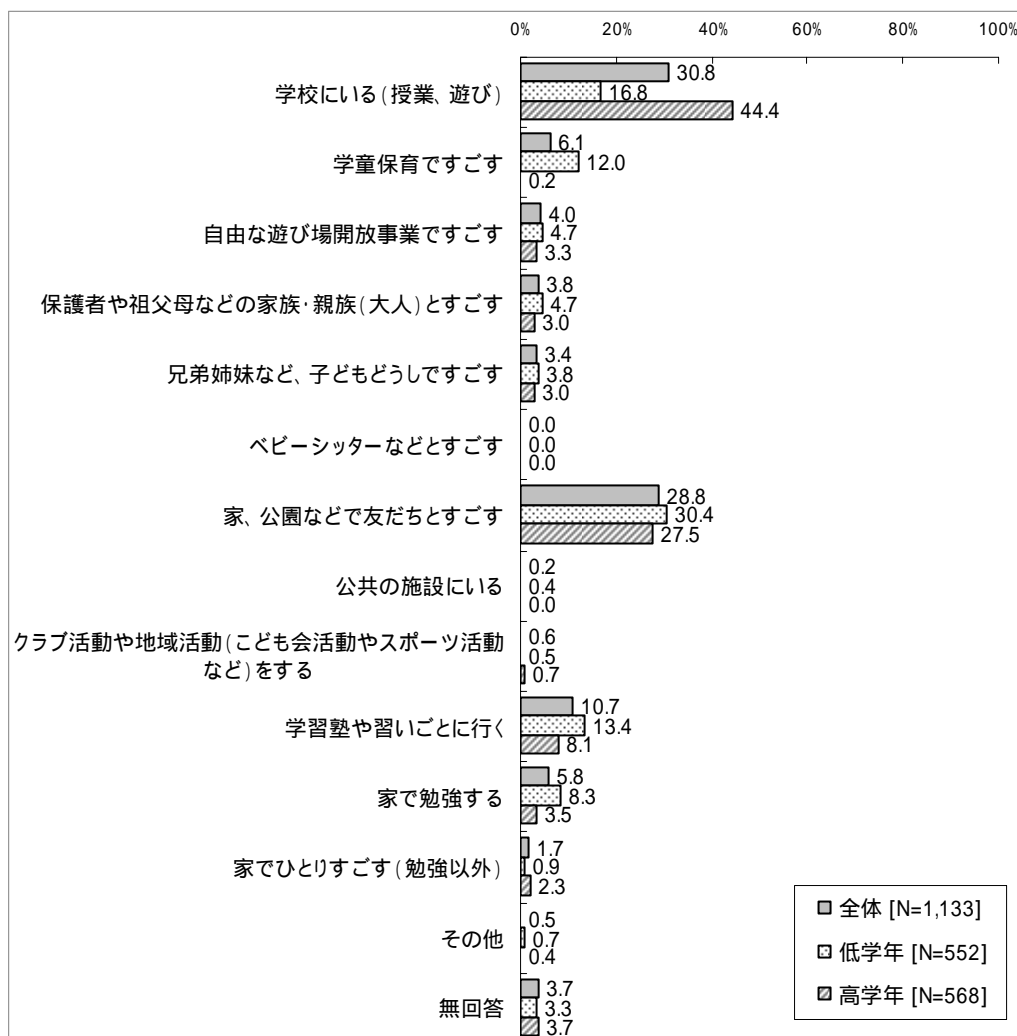


## (2) 普段の過ごし方

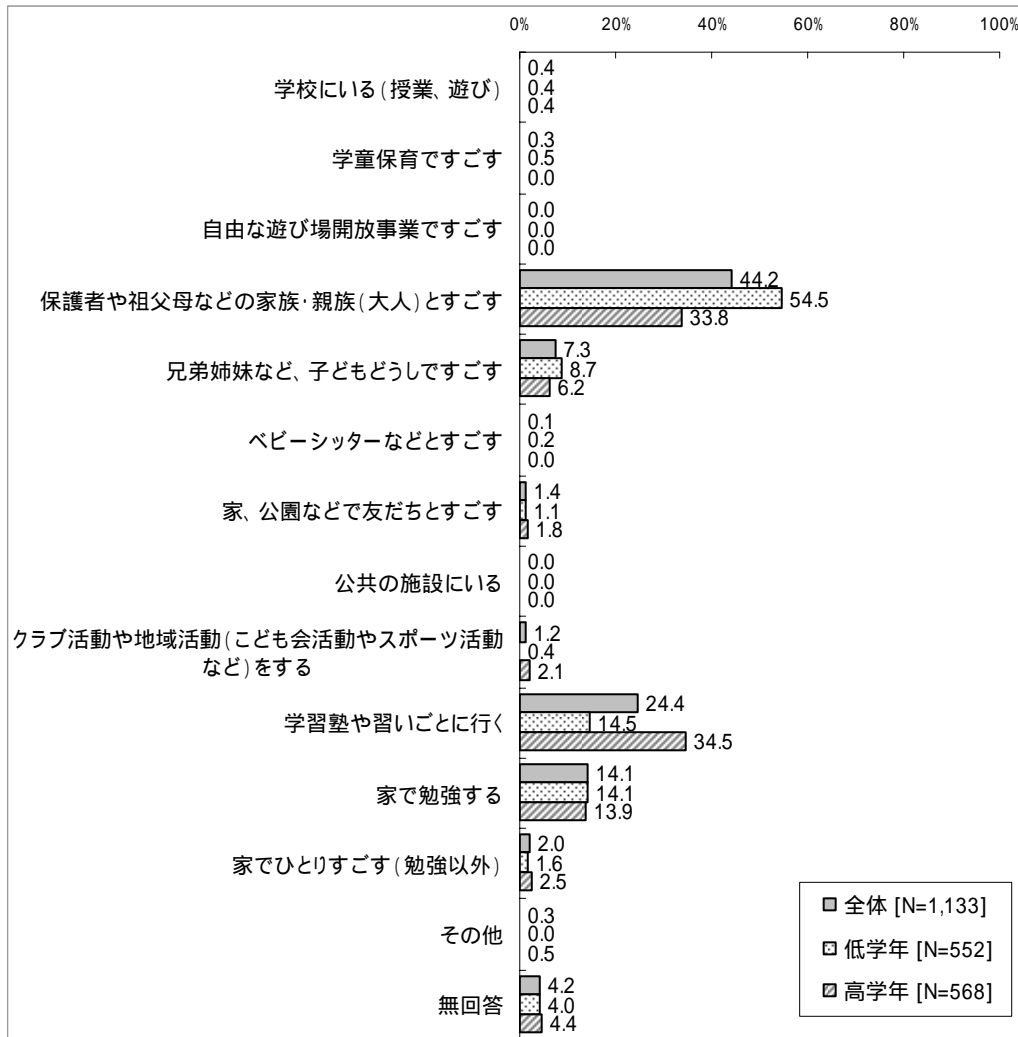
調査対象の子どもの平日の放課後の過ごし方を聞いたところ、14～17時は、「学校にいる(授業、遊び)」(30.8%)、「家、公園などで友だちと過ごす」(28.8%)の順に高い割合となっています。17～20時は、「保護者や祖父母などの家族・親族(大人)と過ごす」(44.2%)、「学習塾や習いごとに行く」(24.4%)の順に高い割合となっています。20時以降は、「保護者や祖父母などの家族・親族(大人)と過ごす」が大半を占めており、81.0%となっています。

これを学年別に見ると、17～20時においては、「保護者や祖父母などの家族・親族(大人)と過ごす」という人の割合は低学年の方が高く、「学習塾や習いごとに行く」という人の割合は高学年の方が高くなっています。

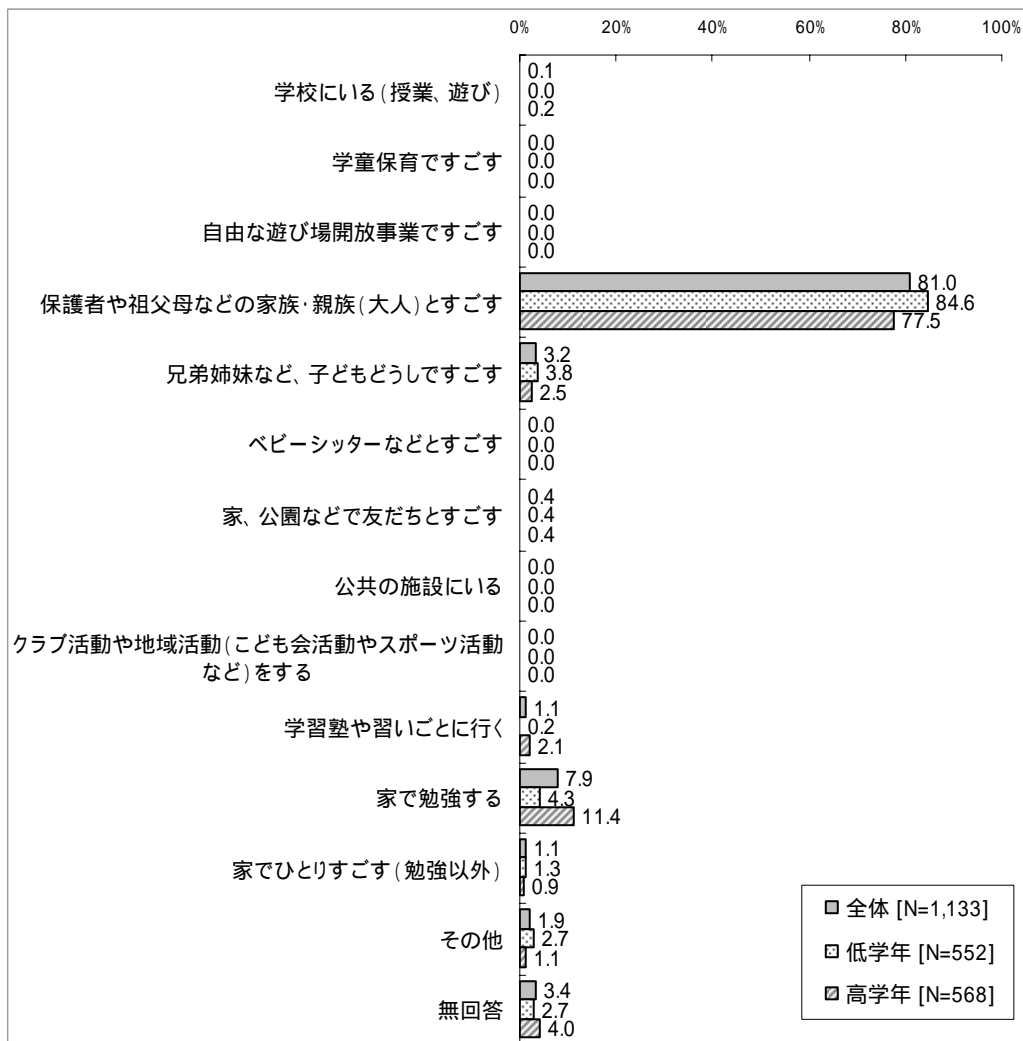
図表 II-248 平日の放課後の過ごし方(14～17時) [N=1,133]



図表 II-249 平日の放課後の過ごし方（17～20時）[N=1,133]



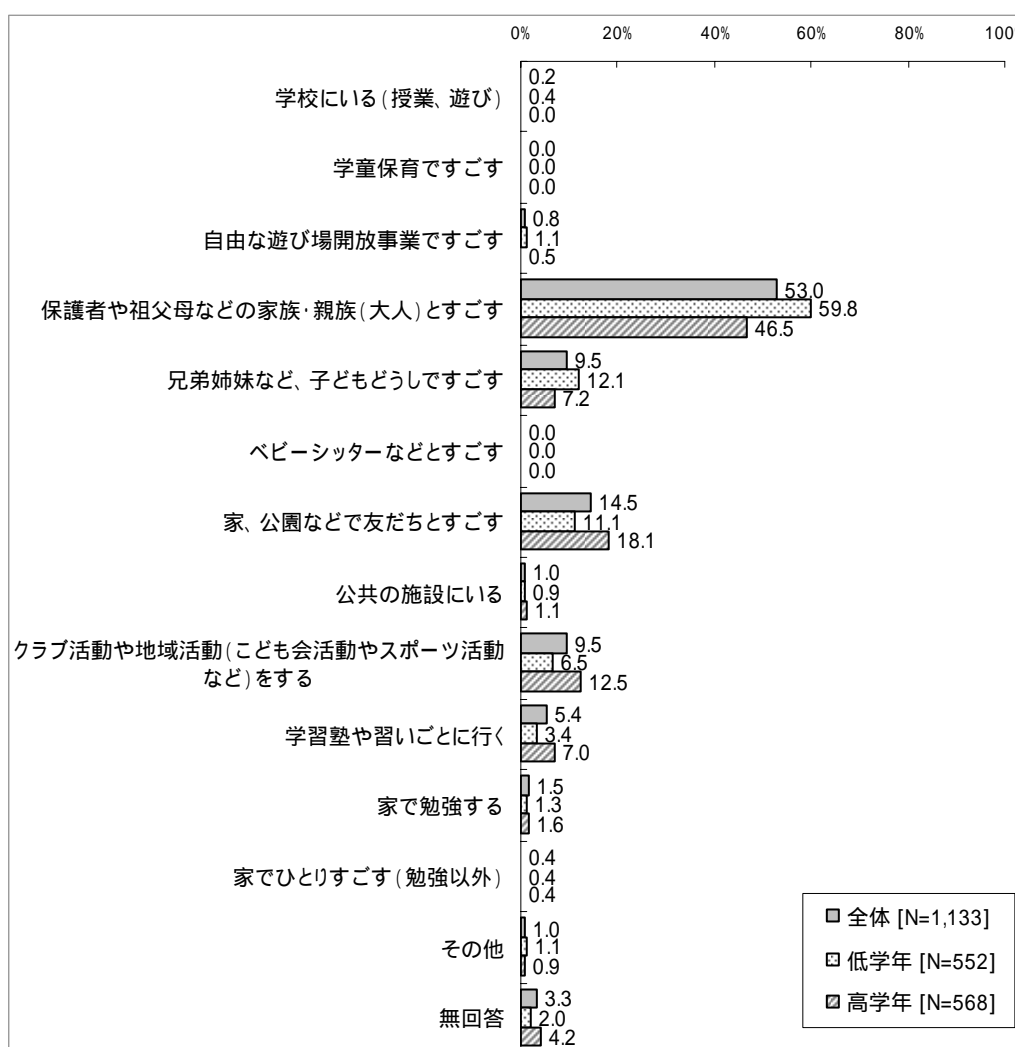
図表 II-250 平日の放課後の過ごし方（20時以降） [N=1,133]



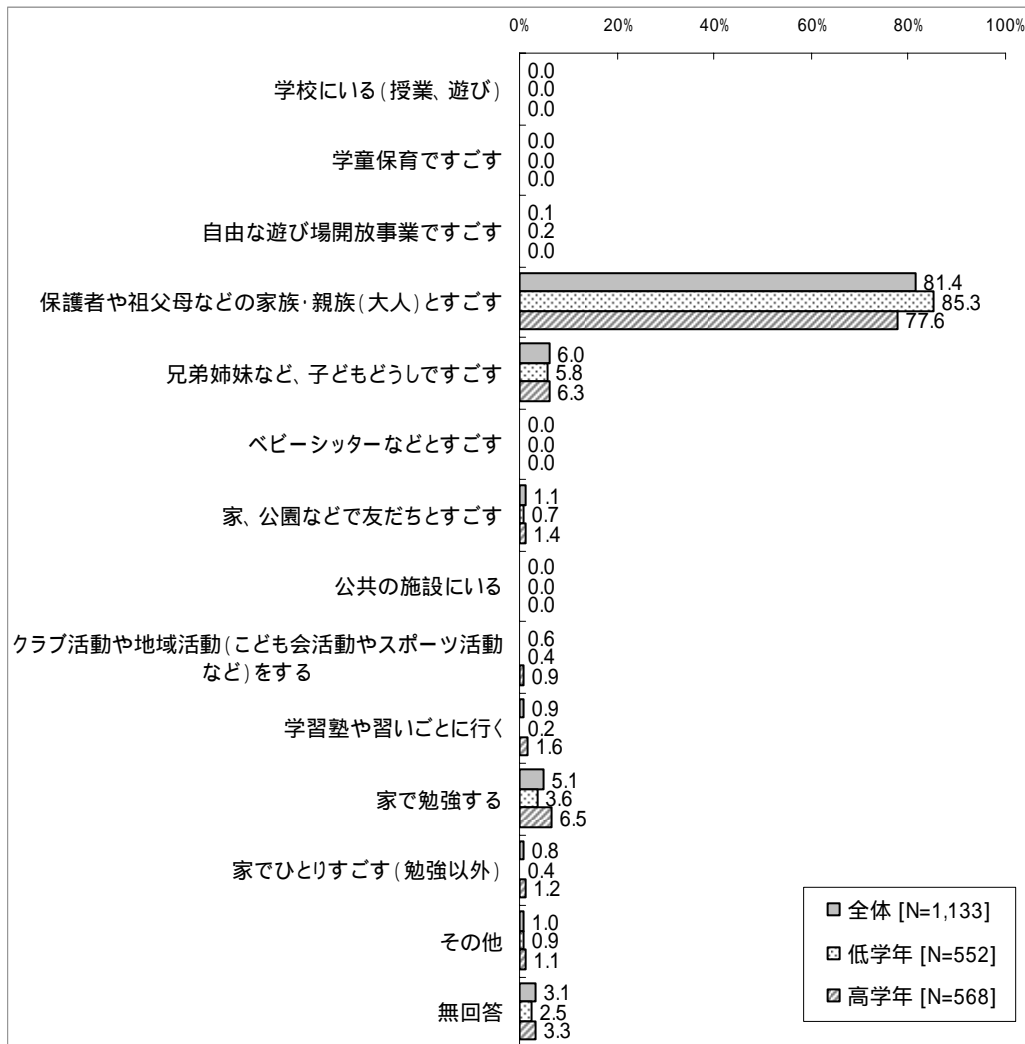
調査対象の子どもの休日の過ごし方を聞いたところ、14～17時は、「保護者や祖父母などの家族・親族(大人)とすごす」の割合が最も高く53.0%、次いで「家、公園などで友だちとすごす」の割合が高く14.5%となっています。17～20時、20時以降は、「保護者や祖父母などの家族・親族(大人)とすごす」(17～20時：81.4%、20時以降：86.1%)が大半を占めています。

これを学年別に見ると、14～17時においては、「保護者や祖父母などの家族・親族(大人)とすごす」という人の割合は低学年の方が高く、「家、公園などで友だちとすごす」「クラブ活動や地域活動(子ども会活動やスポーツ活動など)」という人の割合は高学年の方が高くなっています。

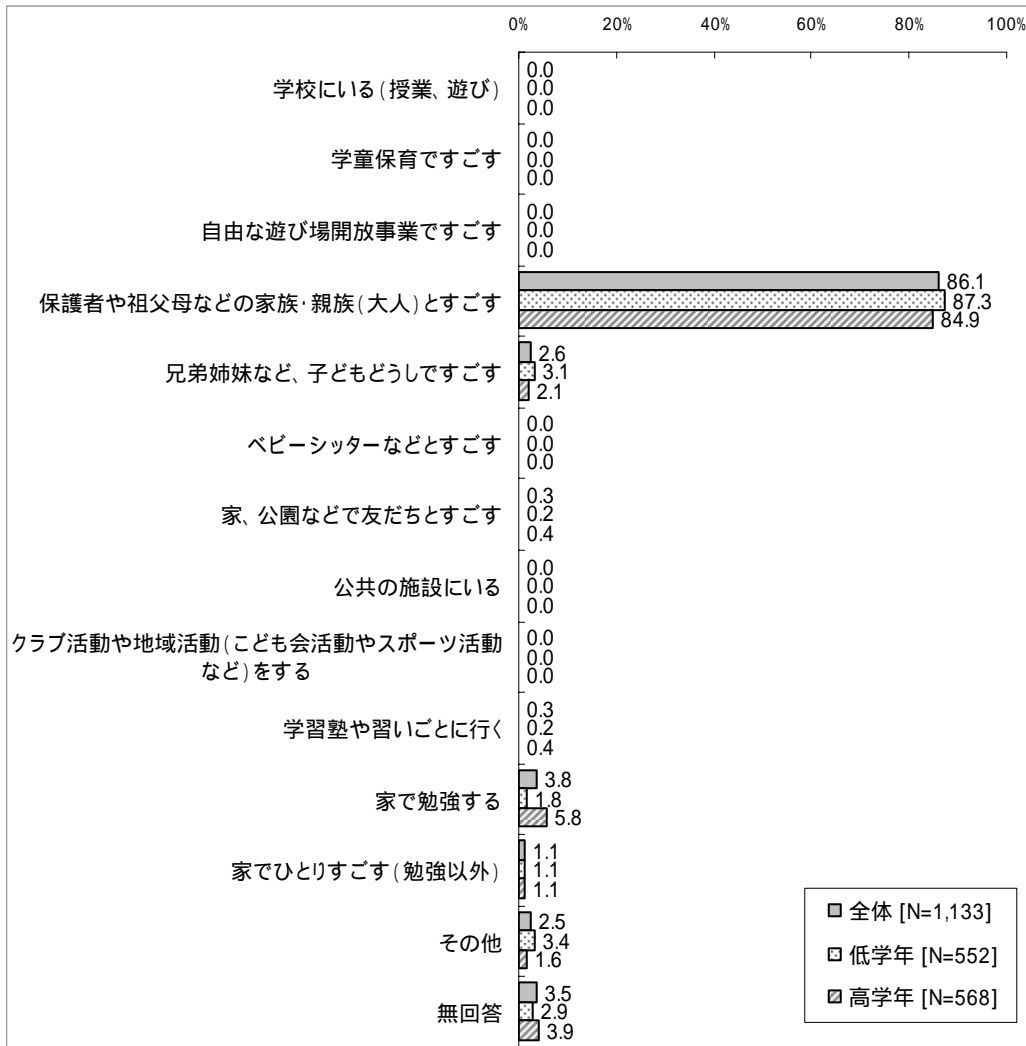
図表 II-251 休日の過ごし方(14～17時) [N=1,133]



図表 II-252 休日の過ごし方 (17~20時) [N=1,133]



図表 II-253 休日の過ごした方（20 時以降） [N=1,133]





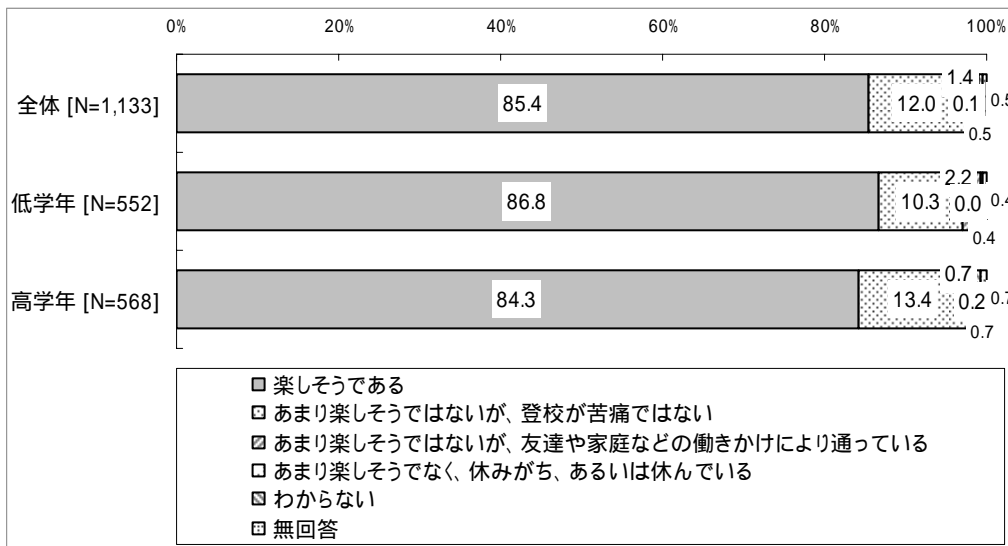
### (3) 学校生活について

子どもは学校に行くのが楽しそうか聞いたところ、「楽しそうである」という人が大半を占めており、85.4%となっています。一方で、「あまり楽しそうではないが、登校が苦痛ではない」という人も12.0%となっています。

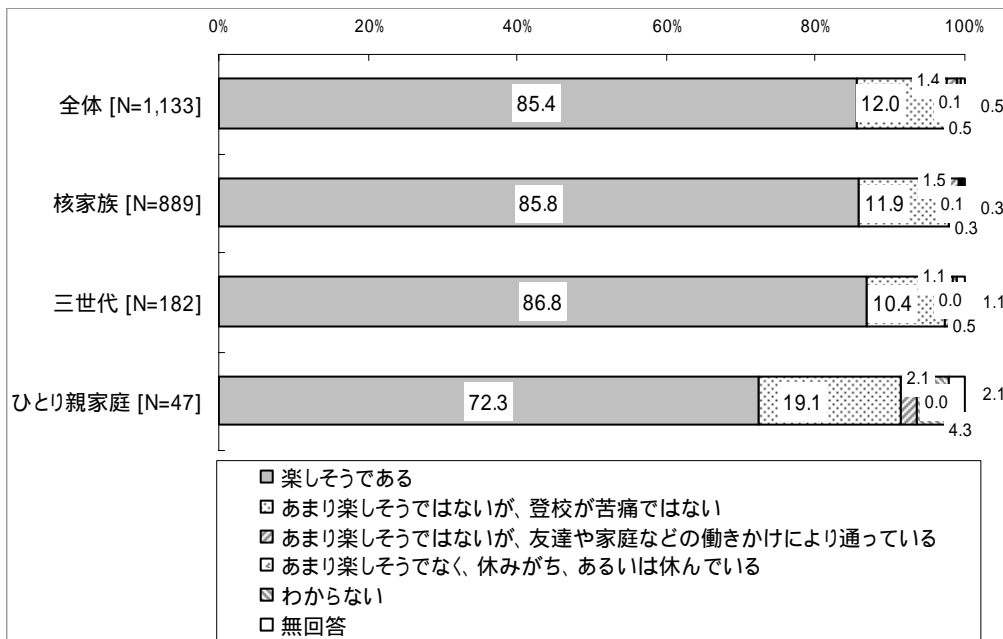
これを家族構成別に見ると、「あまり楽しそうではないが、登校が苦痛ではない」という人の割合は、ひとり親家庭で高くなっています。

また、前回調査と比較すると、「楽しそうである」という人の割合は、4.4ポイント上昇、「あまり楽しそうではないが、登校が苦痛ではない」という人の割合は4.7ポイント低下しています。

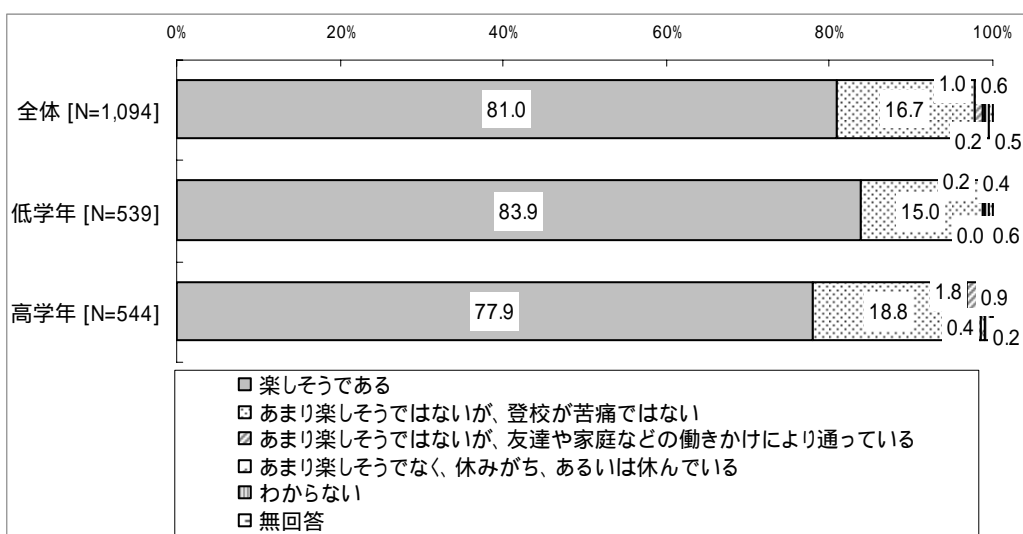
図表 II-254 子どもは学校に行くのが楽しそうか[N=1,133]



図表 II-255 (家族構成別) 子どもは学校に行くのが楽しそうか[N=1,133]

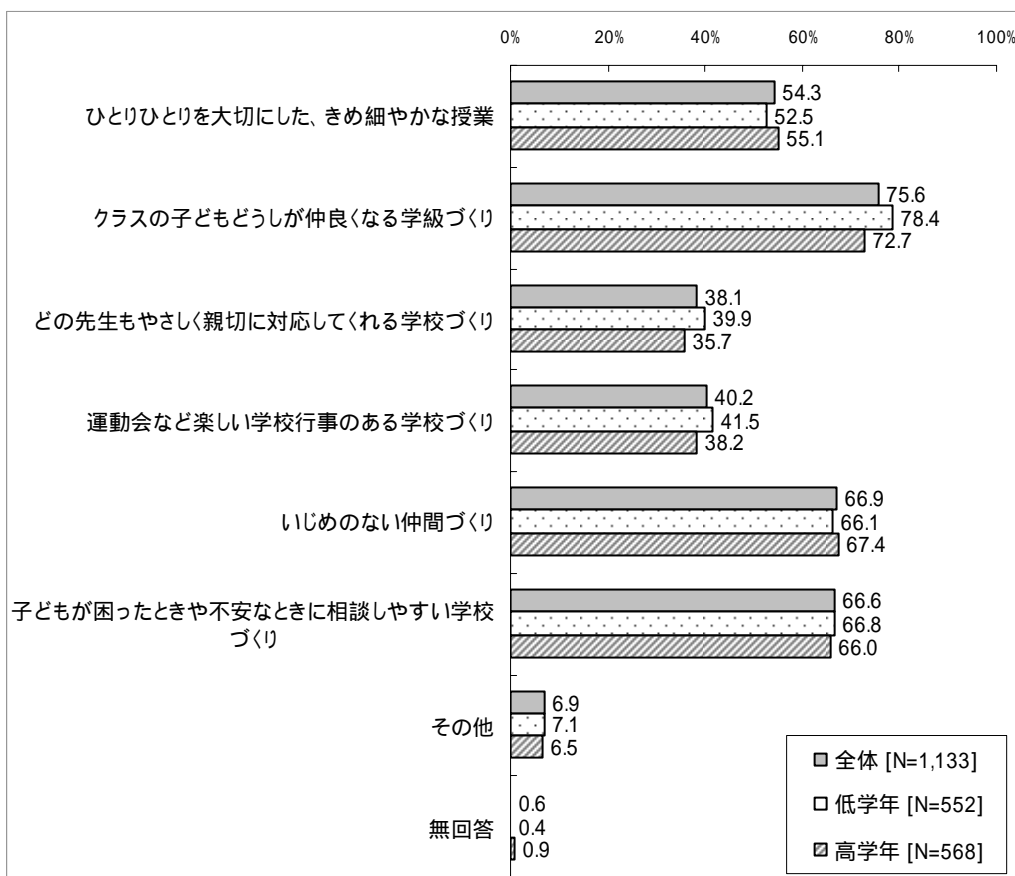


図表 II-256 (前回調査) 子どもは学校に行くのが楽しそうか[N=1,094]



学校をより楽しくするために必要な取り組みを聞いたところ、「クラスの子もどうしが仲良くなる学級づくり」(75.6%)、「いじめのない仲間づくり」(66.9%)、「子どもが困ったときや不安なときに相談しやすい学校づくり」(66.6%)の順に高い割合となっています。

図表 II-257 学校をより楽しくするために必要な取り組み[N=1,133 ; 複数回答]

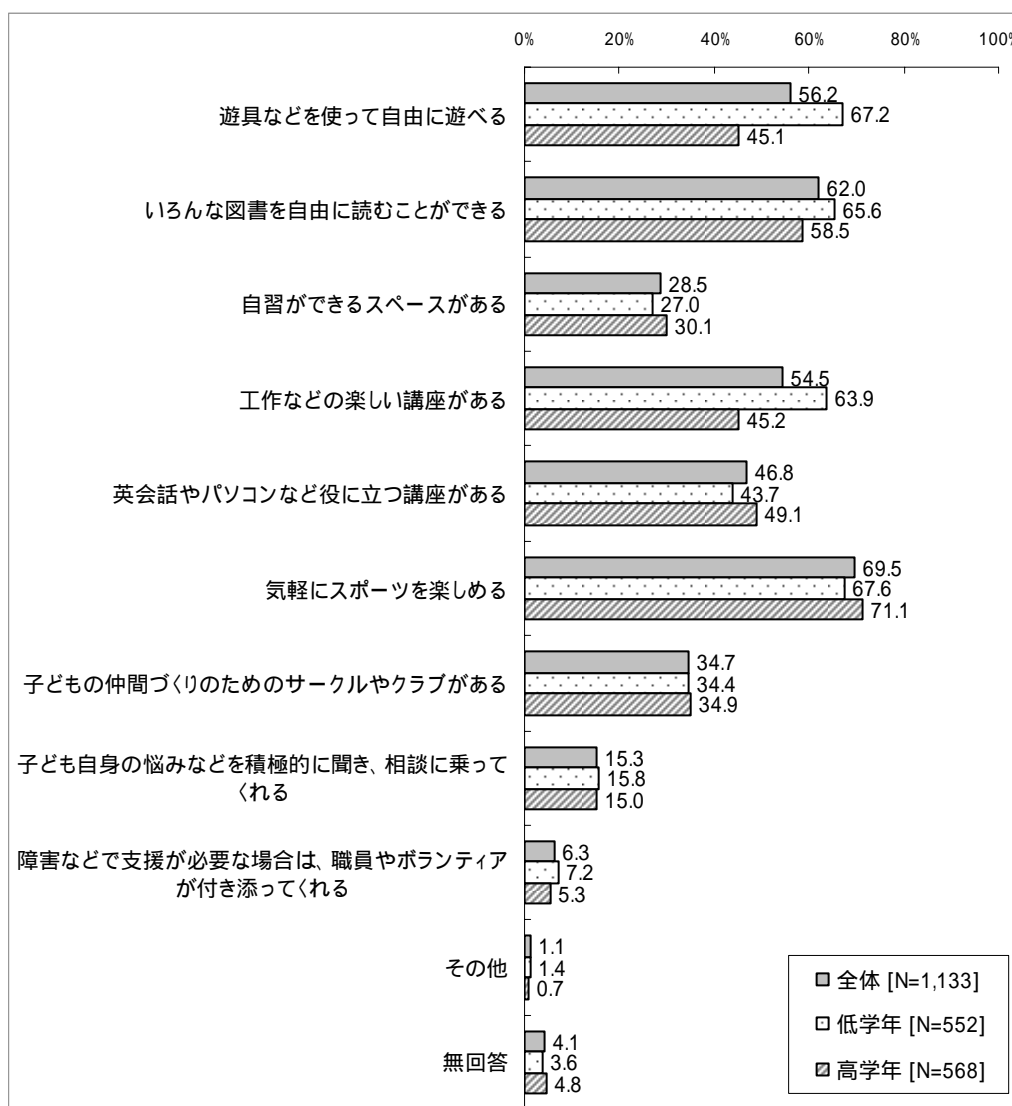


#### (4) 子どもの地域での様子

生涯学習施設、スポーツ施設、人権文化施設などで、子どもに利用させてみたいサービスや企画を聞いたところ、「気軽にスポーツを楽しめる」(69.5%)、「いろんな図書を自由に読むことができる」(62.0%)、「遊具などを使って自由に遊べる」(56.2%)、「工作などの楽しい講座がある」(54.5%)の順に高い割合となっています。

これを学年別に見ると、「遊具などを使って自由に遊べる」「工作などの楽しい講座がある」という人の割合は、低学年の方が高くなっています。

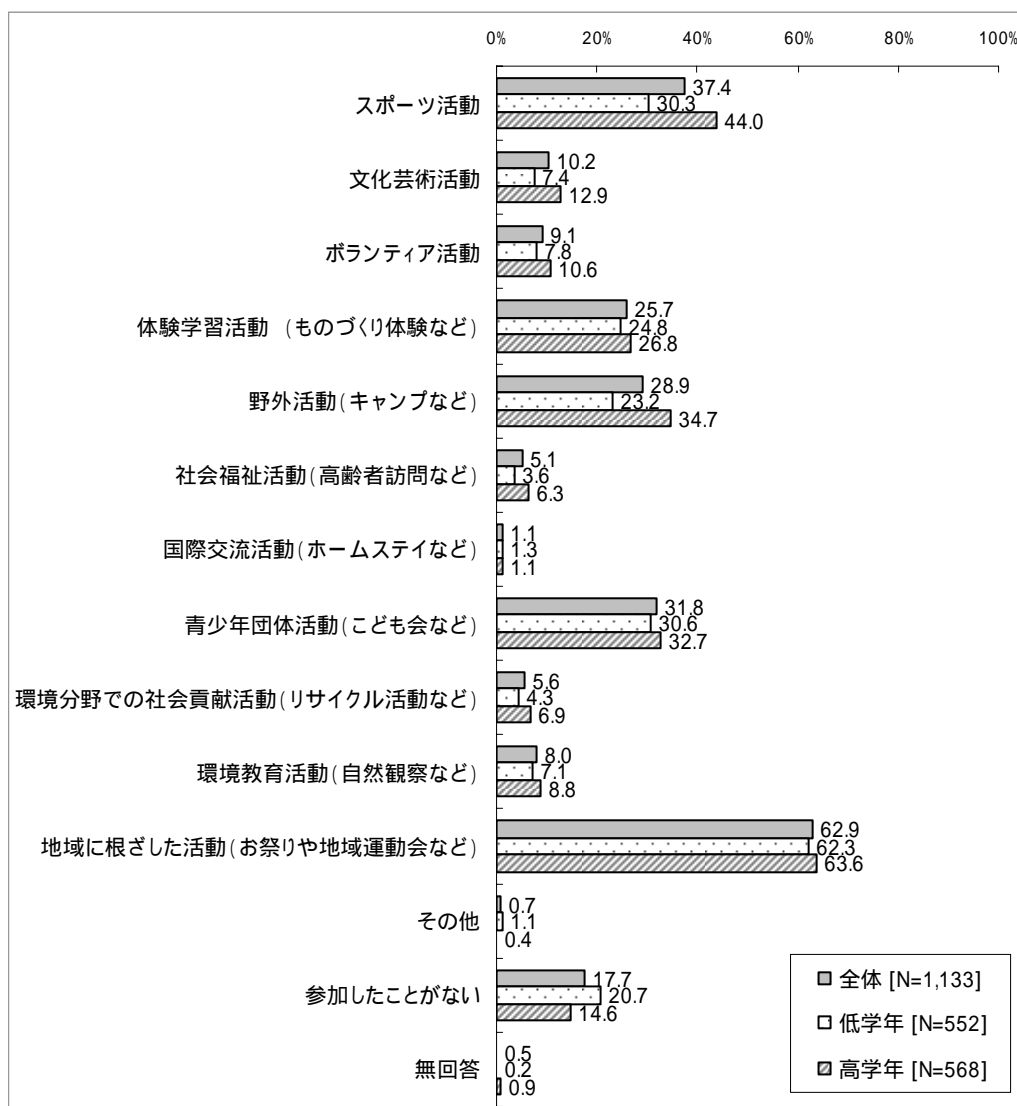
図表 II-258 生涯学習施設、スポーツ施設、人権文化施設などで、子どもに利用させてみたいサービスや企画[N=1,133；複数回答]



子どもの地域活動やグループ活動などへの参加経験を聞いたところ、「地域に根ざした活動（お祭りや地域運動会など）」の割合が最も高く 62.9%、次いで、「スポーツ活動」（37.4%）、「青少年団体活動（こども会など）」（31.8%）の順に高い割合となっています。

学年別に見ると、「スポーツ活動」「野外活動（キャンプなど）」という人の割合は、高学年の方が高くなっています。

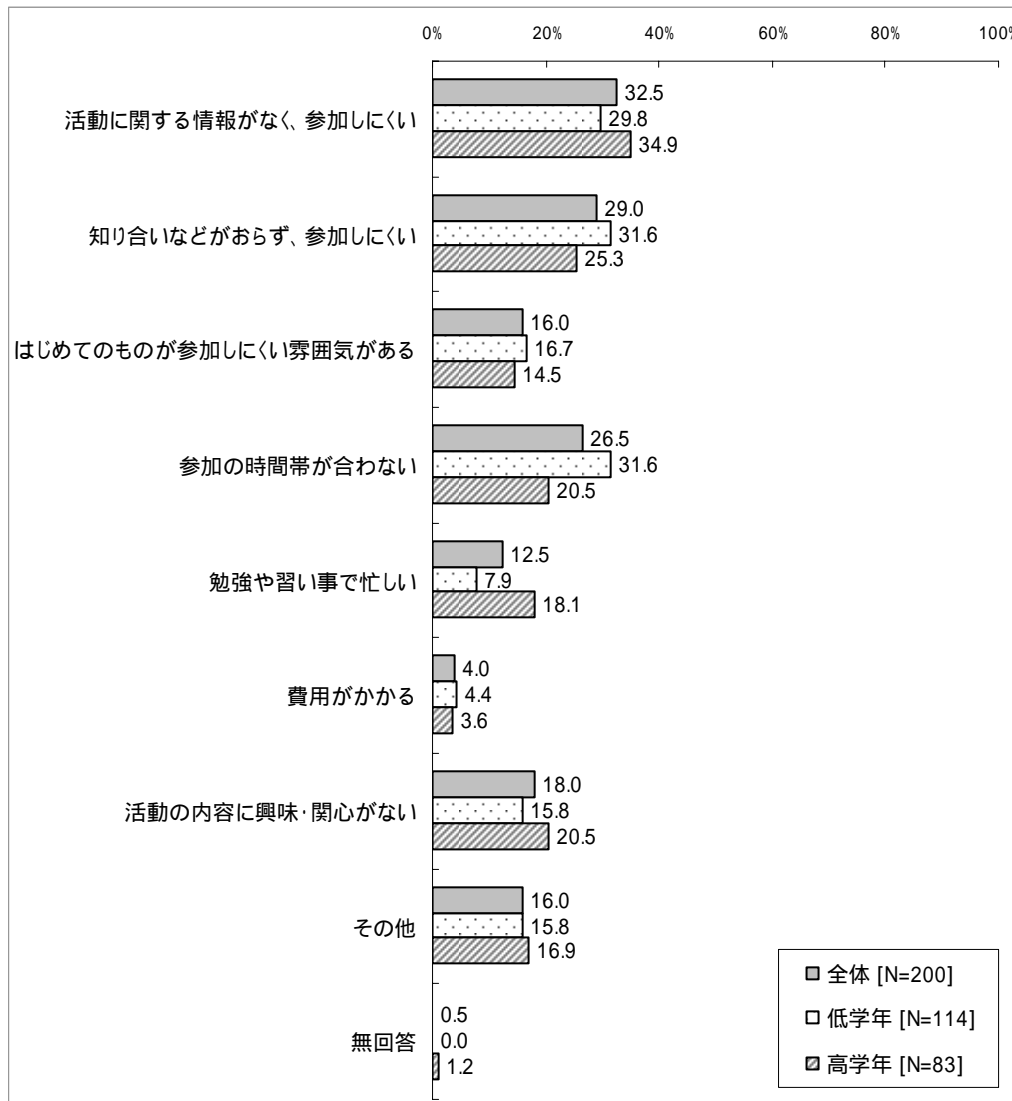
図表 II-259 子どもの地域活動やグループ活動などへの参加経験[N=1,133；複数回答]



子どもが地域活動やグループ活動に「参加したことがない」と回答した人に、その理由を聞いたところ、「活動に関する情報がなく、参加しにくい」(32.5%)、「知り合いなどがおらず、参加しにくい」(29.0%)、「参加の時間帯が合わない」(26.5%)の順に高い割合となっています。

これを学年別に見ると、「活動に関する情報がなく、参加しにくい」「勉強や習い事で忙しい」「活動の内容に興味・関心がない」という人の割合は、高学年の方が高くなっています。また、「知り合いなどがおらず、参加しにくい」「参加の時間帯が合わない」という人の割合は低学年の方が高くなっています。

図表 II-260 子どもが地域活動やグループ活動に参加していない理由[N=200 ; 複数回答]

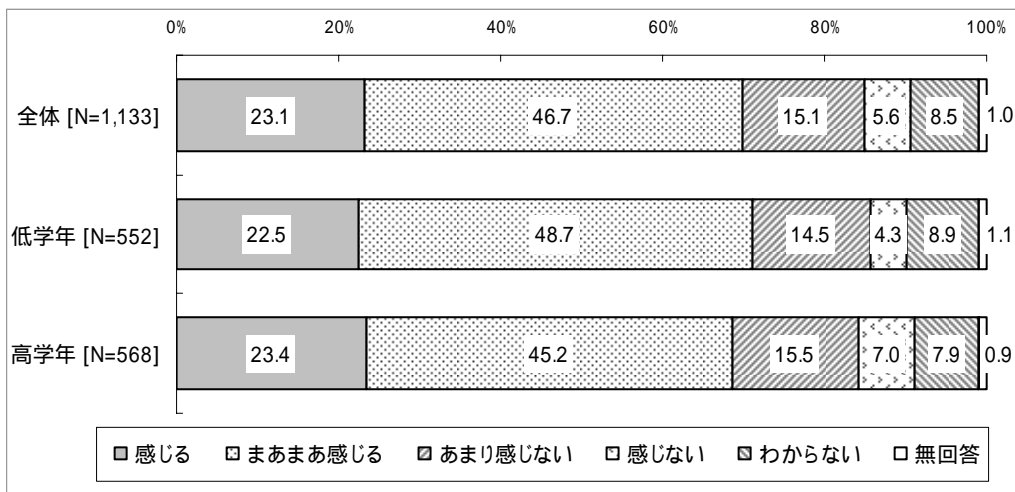


## (5) 現在の生活について

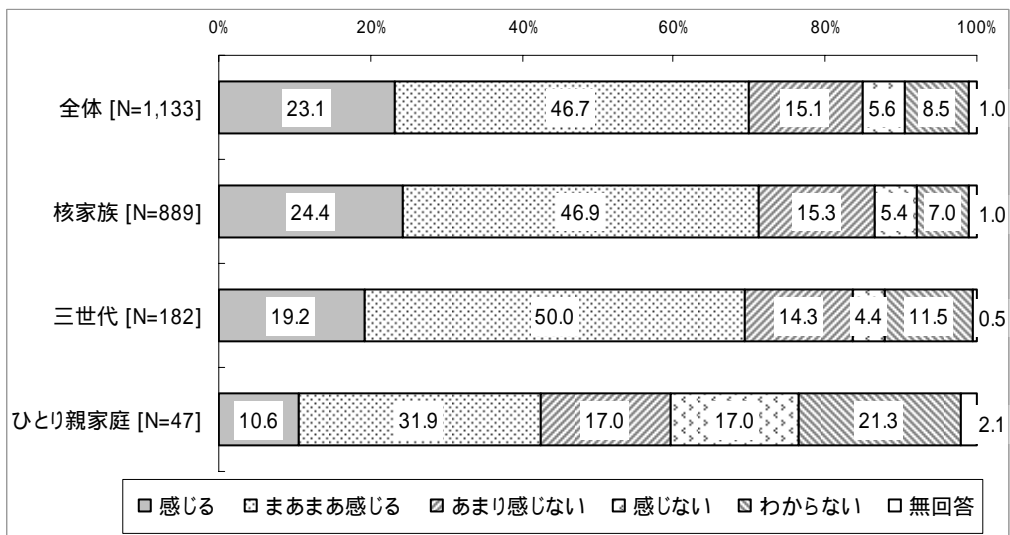
家庭において、『仕事と生活の調和』が図られていると感じるか聞いたところ、「まあまあ感じる」という人の割合が最も高く46.7%、次いで、「感じる」という人の割合が高く23.1%となっています。

これを家族構成別に見ると、「感じる」「まあまあ感じる」という人の割合は、ひとり親家庭で低くなっています。

図表 II-261 家庭において、『仕事と生活の調和』が図られていると感じるか[N=1,133]



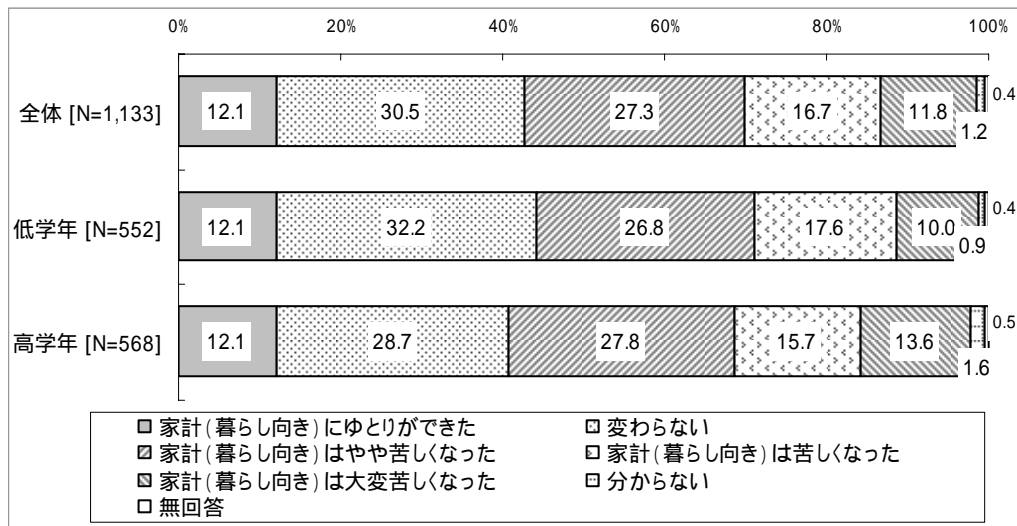
図表 II-262 (家族構成別) 家庭において、『仕事と生活の調和』が図られていると感じるか[N=1,133]



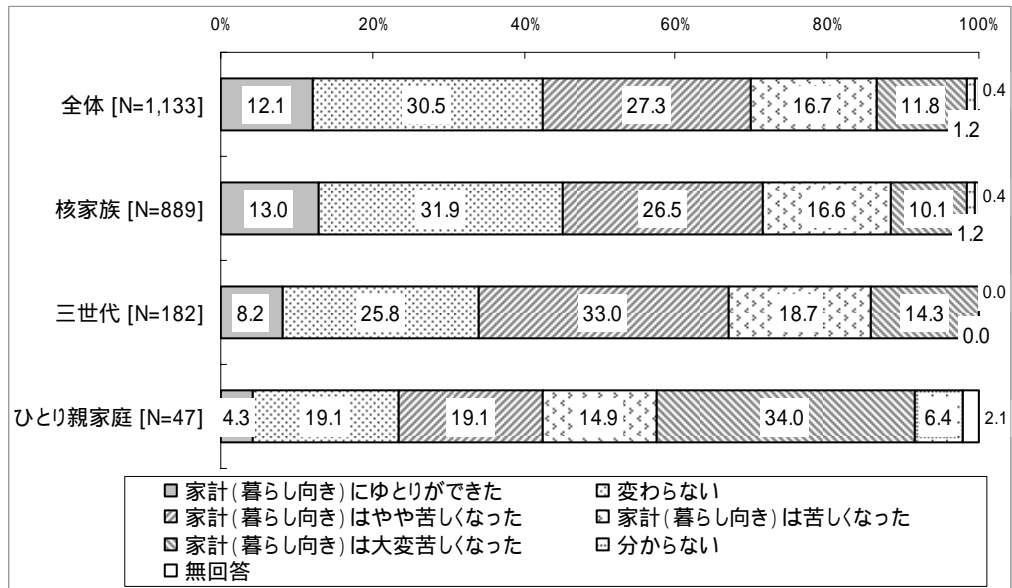
4～5年前と比べた家計の現状を聞いたところ、「変わらない」(30.5%)、「家計(暮らし向き)はやや苦しくなった」(27.3%)、「家計(暮らし向き)は苦しくなった」(16.7%)の順に高い割合となっています。

これを家族構成別に見ると、「家計(暮らし向き)は大変苦しくなった」という人の割合は、ひとり親家庭で高くなっています。

図表 II-263 4～5年前と比べた家計の現状[N=1,133]



図表 II-264 (家族構成別) 4～5年前と比べた家計の現状[N=1,133]



## 9. 子育て全般についての考え

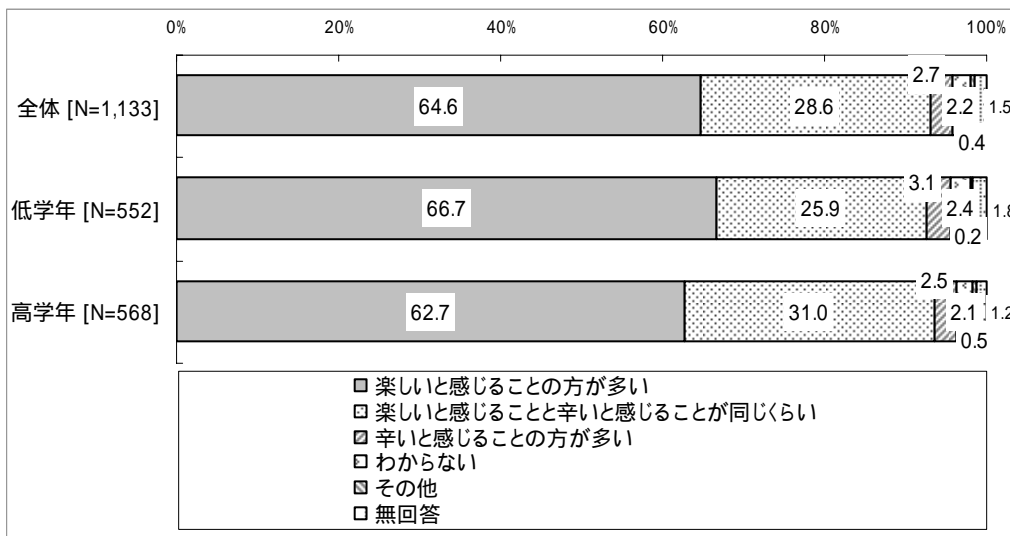
### (1) 子育てを楽しんでいることが多いか

子育てを楽しんでいることが多いかを聞いたところ、「楽しいと感じることの方が多い」という人の割合が最も高く64.6%、次いで、「楽しいと感じることと辛いと感じることが同じくらい」という人の割合が高く28.6%となっています。

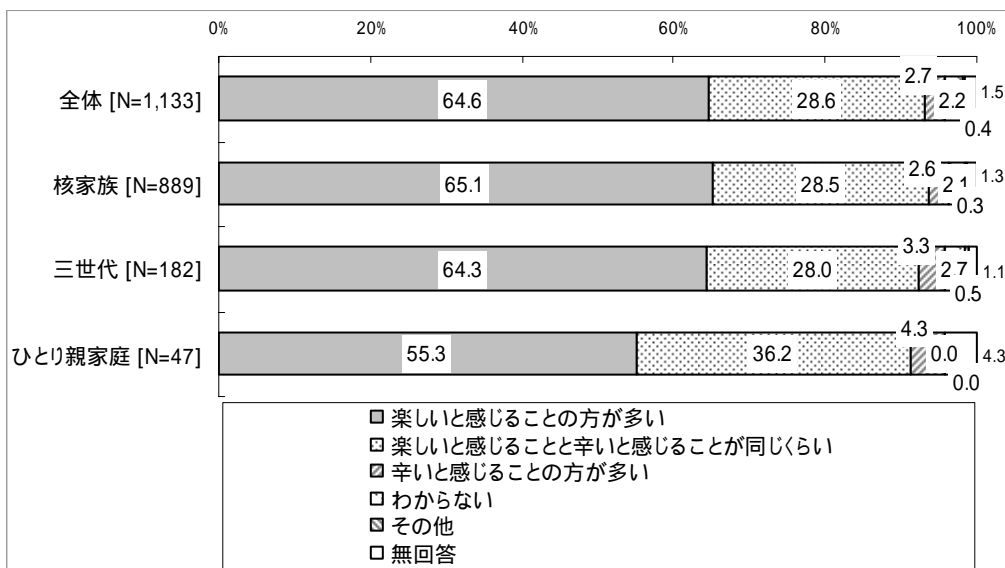
これを学年別に見ると、「楽しいと感じることの方が多い」という人の割合は、低学年で高くなっています。

また、家族構成別に見ると、「楽しいと感じることの方が多い」という人の割合は、ひとり親家庭で低くなっています。

図表 II-265 子育てを楽しんでいることが多いか[N=1,133]



図表 II-266 (家族構成別) 子育てを楽しんでいることが多いか[N=1,133]

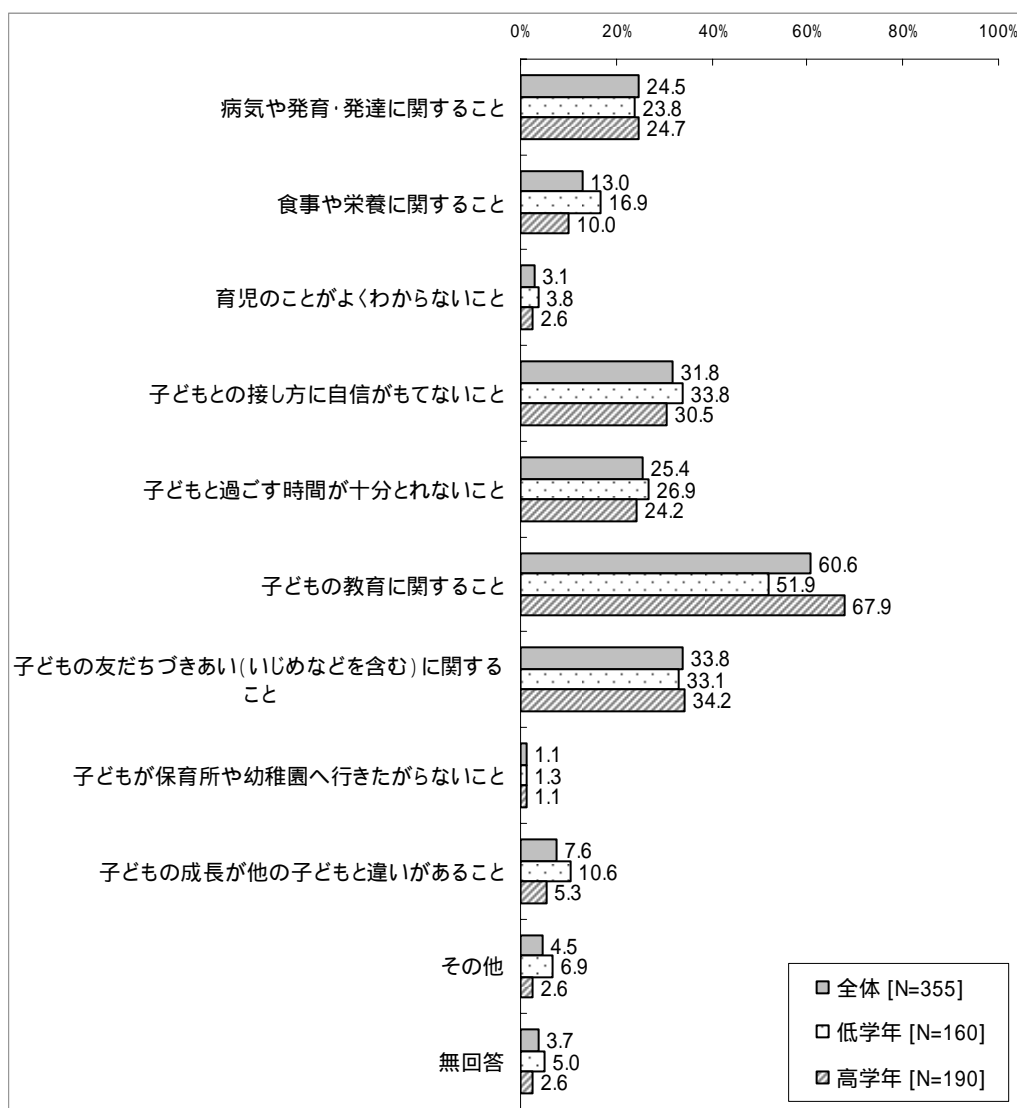




子育てについて、「楽しいと感じることと辛いと感じることが同じくらい」「辛いと感じることの方が多い」と回答した人に、子どもに関する日常の悩みごとを聞いたところ、「子どもの教育に関すること」という人の割合が最も高く60.6%、次いで、「子どもの友だちづきあい(いじめなどを含む)に関すること」(33.8%)、「子どもとの接し方に自信がもてないこと」(31.8%)の順に高い割合となっています。

これを学年別に見ると、「子どもの教育に関すること」という人の割合は、高学年の方が高くなっています。

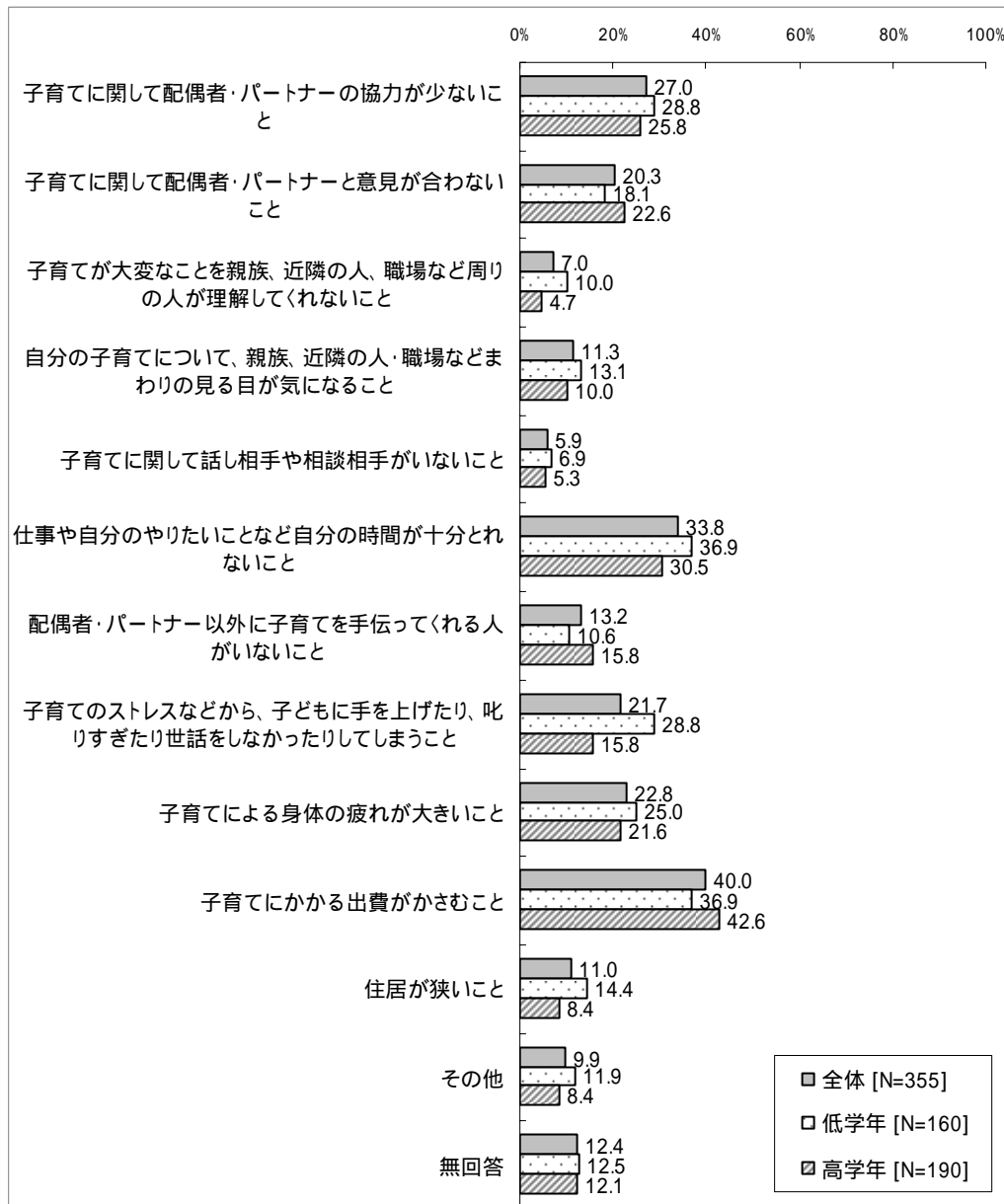
図表 II-267 子どもに関する日常の悩みごと[N=355；複数回答]



また、親の心身の状態に関する日常の悩みごとを聞いたところ、「子育てにかかる出費がかさむこと」(40.0%)、「仕事や自分のやりたいことなど自分の時間が十分とれないこと」(33.8%)の順に高い割合となっています。

これを学年別に見ると、「仕事や自分のやりたいことなど自分の時間が十分とれないこと」「子育てのストレスなどから、子どもに手を上げたり、叱りすぎたり世話をしなかつたりしてしまうこと」という人の割合は、低学年の方が高くなっています。「子育てにかかる出費がかさむこと」という人の割合は、高学年の方が高くなっています。

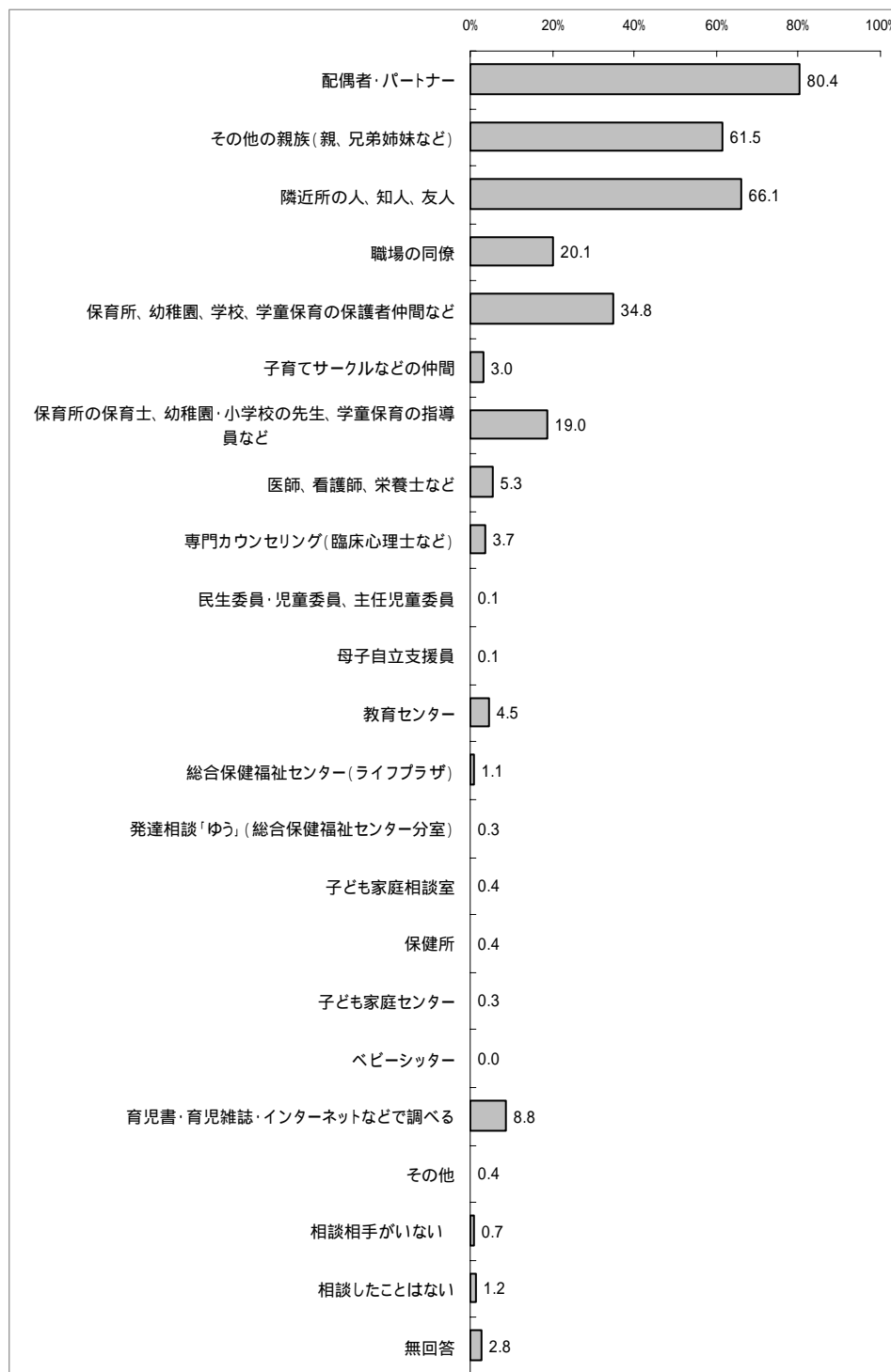
図表 II-268 親の心身の状態に関する日常の悩みごと[N=355；複数回答]



## (2) 子育てに関する相談相手

身近な地域での、子育ての相談相手を聞いたところ、「配偶者・パートナー」(80.4%)、「隣近所の人、知人、友人」(66.1%)、「その他の親族(親、兄弟姉妹など)」(61.5%)の順に高い割合となっています。

図表 II-269 身近な地域での子育ての相談相手[N=1,133；複数回答]

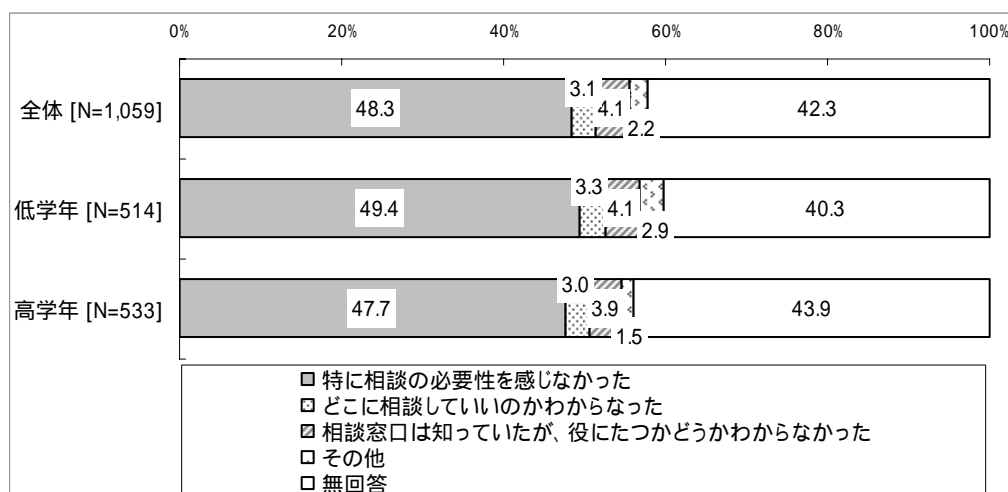


図表 II-270 (学年別) 身近な地域での子育ての相談相手[N=1,133 ; 複数回答]

	全体 [N=1,133]	低学年 [N=552]	高学年 [N=568]
配偶者・パートナー	80.4	82.4	78.9
その他の親族(親、兄弟姉妹など)	61.5	61.4	62.0
隣近所の人、知人、友人	66.1	65.6	66.7
職場の同僚	20.1	20.3	19.5
保育所、幼稚園、学校、学童保育の保護者仲間など	34.8	38.4	31.0
子育てサークルなどの仲間	3.0	3.1	2.8
保育所の保育士、幼稚園・小学校の先生、学童保育の指導員など	19.0	23.9	14.1
医師、看護師、栄養士など	5.3	6.3	3.7
専門カウンセリング(臨床心理士など)	3.7	4.2	3.3
民生委員・児童委員、主任児童委員	0.1	0.2	0.0
母子自立支援員	0.1	0.2	0.0
教育センター	4.5	4.5	4.4
総合保健福祉センター(ライフプラザ)	1.1	1.3	1.1
発達相談「ゆう」(総合保健福祉センター分室)	0.3	0.5	0.0
子ども家庭相談室	0.4	0.5	0.4
保健所	0.4	0.4	0.4
子ども家庭センター	0.3	0.2	0.4
ベビーシッター	0.0	0.0	0.0
育児書・育児雑誌・インターネットなどで調べる	8.8	9.8	7.9
その他	0.4	0.4	0.5
相談相手がない	0.7	0.5	0.9
相談したことはない	1.2	0.9	1.6
無回答	2.8	2.9	2.8

子育ての相談相手として、公的相談窓口、機関のいずれも回答しなかった人に、その理由を聞いたところ、「特に相談の必要性を感じなかった」という人の割合が最も高く48.3%となっています。

図表 II-271 公的相談窓口、機関に相談しない理由[N=1,059]

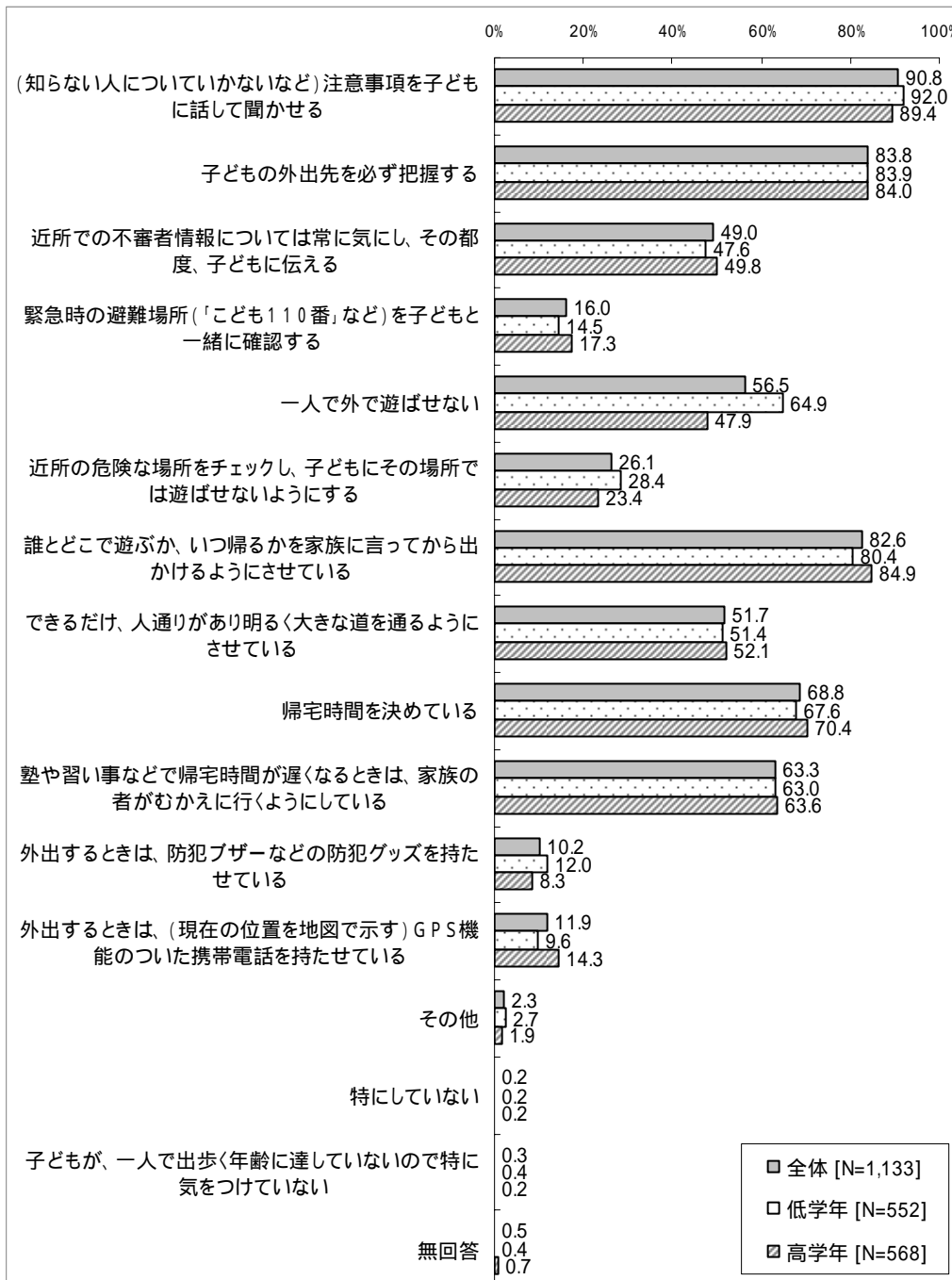


### (3) 子どもの安全対策

普段、子どもの安全対策として実施していることを聞いたところ、「(知らない人についていけないなど)注意事項を子どもに話して聞かせる」(90.8%)、「子どもの外出先を必ず把握する」(83.8%)、「誰とどこで遊ぶか、いつ帰るかを家族に言ってから出かけるようにさせている」(82.6%)の順に高い割合となっています。

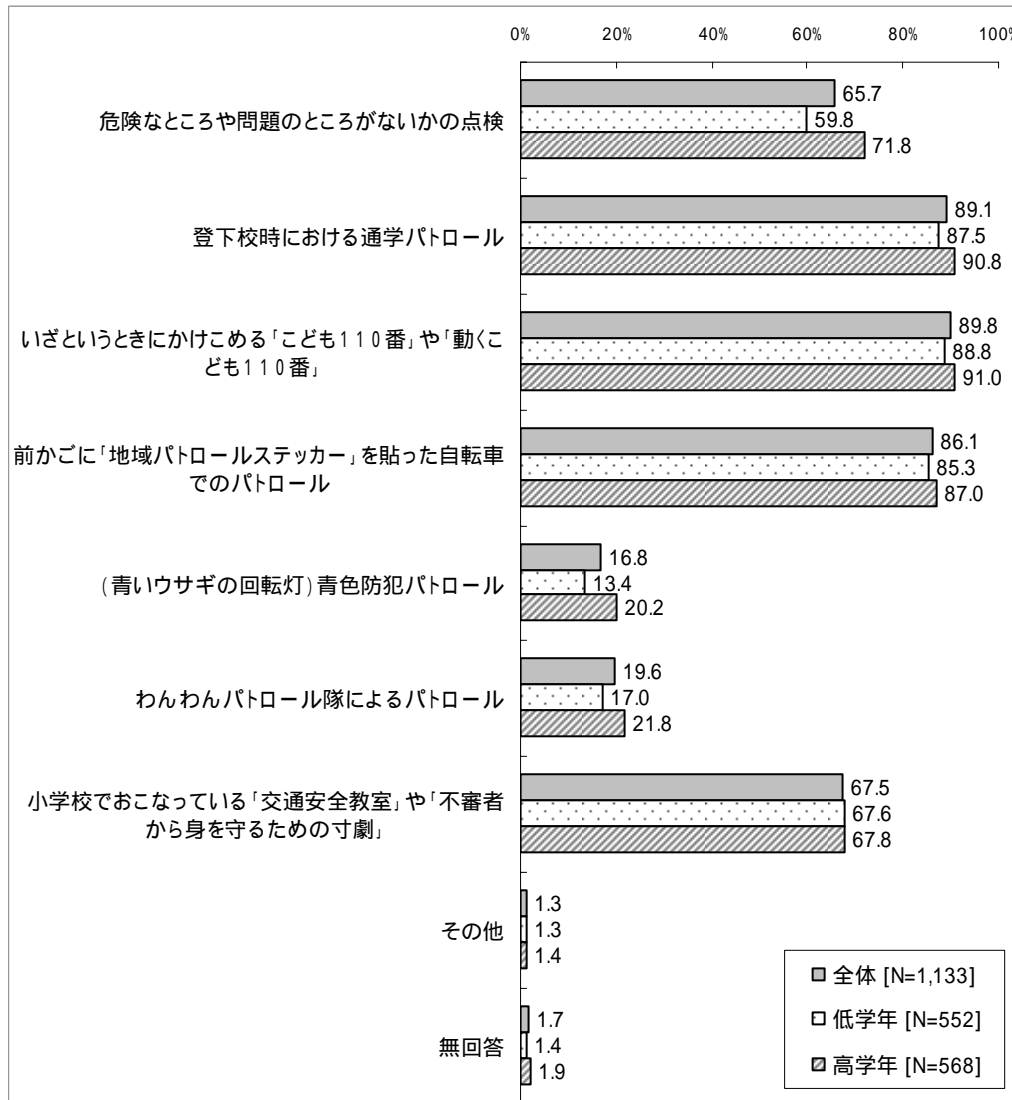
これを学年別に見ると、「一人で外で遊ばせない」という人の割合は、低学年の方が高くなっています。

図表 II-272 普段、子どもの安全対策として実施していること[N=1,133；複数回答]



箕面市の子どもを守るための取り組みで知っているものを聞いたところ、「いざというときかけこめる『こども110番』や『動くこども110番』」(89.8%)、「登下校時における通学パトロール」(89.1%)、「前かごに『地域パトロールステッカー』を貼った自転車でのパトロール」(86.1%)の順に高い割合となっています。

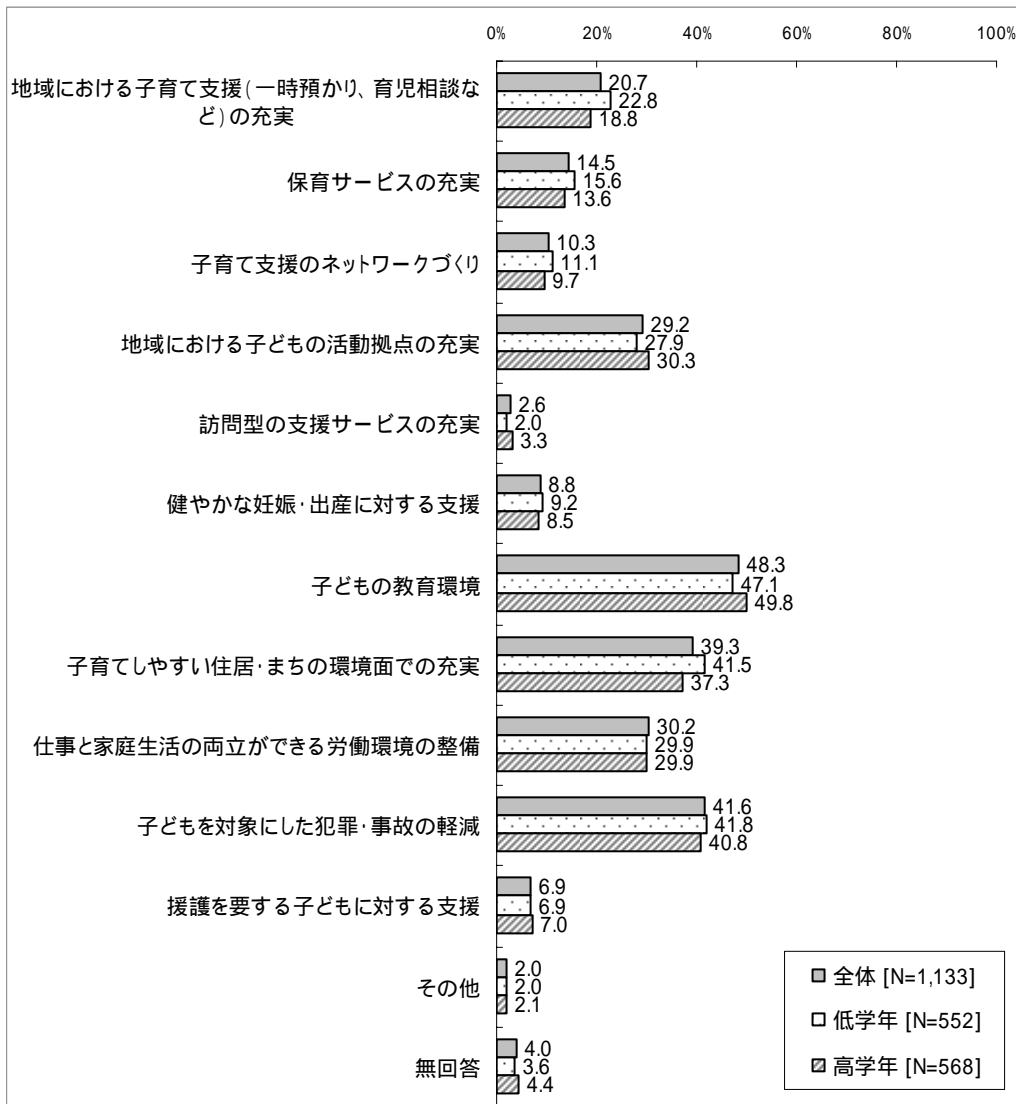
図表 II-273 箕面市の子どもを守るための取り組みで知っているもの[N=1,133；複数回答]



#### (4) 有効な子育て支援施策・対策、子どもに望むこと

子育てをする中で、有効と感じる施策・対策を聞いたところ、「子どもの教育環境」(48.3%)、「子どもを対象にした犯罪・事故の軽減」(41.6%)、「子育てしやすい住居・まちの環境面での充実」(39.3%)の順に高い割合となっています。

図表 II-274 子育てをする中で、有効と感じる施策・対策[N=1,133 ; 複数回答]

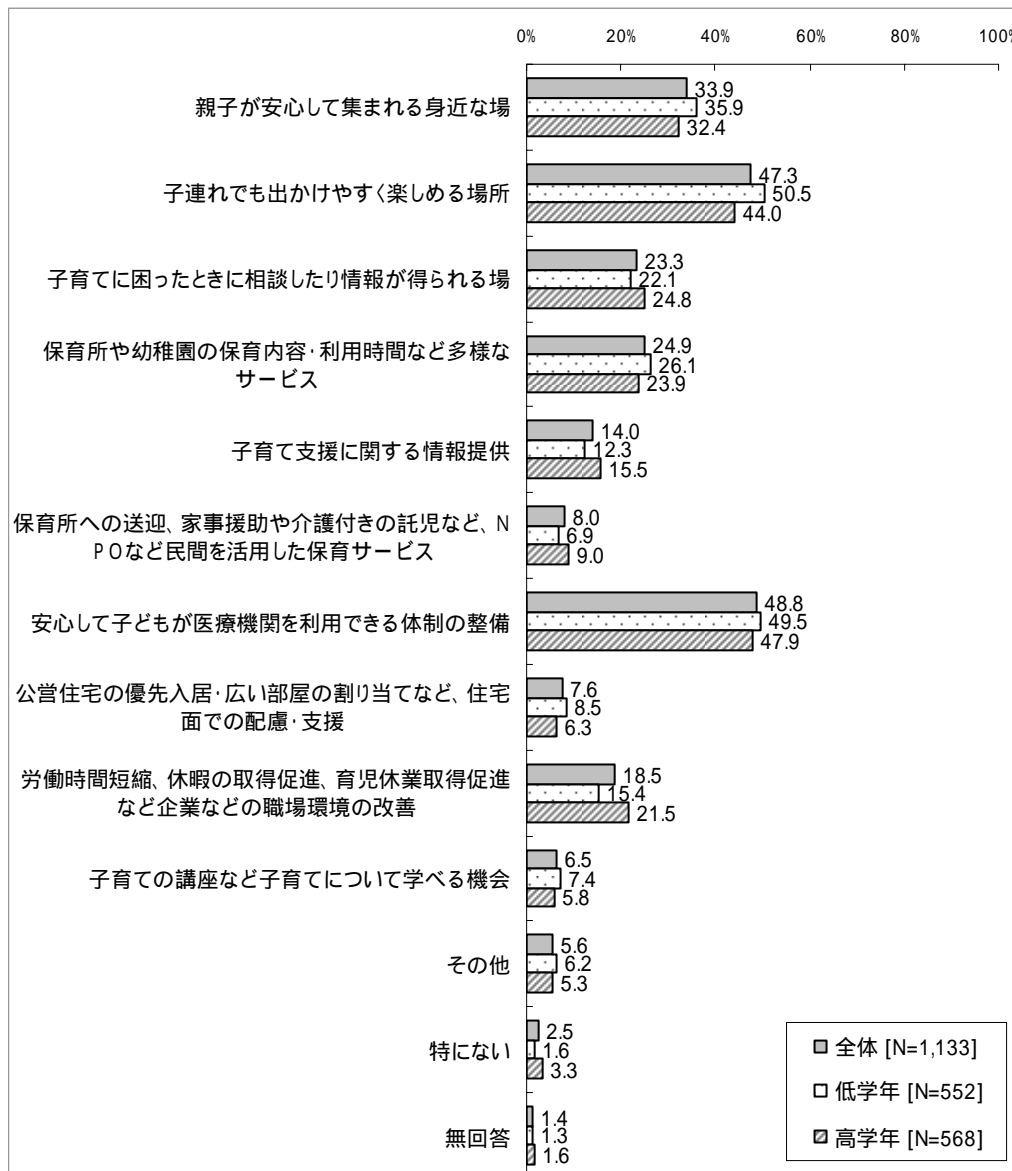


何が充実すれば、箕面市で子育てがしやすくなるか聞いたところ、「安心して子どもが医療機関を利用できる体制の整備」(48.8%)、「子連れでも出かけやすく楽しめる場所」(47.3%)、「親子が安心して集まれる身近な場所」(33.9%)の順に高い割合となっています。

これを学年別に見ると、「子連れでも出かけやすく楽しめる場所」という人の割合は、低学年の方が高く、「労働時間短縮、休暇の取得促進、育児休業取得促進など企業などの職場環境の改善」という人の割合は、高学年の方が高くなっています。

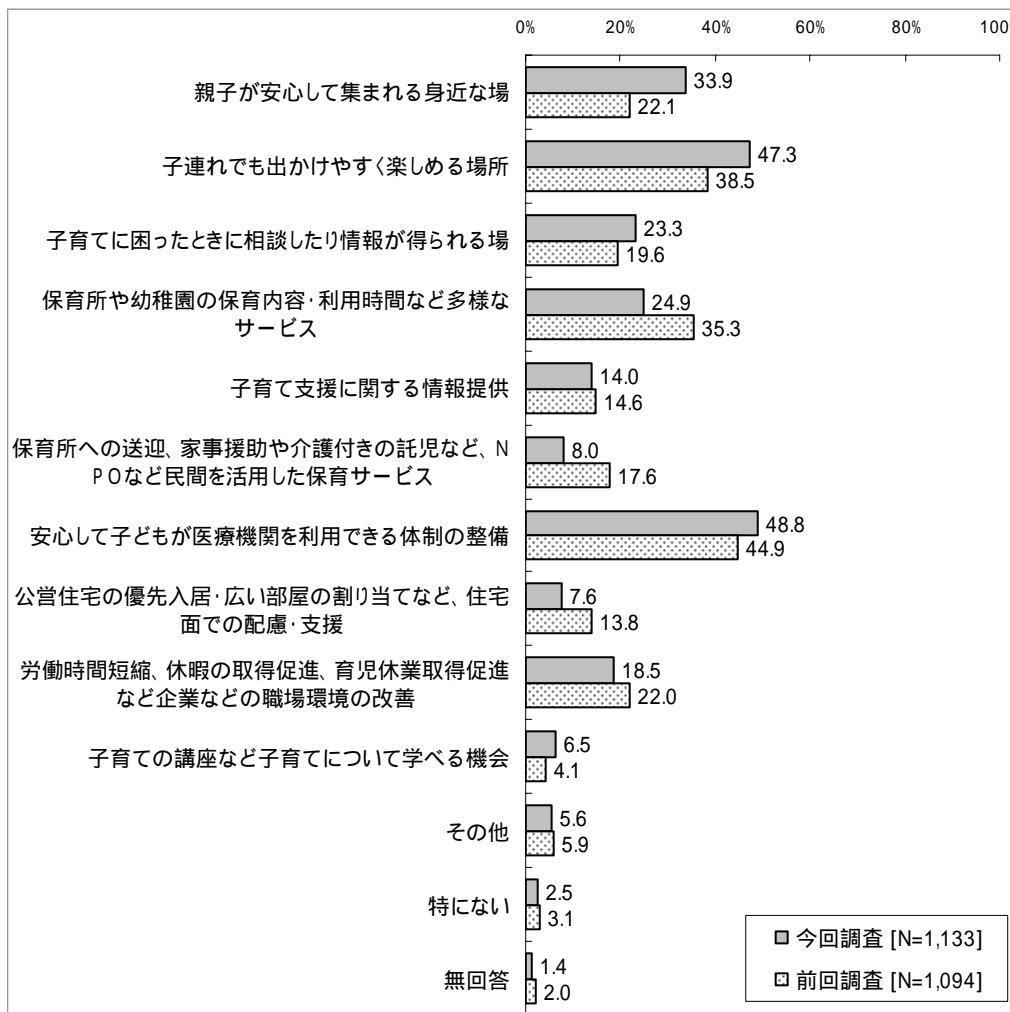
また、前回調査と比較すると、「親子が安心して集まれる身近な場」「子連れでも出かけやすく楽しめる場所」「安心して子どもが医療機関を利用できる体制の整備」という人の割合が上昇しています。一方、「保育所や幼稚園の保育内容・利用時間など多様なサービス」「保育所への送迎、家事援助や介護付きの託児など、NPOなど民間を活用した保育サービス」という人の割合は低下しています。

図表 II-275 箕面市で子育てをする上で、何が充実すれば子育てがしやすくなるか[N=1,133 ; 複数回答]



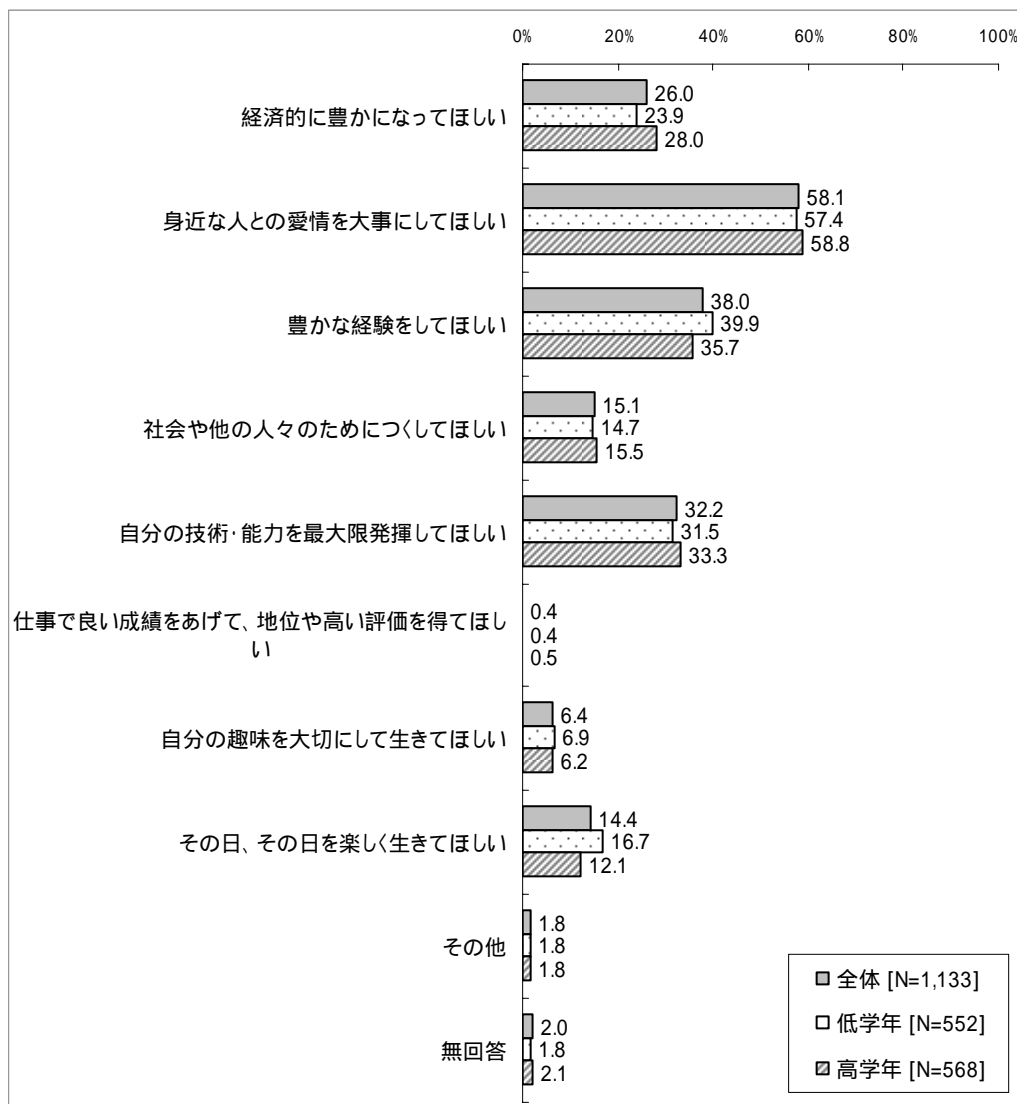


図表 II-276 (前回調査との比較) 箕面市で子育てをする上で、何が充実すれば子育てがしやすくなるか[複数回答]



将来、子どもが自立したとき、どのような暮らし方をしてほしいと思うか聞いたところ、「身近な人との愛情を大事にしてほしい」という人の割合が最も高く58.1%、次いで、「豊かな経験をしてほしい」(38.0%)、「自分の技術・能力を最大限発揮してほしい」(32.2%)の順に高い割合となっています。

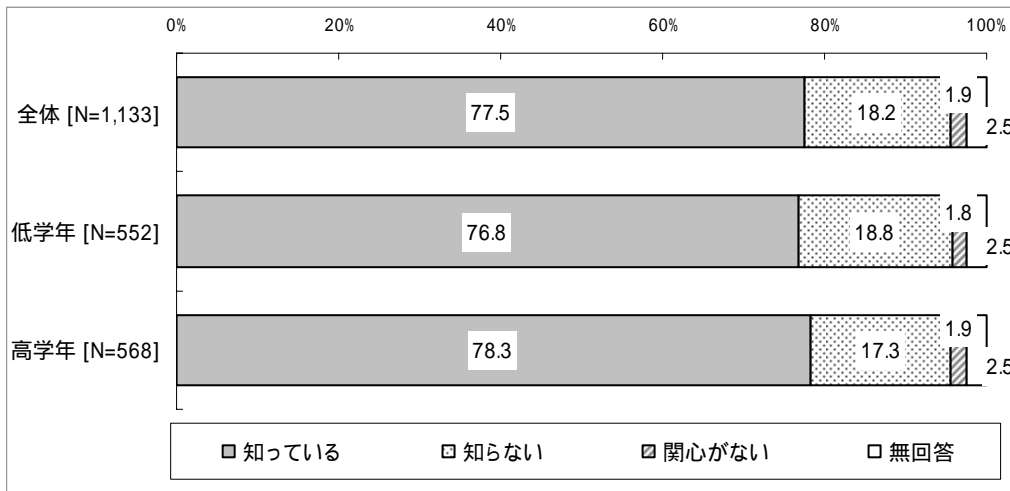
図表 II-277 将来、子どもが自立したとき、どのような暮らし方をしてほしいか[N=1,133 ; 複数回答]



## 10 . 小中一貫教育の取り組み

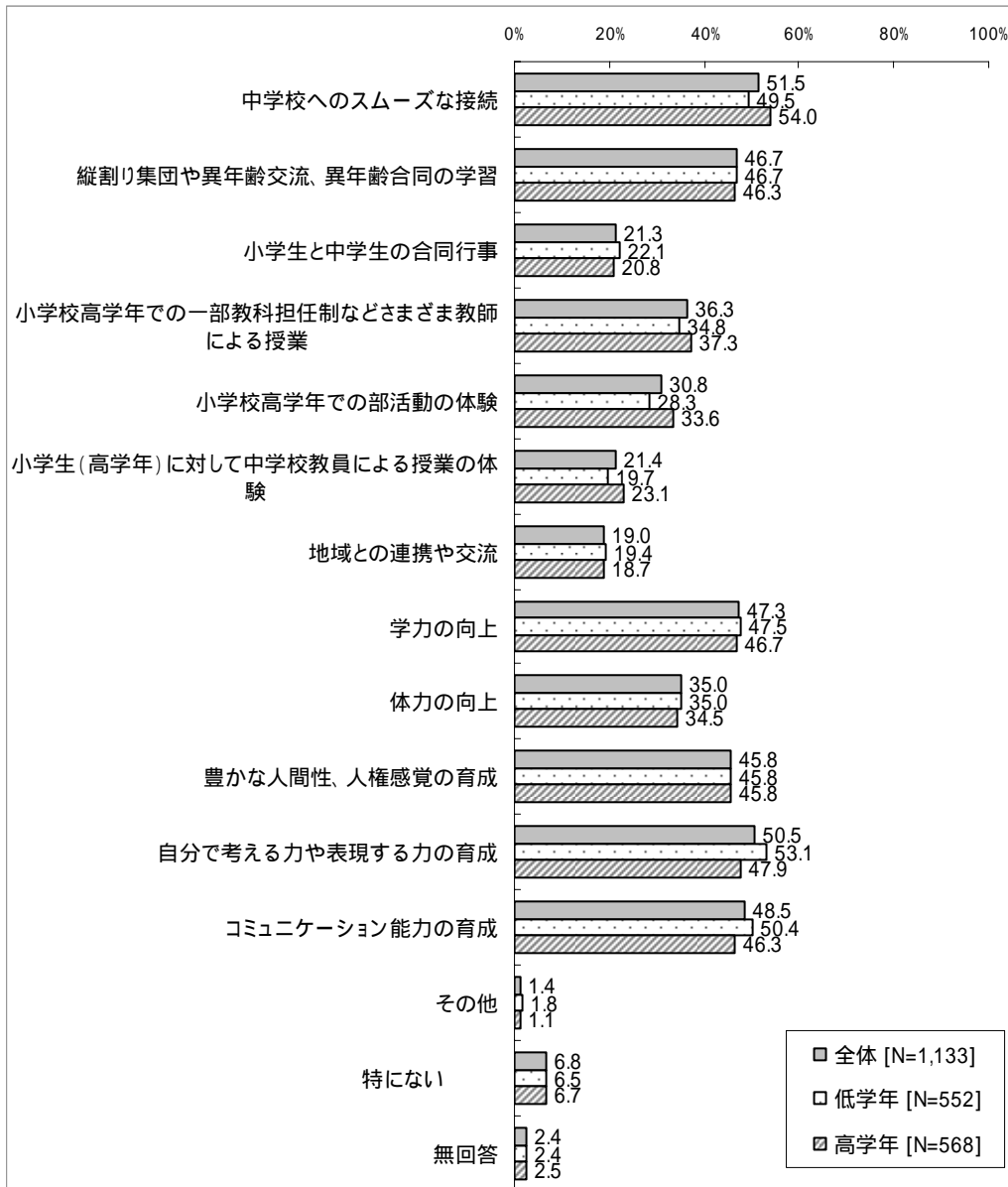
箕面市が全市で小中一貫教育の取り組みを進めていることを知っているか聞いたところ、「知っている」という人が77.5%、「知らない」という人が18.2%となっています。

図表 II-278 箕面市における小中一貫教育の取り組みの認知状況[N=1,133]



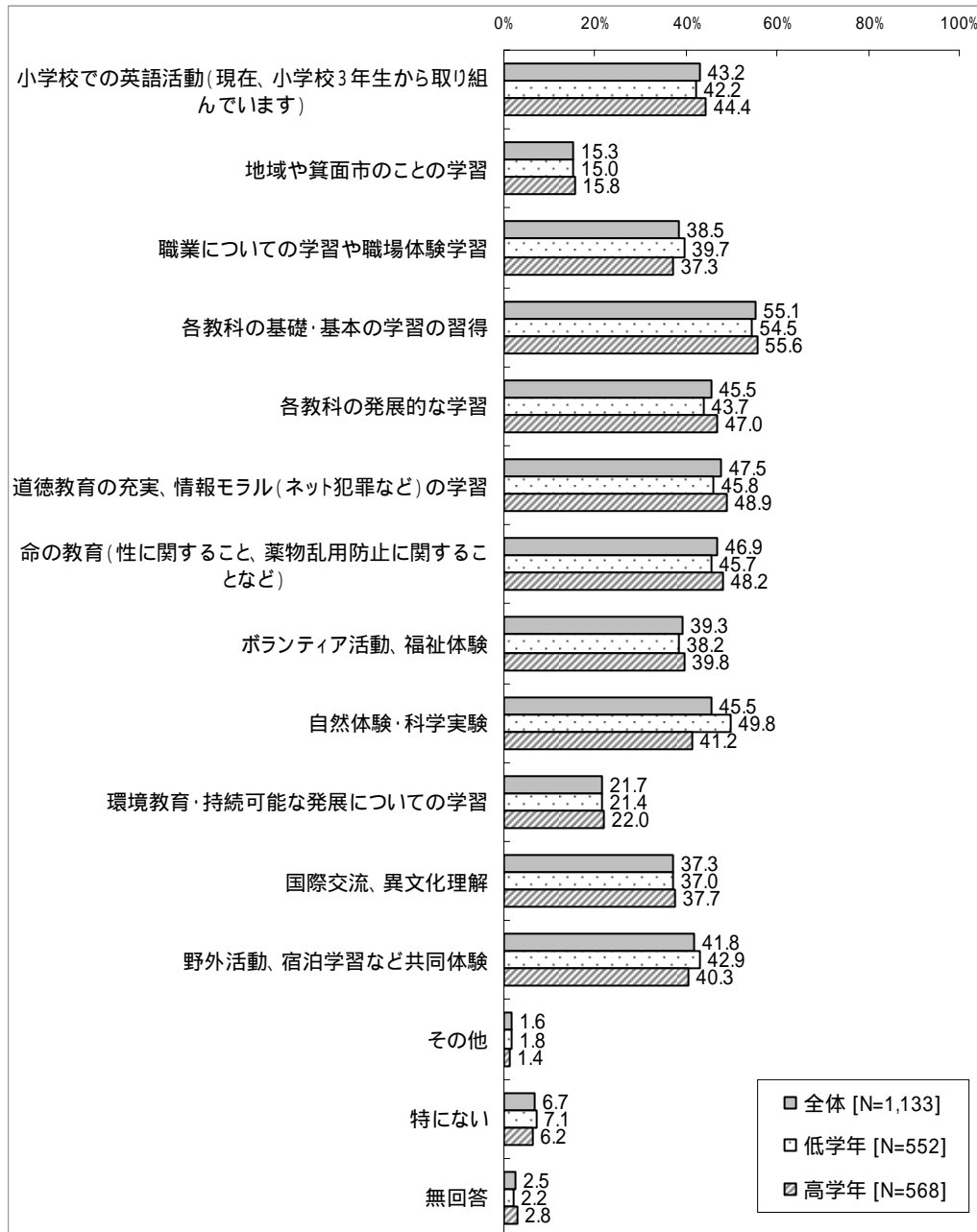
小中一貫教育に期待することを聞いたところ、「中学校へのスムーズな接続」(51.5%)、「自分で考える力や表現する力の育成」(50.5%)、「コミュニケーション能力の育成」(48.5%)の順に高い割合となっています。

図表 II-279 小中一貫教育に期待すること[N=1,133 ; 複数回答]



小中一貫教育の教育内容に望むことを聞いたところ、「各教科の基礎・基本の学習の習得」(55.1%)、「道徳教育の充実、情報モラル(ネット犯罪など)の学習」(47.5%)、「命の教育(性に関すること、薬物乱用防止に関することなど)」(46.9%)の順に高い割合となっています。

図表 II-280 小中一貫教育の教育内容に望むこと [N=1,133 ; 複数回答]



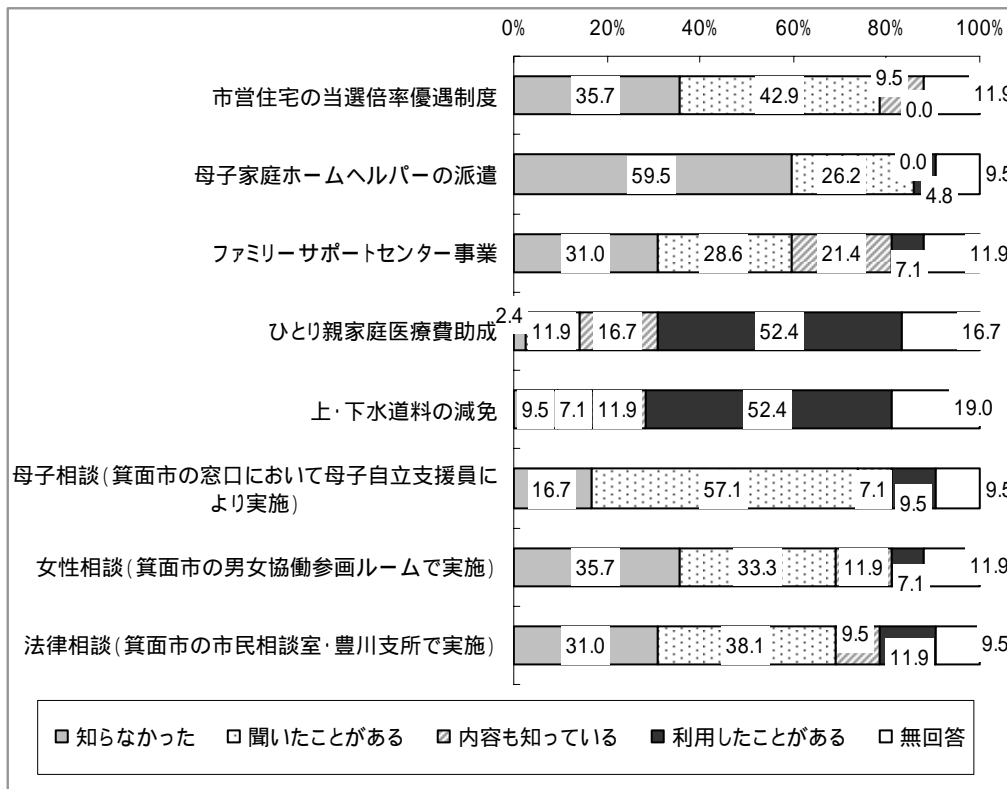
# 1 1 . 母子世帯の制度・施策の認知度・利用度・利用意向

## ( 1 ) 母子世帯の制度・施策の認知度・利用度

「聞いたことがある」「内容も知っている」「利用したことがある」をあわせて認知度をみると、「ひとり親家庭医療費助成」「上・下水道の減免」「母子相談」は認知度が高く7～8割となっています。また、「母子家庭ホームヘルパーの派遣」は「知らなかった」という人の割合が59.5%と認知度がやや低くなっています。

「利用したことがある」という人の割合から利用度を見ると、認知度の高い「ひとり親家庭医療費助成」「上・下水道の減免」では利用度が高く約5割となっています。その他については、利用度は1割以下となっています。「母子相談」「女性相談」「法律相談」は認知度が5～7割であるのに対し、利用度は1割以下にとどまっています。

図表 II-281 母子世帯の制度・施策の認知度・利用度[N=42]



## ( 2 ) 母子世帯の制度・施策の利用意向

利用意向を見ると、「上・下水道の減免」( 57.1% )、「ひとり親家庭医療費助成」( 50.0% )  
では利用意向が高くなっています。

図表 II-282 母子世帯の制度・施策の利用意向[N=42]

